

基本計画書

基本計画書								
事項	記入欄						備考	
計画の区分	研究科の専攻の設置							
フリガナ設置者	コクリツダイガクホウジントウカイコクリツダイガクキコウ 国立大学法人東海国立大学機構							
フリガナ大学の名称	ギフダイガクダイガクイン 岐阜大学大学院 (The Graduate school of Gifu University)							
大学本部の位置	岐阜県岐阜市柳戸1番1							
大学の目的	<p>独創的かつ先進的研究の拠点として、知の創造と統合に努めるとともに、高度な教育を通してそれを継承発展させ、豊かな人間性と学識を養い、判断力と実行力及び構想力に富む人材の育成を行い、もって地域社会と人類の発展に貢献することを目的とする。</p>							
新設学部等の目的	<p>岐阜県内唯一の教職大学院及び地域創世の中核拠点として、以下の高度専門職業人を養成することを目指し、教育学研究科の改組を行う。</p> <p>1) 幅広い領域でより深い実践的指導力を身につけた学校教員 2) 学校現場で即戦力となるスクールカウンセラー</p>							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	計	年	人	年次人	人	教職修士（専門職） (Master of Education (Professional))	年月 第 年次 令和4年4月 第1年次	岐阜県岐阜市柳戸1番1
	教育学研究科 (Graduate School of Education) 教職実践開発専攻 (Teacher Education Course)	2	40	-	80			基礎となる学部 教育学部 大学院設置基準第14条における特例を実施 教職大学院
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>(岐阜大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部 医学科〔定員減〕(△25) (令和4年4月)※ ・教育学研究科 教職実践開発専攻 (P) (廃止) (△25) ※令和4年4月学生募集停止 心理発達支援専攻 (M) (廃止) (△10) ※令和4年4月学生募集停止 総合教科教育専攻 (M) (廃止) (△34) ※令和4年4月学生募集停止 教育臨床心理学専攻 (M) (5) (令和3年4月事前相談) <p>(名古屋大学)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学研究科 理学専攻 (M) (188) (令和3年4月事前相談) 理学専攻 (D) (70) (令和3年4月事前相談) 素粒子宇宙物理学専攻 (M) (廃止) (△66) 素粒子宇宙物理学専攻 (D) (廃止) (△30) ※令和4年4月学生募集停止 物質理学専攻 (M) (廃止) (△63) 物質理学専攻 (D) (廃止) (△22) ※令和4年4月学生募集停止 生命理学専攻 (M) (廃止) (△42) 生命理学専攻 (D) (廃止) (△18) ※令和4年4月学生募集停止 <ul style="list-style-type: none"> ・医学部 医学科〔定員減〕(△7) (令和4年4月)※ (2年次編入学定員) (4) (令和3年概算要求予定) (3年次編入学定員) (△5) ※3年次編入学定員は令和4年4月学生募集停止 <ul style="list-style-type: none"> ・工学研究科 名古屋大学・チュラロンコン大学国際連携サステナブル材料工学専攻 (D) (3) (令和3年8月意見伺い予定) 材料デザイン工学専攻 (D) (△1) 物質プロセス工学専攻 (D) (△1) 化学システム工学専攻 (D) (△1) 						※臨時定員増の延長がない場合	

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	教職実践開発専攻 (P)	111 科目	43 科目	12 科目	166 科目	46 単位		
教	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
設	教育学研究科 教職実践開発専攻 (P)	人	人	人	人	人	人	人
		25 (25)	23 (23)	0 (0)	2 (2)	50 (50)	0 (0)	35 (35)
分	教育学研究科 教育臨床心理学専攻 (M)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	7 (7)
		計	28 (28)	26 (26)	0 (0)	2 (2)	56 (56)	0 (0)
員	地域科学研究科 地域政策専攻 (M)	6 (6)	10 (10)	0 (0)	1 (0)	17 (16)	0 (0)	0 (0)
		10 (10)	3 (3)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
組	医学系研究科 医科学専攻 (4年制D)	34 (34)	29 (29)	6 (6)	33 (33)	102 (102)	0 (0)	118 (118)
		7 (7)	11 (11)	0 (0)	11 (11)	29 (29)	1 (1)	13 (13)
の	医学系研究科 医療者教育学専攻 (M)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	9 (9)	18 (18)	0 (0)	30 (30)
		73 (73)	56 (56)	0 (0)	0 (0)	129 (129)	0 (0)	0 (0)
設	工学研究科 工学専攻 (D)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	2 (2)
		11 (11)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	2 (2)
の	自然科学技術研究科 生命科学・化学専攻 (M)	27 (27)	18 (18)	0 (0)	12 (12)	57 (57)	0 (0)	64 (64)
		21 (21)	23 (23)	0 (0)	9 (9)	53 (53)	0 (0)	60 (60)
概	自然科学技術研究科 生物生産環境科学専攻 (M)	15 (15)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	25 (25)	0 (0)	30 (30)
		17 (17)	12 (12)	0 (0)	12 (12)	41 (41)	0 (0)	45 (45)
要	自然科学技術研究科 物質・ものづくり工学専攻 (M)	19 (19)	23 (23)	0 (0)	10 (10)	52 (52)	0 (0)	61 (61)
		18 (18)	16 (16)	0 (0)	12 (12)	46 (46)	0 (0)	44 (44)
分	自然科学技術研究科 知能理工学専攻 (M)	14 (14)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
		15 (15)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	24 (24)	0 (0)	0 (0)
の	共同獣医学研究科 共同獣医学専攻 (4年制D)	20 (20)	15 (15)	0 (0)	5 (5)	40 (40)	0 (0)	16 (16)
		17 (17)	21 (21)	0 (0)	6 (6)	44 (44)	0 (0)	16 (16)
概	連合農学研究科 生物生産科学専攻 (D)	31 (31)	20 (20)	0 (0)	9 (9)	60 (60)	0 (0)	16 (16)
		17 (17)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	5 (5)
要	連合農学研究科 生物環境科学専攻 (D)	9 (9)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	15 (15)	0 (0)	26 (26)
		7 (7)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	26 (26)
分	連合農学研究科 生物資源科学専攻 (D)	189 (189)	162 (162)	7 (7)	103 (102)	461 (460)	1 (1)	- (-)
		217 (217)	188 (188)	7 (7)	105 (104)	517 (516)	1 (1)	- (-)
教員以外の職員	職 種		専 任		兼 任		計	
	事 務 職 員		332人 (332)		357人 (357)		689人 (689)	
	技 術 職 員		1,132 (1,132)		259 (259)		1,391 (1,391)	
	図 書 館 専 門 職 員		7 (7)		0 (0)		7 (7)	

令和3年4月事前相談

への概要	その他の職員		0 (0)	77 (77)	77 (77)					
	計		1,471 (1,471)	693 (693)	2,164 (2,164)					
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
	校舎敷地	241,445㎡	0㎡	0㎡	241,445㎡					
	運動場用地	90,589㎡	0㎡	0㎡	90,589㎡					
	小計	332,034㎡	0㎡	0㎡	332,034㎡					
	その他	6,865,689㎡	11,711㎡	0㎡	6,877,400㎡					
	合計	7,197,723㎡	11,711㎡	0㎡	7,209,434㎡					
校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計					
		196,992㎡ (196,992㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	196,992㎡ (196,992㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	97室	67室	575室	8室 (補助職員0人)	3室 (補助職員0人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室数						
		教職実践開発専攻 (P)		50 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため、 大学全体の数		
	教職実践開発専攻	914,427 [304,183] (914,427 [304,183])	16,923 [5,682] (16,923 [5,682])	6,988 [5,567] (6,988 [5,567])	3,181 (3,181)	11,204 (11,204)	2,230 (2,230)			
	計	914,427 [304,183] (914,427 [304,183])	16,923 [5,682] (16,923 [5,682])	6,988 [5,567] (6,988 [5,567])	3,181 (3,181)	11,204 (11,204)	2,230 (2,230)			
図書館		面積		閲覧席数	収納可能冊数		大学全体			
		9,157㎡		699	959,584					
体育館		面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		4,616㎡		弓道場、プール、陸上競技場、野球場、ラグビー場、サッカーコート、バスケットボールコート(3面)、ハンドボールコート(2面)、バレーボールコート(4面)、テニスコート(13面)						
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	国費による
		教員1人当り研究費等		-	-	-	-	-	-	
		共同研究費等		-	-	-	-	-	-	
		図書購入費		-	-	-	-	-	-	
	設備購入費		-	-	-	-	-	-		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円	- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			該当なし							
既設大学等の状況	大学の名称		岐阜大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学員 年次人	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	教育学部	年	人	人	人		倍			
	学校教育教員養成課程	4	220	-	930	学士(教育学)	1.04	平成10年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和2年度入学定員増(20) 令和3年度入学定員減(△30)
	特別支援学校教員養成課程	4	-	-	-	学士(教育学)	-	平成19年度	同上	令和2年度より学生募集停止
	地域科学部						1.02			
地域政策学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	1.02	平成18年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1		
地域文化学科	4	50	3年次5	210	学士(地域科学)	1.02	平成18年度	同上		

医学部						1.01			
医学科	6	110	-	660	学士(医学)	1.01	昭和39年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
看護学科	4	80	-	320	学士(看護学)	1.00	平成12年度	同上	
工学部						1.01			
社会基盤工学科	4	68	3年次 10	260	学士(工学)	1.03	平成14年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和3年度入学定員増(8) 令和3年度3年次編入学定員増(10)
機械工学科	4	134	3年次 10	540	学士(工学)	1.01	平成25年度	同上	令和3年度入学定員増(4) 令和3年度3年次編入学定員増(10)
化学・生命工学科	4	154	3年次 2	604	学士(工学)	1.00	平成25年度	同上	令和3年度入学定員増(4) 令和3年度3年次編入学定員増(2)
電気電子・情報工学科	4	174	3年次 8	696	学士(工学)	1.00	平成25年度	同上	令和3年度入学定員増(4) 令和3年度3年次編入学定員増(8)
(各学科共通)	-	-	3年次 0	30	学士(工学)	-			令和3年度3年次編入学定員減(△30)
応用生物科学部						1.04			
応用生命科学課程	4	85	3年次 5	330	学士(応用生物科学)	1.00	平成23年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	令和3年度入学定員増(5)
生産環境科学課程	4	85	3年次 5	330	学士(応用生物科学)	1.06	平成16年度	同上	令和3年度入学定員増(5)
共同獣医学科	6	30	-	180	学士(獣医学)	1.07	平成25年度	同上	
獣医学課程	6	-	-	-	学士(獣医学)	-	平成16年度	同上	平成25年度より学生募集停止
社会システム経営学環	4	【30】	-	【30】	学士(経営学)	1.07	令和3年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	学部等連係課程による設置のため、定員は工学部及び応用生物科学部のものを利用。 【工学部】 社会基盤工学科(8) 機械工学科(4) 化学・生命工学科(4) 電気電子・情報工学科(4) 【応用生物科学部】 応用生命科学課程(5) 生産環境科学課程(5)
教育学研究科									
教職実践開発専攻 (専門職学位課程)	2	25	-	50	教職修士(専門職)	0.92	平成20年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
心理発達支援専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士(教育学)	1.20	平成20年度	同上	
総合教科教育専攻 (修士課程)	2	34	-	68	修士(教育学)	1.24	平成25年度	同上	
地域科学研究科									
地域政策専攻 (修士課程)	2	12	-	24	修士(地域科学)	0.25	平成13年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
地域文化専攻									

(修士課程)	2	8	-	16	修士 (地域科学)	1.75	平成13 年度	同上	
医学系研究科									
医科学専攻									
(博士課程)	4	47	-	188	博士 (医学)	0.62	平成14 年度	同上	
再生医科学専攻									
(博士課程)	3	-	-	-	博士 (再生医学)	-	平成14 年度	同上	平成31年度より学生募集停止
看護学専攻									
(修士課程)	2	8	-	16	修士 (看護学)	1.00	平成17 年度	同上	
医療者教育学専攻									
(修士課程)	2	6	-	12	修士 (医療者 教育学)	1.00	令和2 年度	同上	
工学研究科									
社会基盤工学専攻									
(修士課程)	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成18 年度	岐阜県岐阜市柳戸 1番1	平成29年度より学生募集停止
数理デザイン工学専攻									
(修士課程)	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成18 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
環境エネルギーシス テム専攻									
(修士課程)	2	-	-	-	修士 (工学)	-	平成18 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
生産開発システム工 学専攻									
(博士課程)	3	-	-	-	博士 (工学)	-	平成3 年度	同上	平成31年度より学生募集停止
物質工学専攻									
(博士課程)	3	-	-	-	博士 (工学)	-	平成3 年度	同上	平成31年度より学生募集停止
電子情報システム工 学専攻									
(博士課程)	3	-	-	-	博士 (工学)	-	平成3 年度	同上	平成31年度より学生募集停止
環境エネルギーシス テム専攻									
(博士課程)	3	-	-	-	博士 (工学)	-	平成11 年度	同上	平成31年度より学生募集停止
工学専攻									
(博士課程)	3	23	-	69	博士 (工学)	0.91	平成31 年度	同上	
岐阜大学・インド工 科大学グワハティ校 国際連携統合機械工 学専攻									
(博士課程)	3	2	-	6	博士 (学術)	1.50	平成31 年度	同上	
岐阜大学・マレーシ ア国民大学国際連携 材料科学工学専攻									
(博士課程)	3	2	-	6	博士 (学術)	1.00	平成31 年度	岐阜県岐阜市柳戸 1番1	
自然科学技術研究科									
生命科学・化学専攻									
(修士課程)	2	74	-	148	修士 (工学ま たは応用生物 科学)	1.45	平成29 年度	岐阜県岐阜市柳戸 1番1	

生物生産環境科学専攻 (修士課程)	2	42	-	84	修士(応用生物科学)	1.10	平成29年度	同上	
環境社会基盤工学専攻 (修士課程)	2	29	-	58	修士(工学)	1.14	平成29年度	同上	
物質・ものづくり工学専攻 (修士課程)	2	67	-	134	修士(工学)	1.18	平成29年度	同上	
知能理工学専攻 (修士課程)	2	81	-	162	修士(工学)	1.12	平成29年度	同上	
エネルギー工学専攻 (修士課程)	2	72	-	144	修士(工学)	1.28	平成29年度	同上	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻 (修士課程)	2	10	-	20	修士(食品科学技術)	0.30	平成31年度	同上	
共同獣医学研究科 共同獣医学専攻 (博士課程)	4	6	-	18	博士(獣医学)	1.16	平成31年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
連合農学研究科 生物生産科学専攻 (博士課程)	3	7	-	21	博士(農学)	0.71	平成3年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
生物環境科学専攻 (博士課程)	3	5	-	15	博士(農学)	0.60	平成3年度	同上	
生物資源科学専攻 (博士課程)	3	6	-	18	博士(農学)	1.88	平成3年度	同上	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校国際連携食品科学技術専攻 (博士課程)	3	2	-	6	博士(学術)	0.50	平成31年度	同上	
連合獣医学研究科 獣医学専攻 (博士課程)	4	-	-	-	博士(獣医学)	-	平成2年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	平成31年度より学生募集停止
連合創薬医療情報研究科 創薬科学専攻 (博士課程)	3	3	-	9	博士(工学または薬科学)	0.00	平成19年度	岐阜県岐阜市柳戸1番1	
医療情報学専攻 (博士課程)	3	3	-	9	博士(医科学または薬科学)	0.67	平成19年度	同上	

大 学 の 名 称		名古屋大学						
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
文学部	4	125	3年次10	520	学士（文学）	1.00	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
人文学科	4	125	3年次10	520	学士（文学）	1.00	平成8年度	同上
教育学部	4	65	3年次10	280	学士（教育学）	1.13	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
人間発達科学科	4	65	3年次10	280	学士（教育学）	1.13	平成9年度	同上
法学部	4	150	3年次10	620	学士（法学）	1.02	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
法律・政治学科	4	150	3年次10	620	学士（法学）	1.02	平成9年度	同上
経済学部	4	205	3年次10	840	学士（経済学）	1.02	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
経済学科	4	140	—	560	学士（経済学）	—	昭和24年度	同上
経営学科	4	65	—	260	学士（経済学）	—	昭和24年度	同上
学部共通	—	—	3年次10	20	学士（経済学）	—	—	同上
情報文化学部	4	—	—	—	学士（情報文化学）	—	平成5年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
自然情報学科	4	—	—	—	学士（情報文化学）	—	平成5年度	同上
社会システム情報学科	4	—	—	—	学士（情報文化学）	—	平成5年度	同上
学部共通	—	—	3年次—	—	学士（情報文化学）	—	—	同上
情報学部	4	135	3年次10	560	学士（情報学）	1.02	平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
自然情報学科	4	38	3年次4	160	学士（情報学）	1.07	平成29年度	同上
人間・社会情報学科	4	38	3年次4	160	学士（情報学）	0.92	平成29年度	同上
コンピュータ科学科	4	59	3年次2	240	学士（情報学）	1.06	平成29年度	同上
理学部	4	270	—	1,080	学士（理学）	1.03	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
数学科	4	55	—	220	学士（理学）	—	平成7年度	同上
物理学科	4	90	—	360	学士（理学）	—	昭和24年度	同上
化学科	4	50	—	200	学士（理学）	—	昭和24年度	同上
生命理学科	4	50	—	200	学士（理学）	—	平成8年度	同上
地球惑星科学科	4	25	—	100	学士（理学）	—	平成4年度	同上
医学部	4・6	307	3年次5	1,462	学士（医学）	1.04	昭和24年度	—
医学科	6	107	3年次5	662	学士（医学）	1.03	昭和24年度	愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
保健学科	4	200	—	800	学士（看護学） 学士（保健学） 学士（リハビリテーション学）	1.04	平成9年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20

経済学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。

平成29年度より学生募集停止

理学部の定員超過率については、学部単位で入学者を募集しているため学部単位で記入。

					学士 (リハビリテーション学)							
工学部	4	680	—	2,720	学士 (工学)	1.02	昭和24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1				
化学・生物工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成8年度	同上	平成29年度より学生募集停止			
物理工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成9年度	同上	平成29年度より学生募集停止			
電気電子・情報工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成7年度	同上	平成29年度より学生募集停止			
機械・航空工学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成6年度	同上	平成29年度より学生募集停止			
環境土木・建築学科	4	—	—	—	学士 (工学)	—	平成8年度	同上	平成29年度より学生募集停止			
化学生命工学科	4	99	—	396	学士 (工学)	1.03	平成29年度	同上				
物理工学科	4	83	—	332	学士 (工学)	1.01	平成29年度	同上				
マテリアル工学科	4	110	—	440	学士 (工学)	1.02	平成29年度	同上				
電気電子情報工学科	4	118	—	472	学士 (工学)	1.00	平成29年度	同上				
機械・航空宇宙工学科	4	150	—	600	学士 (工学)	1.02	平成29年度	同上				
エネルギー理工学科	4	40	—	160	学士 (工学)	1.00	平成29年度	同上				
環境土木・建築学科	4	80	—	320	学士 (工学)	1.05	平成29年度	同上				
農学部	4	170	—	680	学士 (農学)	1.04	昭和26年度	愛知県名古屋市千種区不老町1				
生物環境科学科	4	35	—	140	学士 (農学)	1.05	平成18年度	同上				
資源生物科学科	4	55	—	220	学士 (農学)	1.03	平成18年度	同上				
応用生命科学科	4	80	—	320	学士 (農学)	1.05	平成18年度	同上				
文学研究科												
人文学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (文学) 博士 (歴史学)	—	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止			
人文学研究科												
人文学専攻 (博士前期課程)	2	104	—	208	修士 (文学) 修士 (歴史学) 修士 (学術)	0.98	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上				
(博士後期課程)	3	61	—	183	博士 (文学) 博士 (歴史学) 博士 (学術)	0.60						
教育発達科学研究科												
教育科学専攻 (博士前期課程)	2	32	—	64	修士 (教育学) 修士 (教育)	0.93	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上				
(博士後期課程)	3	16	—	48	博士 (教育学)	0.68						

					博士 (教育)				
心理発達科学専攻									
(博士前期課程)	2	22	—	44	修士 (心理学)	0.95	平成12年度	同上	
(博士後期課程)	3	15	—	45	修士 (臨床心理学) 博士 (心理学)	0.73			
法学研究科									
総合法政専攻									
(博士前期課程)	2	35	—	70	修士 (法学)	0.77	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	17	—	51	修士 (比較法学) 修士 (現代法学) 博士 (法学)	0.11			
実務法曹養成専攻									
(専門職学位課程)	3	50	—	150	博士 (比較法学) 博士 (現代法学) 法務博士 (専門職)	0.72	平成16年度	同上	
経済学研究科									
社会経済システム専攻									
(博士前期課程)	2	30	—	60	修士 (経済学)	0.76	昭和28年度 平成12年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	15	—	45	修士 (経営管理学) 博士 (経済学)	0.26			
産業経営システム専攻									
(博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (経済学)	0.85	平成12年度	同上	
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (経済学)	0.14			
情報学研究科									
数理情報学専攻									
(博士前期課程)	2	14	—	28	修士 (情報学) 修士 (学術)	1.14	平成29年度 平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士 (情報学) 博士 (学術)	0.50			
複雑系科学専攻									
(博士前期課程)	2	36	—	72	修士 (情報学) 修士 (学術)	1.16	平成29年度	同上	
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (情報学) 博士 (学術)	0.37			
社会情報学専攻									

(博士前期課程)	2	18	—	36	修士 (情報学) 修士 (学術)	0.94	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (情報学) 博士 (学術)	0.20		
心理・認知科学専攻								
(博士前期課程)	2	15	—	30	修士 (情報学) 修士 (学術)	0.86	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士 (情報学) 博士 (学術)	0.71		
情報システム学専攻								
(博士前期課程)	2	32	—	64	修士 (情報学) 修士 (学術)	1.06	平成29年度	愛知県名古屋市千種区不老町1
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (情報学) 博士 (学術)	0.22		
知能システム学専攻								
(博士前期課程)	2	29	—	58	修士 (情報学) 修士 (学術)	1.75	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	10	—	30	博士 (情報学) 博士 (学術)	2.00		
理学研究科								
素粒子宇宙物理学専攻							昭和28年度 平成7年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上
(博士前期課程)	2	66	—	132	修士 (理学)	1.10		
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士 (理学)	0.40		
物質理学専攻								
(博士前期課程)	2	63	—	126	修士 (理学)	1.15	平成7年度	同上
(博士後期課程)	3	22	—	66	博士 (理学)	0.81		
生命理学専攻								
(博士前期課程)	2	42	—	84	修士 (理学)	0.97	平成8年度	同上
(博士後期課程)	3	18	—	54	博士 (理学)	0.11		
名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻								
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (理学)	0.00	平成28年度	同上
医学系研究科								
総合医学専攻							昭和30年度 平成25年度	— 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65
(博士課程)	4	151	—	604	博士 (医学)	1.09		
名古屋大学・アデレード大学国際連携総合医学専攻								
(博士課程)	4	4	—	16	博士 (医学)	0.00	平成27年度	同上
名古屋大学・ルンド大学国際連携総合医学専攻								

既設大学等の状況	(博士課程)	4	4	—	16	博士 (医学)	0.00	平成29年度	同上	
	名古屋大学・フラインク大学国際連携総合医学専攻									
	(博士課程)	4	2	—	8	博士 (医学)	0.00	平成30年度	同上	
	医科学専攻									
	(修士課程)	2	20	—	40	修士 (医科学)	0.75	平成13年度	同上	
	医療行政コース	1	10	—	10	修士 (医療行政学)	0.00			
	総合保健学専攻									
	(博士前期課程)	2	70	—	140	修士 (看護学) 修士 (医療技術学) 修士 (リハビリテーション)	0.82	令和2年度	愛知県名古屋市東区大幸南1-1-20	
	(博士後期課程)	3	20	—	40	博士 (看護学) 博士 (医療技術学) 博士 (リハビリテーション)	0.80			
	看護学専攻									
	(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (看護学)	—	平成14年度	同上	令和2年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (看護学)	—	—	—	—
	医療技術学専攻									
	(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (医療技術学)	—	平成14年度	同上	令和2年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (医療技術学)	—	—	—	—
	リハビリテーション療法学専攻									
	(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (リハビリテーション療法)	—	平成14年度	同上	令和2年度より学生募集停止
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (リハビリテーション療法)	—	—	—	—
	工学研究科									
	化学・生物工学専攻									
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	昭和28年度 平成16年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止
	マテリアル理工学専攻									
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より学生募集停止
	機械理工学専攻									
	(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より学生募集停止
	社会基盤工学専攻									
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より学生募集停止	
結晶材料工学専攻										
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	昭和52年度	愛知県名古屋市千種区不老町1	平成29年度より学生募集停止	
マイクロ・ナノシステム工学専攻										
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成16年度	同上	平成29年度より学生募集停止	
計算理工学専攻										
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (工学)	—	平成9年度	同上	平成29年度より学生募集停止	
有機・高分子化学専攻										
(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	0.97	平成29年度	同上		

(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	0.62		
応用物質化学専攻								
(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	1.05	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	0.50		
生命分子工学専攻								
(博士前期課程)	2	28	—	56	修士 (工学)	1.03	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (工学)	0.66		
応用物理学専攻								
(博士前期課程)	2	39	—	78	修士 (工学)	1.12	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	0.44		
物質科学専攻								
(博士前期課程)	2	39	—	78	修士 (工学)	0.97	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	0.44		
材料デザイン工学専攻								
(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	0.91	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	0.37		
物質プロセス工学専攻								
(博士前期課程)	2	35	—	70	修士 (工学)	1.08	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	1.33		
化学システム工学専攻								
(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	1.14	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	1.37		
電気工学専攻								
(博士前期課程)	2	34	—	68	修士 (工学)	1.35	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士 (工学)	0.66		
電子工学専攻								
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士 (工学)	1.23	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	13	—	39	博士 (工学)	0.76		
情報・通信工学専攻								
(博士前期課程)	2	33	—	66	修士 (工学)	1.33	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	0.75		
機械システム工学専攻								
(博士前期課程)	2	66	—	132	修士 (工学)	1.31	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	14	—	42	博士 (工学)	0.57		
マイクロ・ナノ機械理工学専攻								
(博士前期課程)	2	36	—	72	修士 (工学)	1.36	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	0.25		
航空宇宙工学専攻								
(博士前期課程)	2	38	—	76	修士 (工学)	1.36	平成29年度	同上
(博士後期課程)	3	8	—	24	博士 (工学)	0.87		

エネルギー理工学専攻												
(博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	1.22	平成29年度	同上				
(博士後期課程)	3	5	—	15	博士(工学)	1.00						
総合エネルギー工学専攻												
(博士前期課程)	2	18	—	36	修士(工学)	0.94	平成29年度	同上				
(博士後期課程)	3	4	—	12	博士(工学)	0.25						
土木工学専攻												
(博士前期課程)	2	36	—	72	修士(工学)	0.91	平成29年度	同上				
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(工学)	0.33						
生命農学研究科												
生物圏資源学専攻							昭和30年度	愛知県名古屋市千種区不老町1				
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(農学)	—	平成11年度	同上			平成30年度より学生募集停止	
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—						
生物機構・機能科学専攻												
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—	平成9年度	同上			平成30年度より学生募集停止	
生命技術科学専攻												
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士(農学)	—	平成16年度	同上			平成30年度より学生募集停止	
森林・環境資源科学専攻												
(博士前期課程)	2	27	—	54	修士(農学)	1.11	平成30年度	愛知県名古屋市千種区不老町1				
(博士後期課程)	3	6	—	18	博士(農学)	1.00						
植物生産科学専攻												
(博士前期課程)	2	30	—	60	修士(農学)	1.26	平成30年度	同上				
(博士後期課程)	3	9	—	27	博士(農学)	0.77						
動物科学専攻												
(博士前期課程)	2	28	—	56	修士(農学)	1.07	平成30年度	同上				
(博士後期課程)	3	7	—	21	博士(農学)	0.42						
応用生命科学専攻												
(博士前期課程)	2	66	—	132	修士(農学)	1.09	平成30年度	同上				
(博士後期課程)	3	16	—	48	博士(農学)	0.43						
名古屋大学・カセサート大学国際連携生命農学専攻												
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(農学)	0.00	平成30年度	同上				
名古屋大学・西オーストラリア大学国際連携生命農学専攻												
(博士後期課程)	3	2	—	6	博士(農学)	0.00	平成31年度	同上				
国際開発研究科												
国際開発専攻							平成3年度	愛知県名古屋市千種区不老町1				
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士(国際開発学) 修士(学術)	—	平成3年度	同上			平成30年度より学生募集停止	

(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (国際開 発学) 博士 (学術)	—			
国際協力専攻									
(博士前期課程)	2	—	—	—	修士 (国際開 発学) 修士 (学術)	—	平成4 年度	同上	平成30年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (国際開 発学) 博士 (学術)	—			
国際コミュニケーション専攻									
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (学術)	—	平成5 年度	同上	平成29年度より学生募集停止
国際開発協力専攻									
(博士前期課程)	2	44	—	88	修士 (国際開 発学) 修士 (学術)	0.90	平成30 年度	同上	
(博士後期課程)	3	22	—	66	博士 (国際開 発学) 博士 (学術)	0.50			
多元数理科学研究科									
多元数理科学専攻									
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士 (数理 学)	1.10	平成7 年度 平成7 年度	愛知県名古屋市千 種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	30	—	90	博士 (数理 学)	0.50			
国際言語文化研究科									
日本語文化専攻									
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (文学) 博士 (学術)	—	平成10 年度 平成10 年度	愛知県名古屋市千 種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止
国際多元文化専攻									
(博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (文学) 博士 (学術)	—	平成10 年度	同上	
環境学研究科									
地球環境科学専攻									
(博士前期課程)	2	53	—	106	修士 (環境 学) 修士 (理学)	0.77	平成13 年度 平成13 年度	愛知県名古屋市千 種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	24	—	72	博士 (環境 学) 博士 (理学)	0.41			
都市環境学専攻									
(博士前期課程)	2	47	—	94	修士 (環境 学) 修士 (工学)	1.19	平成13 年度	同上	
(博士後期課程)	3	21	—	63	修士 (建築 学) 博士 (環境 学) 博士 (工学)	0.23			

社会環境学専攻				博士 (建築学)				
(博士前期課程)	2	27	—	54 修士 (環境学) 修士 (社会学) 修士 (地理学) 修士 (法学)	0.66	平成13年度	同上	
(博士後期課程)	3	13	—	39 修士 (経済学) 博士 (環境学) 博士 (社会学) 博士 (地理学) 博士 (法学) 博士 (経済学)	0.30			
情報科学研究科								
情報システム学専攻								
(博士前期課程)	2	—	—	— 修士 (情報科学) 修士 (工学) 修士 (学術)	—	平成15年度 平成15年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	平成29年度より学生募集停止
(博士後期課程)	3	—	—	— 博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—			
メディア科学専攻								
(博士後期課程)	3	—	—	— 博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—	平成15年度	同上	
複雑系科学専攻								
(博士後期課程)	3	—	—	— 博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—	平成15年度	同上	
社会システム情報学専攻								
(博士後期課程)	3	—	—	— 博士 (情報科学) 博士 (工学) 博士 (学術)	—	平成15年度	同上	
創薬科学研究科								
基盤創薬学専攻								
(博士前期課程)	2	32	—	64 修士 (創薬科学)	1.09	平成24年度	愛知県名古屋市千種区不老町1 同上	
(博士後期課程)	3	10	—	30 博士 (創薬科学)	1.10	平成24年度 平成26年度	同上	

附属施設の概要

名称：教育学部附属小中学校
 目的：小学校教育，中学校教育，研究及び教員養成
 所在地：岐阜県岐阜市加納大手町74番地
 設置年月：令和2年4月
 規模等（延面積）：13,531㎡

名称：医学部附属病院
 目的：診療，医学の教育及び研究
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 設置年月：昭和42年6月
 規模等（延面積）：70,002㎡

名称：応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター
 美濃加茂農場
 目的：農学，獣医学の教育及び研究
 所在地：岐阜県美濃加茂市牧野1918-1
 設置年月：平成16年4月
 規模等（延面積）：建物 1,690㎡
 土地 95,831㎡

名称：応用生物科学部附属岐阜フィールド科学教育研究センター
 位山演習林
 目的：農学の教育及び研究
 所在地：岐阜県下呂市萩原町山之口
 設置年月：平成16年4月
 規模等（延面積）：建物 1,103㎡
 土地 6,424,445㎡

名称：応用生物科学部附属動物病院
 目的：診療，獣医学の教育及び研究
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 設置年月：平成16年4月
 規模等（延面積）：3,297㎡

名称：教育推進・学生支援機構
 目的：教育推進，学生支援
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 設置年月：平成25年12月
 規模等（延面積）：7,229㎡

名称：グローバル推進機構
 目的：国際協働教育推進，地域国際化推進，留学推進，国際企画
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 設置年月：平成31年4月
 規模等（延面積）：1,118㎡

名称：学術研究・産学官連携推進本部
 目的：研究推進，教育研究活動支援，産学連携・地域連携推進
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 設置年月：令和2年4月
 規模等（延面積）：7,825㎡

名称：高等研究院
 目的：研究支援
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 設置年月：令和2年4月
 規模等（延面積）：7,825㎡

名称：地域協学センター
 目的：地域協働
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 設置年月：平成25年12月
 規模等（延面積）：336㎡

名称：流域圏科学研究センター
 目的：流域圏科学分野の研究
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 （高山試験地 岐阜県高山市岩井町919の47）
 設置年月：平成14年4月
 規模等（延面積）：1,890㎡

名称：保健管理センター
 目的：学生及び教職員の健康管理
 所在地：岐阜県岐阜市柳戸1番1
 設置年月：昭和49年4月

	<p>規模等（延面積）：525㎡</p> <p>名 称：医学教育開発研究センター</p> <p>目 的：医学教育に関する研修、調査分析等</p> <p>所 在 地：岐阜県岐阜市柳戸1番1</p> <p>設 置 年 月：平成13年4月</p> <p>規模等（延面積）：535㎡</p>	
<p>(注)</p> <p>1 共同学科等の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。</p> <p>2 「教員組織の概要」の「既設分」については、共同学科等に係る教を除いたものとする。</p> <p>3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず、斜線を引くこと。</p> <p>4 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室等」、「専任教員研究室」、「図書・設備」、「図書館」、「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。</p> <p>5 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。</p> <p>6 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。</p>		

国立大学法人東海国立大学機構 設置申請に関わる組織の移行表(岐阜大学)

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
岐阜大学				岐阜大学				
教育学部				教育学部				
学校教育教員養成課程	220	—	880	学校教育教員養成課程	220	—	880	
地域科学部		3年次		地域科学部		3年次		
地域政策学科	50	5	210	地域政策学科	50	5	210	
地域文化学科	50	5	210	地域文化学科	50	5	210	
医学部		3年次		医学部		3年次		
医学科(6年制)	110	—	660	医学科(6年制)	85	—	510	臨時定員増終了による定員変更(Δ25)
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
工学部		3年次		工学部		3年次		
社会基盤工学科	68	10	292	社会基盤工学科	68	10	292	
機械工学科	134	10	556	機械工学科	134	10	556	
化学・生命工学科	154	2	620	化学・生命工学科	154	2	620	
電気電子・情報工学科	174	8	712	電気電子・情報工学科	174	8	712	
応用生物科学部		3年次		応用生物科学部		3年次		
応用生命科学課程	85	5	350	応用生命科学課程	85	5	350	学部等連係課程による設置のため定員は工学部及び応用生物科学部のものを利用。そのため【】内の数値は合計数の外数。
生産環境科学課程	85	5	350	生産環境科学課程	85	5	350	
共同獣医学科(6年制)	30	—	180	共同獣医学科(6年制)	30	—	180	
社会システム経営学環	【30】	—	【120】	社会システム経営学環	【30】	—	【120】	
計	1,240	50	5,340	計	1,215	50	5,190	
岐阜大学大学院				岐阜大学大学院				
教育学研究科				教育学研究科				
教職実践開発専攻(P)	25	—	50	教職実践開発専攻(P)	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
心理発達支援専攻(M)	10	—	20	心理発達支援専攻(M)	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
総合教科教育専攻(M)	34	—	68	総合教科教育専攻(M)	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
				教職実践開発専攻(P)	40	—	80	専攻の設置(設置届出)
				教育臨床心理学専攻(M)	5	—	10	専攻の設置(設置届出)
地域科学研究科				地域科学研究科				
地域政策専攻(M)	12	—	24	地域政策専攻(M)	12	—	24	
地域文化専攻(M)	8	—	16	地域文化専攻(M)	8	—	16	
医学系研究科				医学系研究科				
医科学専攻(4年制D)	47	—	188	医科学専攻(4年制D)	47	—	188	
看護学専攻(M)	8	—	16	看護学専攻(M)	8	—	16	
医療者教育学専攻(M)	6	—	12	医療者教育学専攻(M)	6	—	12	
工学研究科				工学研究科				
工学専攻(D)	23	—	69	工学専攻(D)	23	—	69	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携統合機械工学専攻(D)	2	—	6	国際連携統合機械工学専攻(D)	2	—	6	
岐阜大学・マレーシア国民大学				岐阜大学・マレーシア国民大学				
国際連携材料科学工学専攻(D)	2	—	6	国際連携材料科学工学専攻(D)	2	—	6	
自然科学技術研究科				自然科学技術研究科				
生命科学・化学専攻(M)	74	—	148	生命科学・化学専攻(M)	74	—	148	
生物生産環境科学専攻(M)	42	—	84	生物生産環境科学専攻(M)	42	—	84	
環境社会基盤工学専攻(M)	29	—	58	環境社会基盤工学専攻(M)	29	—	58	
物質・ものづくり工学専攻(M)	67	—	134	物質・ものづくり工学専攻(M)	67	—	134	
知能理工学専攻(M)	81	—	162	知能理工学専攻(M)	81	—	162	
エネルギー工学専攻(M)	72	—	144	エネルギー工学専攻(M)	72	—	144	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携食品科学技術専攻(M)	10	—	20	国際連携食品科学技術専攻(M)	10	—	20	
共同獣医学研究科				共同獣医学研究科				
共同獣医学専攻(4年制D)	6	—	24	共同獣医学専攻(4年制D)	6	—	24	
連合農学研究科				連合農学研究科				
生物生産科学専攻(D)	7	—	21	生物生産科学専攻(D)	7	—	21	
生物環境科学専攻(D)	5	—	15	生物環境科学専攻(D)	5	—	15	
生物資源科学専攻(D)	6	—	18	生物資源科学専攻(D)	6	—	18	
岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				岐阜大学・インド工科大学グワハティ校				
国際連携食品科学技術専攻(D)	2	—	6	国際連携食品科学技術専攻(D)	2	—	6	
連合創薬医療情報研究科				連合創薬医療情報研究科				
創薬科学専攻(D)	3	—	9	創薬科学専攻(D)	3	—	9	
医療情報学専攻(D)	3	—	9	医療情報学専攻(D)	3	—	9	
計	584	—	1,327	計	560	—	1,279	

令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和4年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
名古屋大学				名古屋大学				
文学部 人文学科	125	3年次 10	520	文学部 人文学科	125	3年次 10	520	
教育学部 人間発達科学科	65	3年次 10	280	教育学部 人間発達科学科	65	3年次 10	280	
法学部 法律・政治学科	150	3年次 10	620	法学部 法律・政治学科	150	3年次 10	620	
経済学部 経済学科 経営学科 学部共通	140 65 —	3年次 — — 10	560 260 20	経済学部 経済学科 経営学科 学部共通	140 65 —	3年次 — — 10	560 260 20	
情報学部 自然情報学科 人間・社会情報学科 コンピュータ科学科	38 38 59	3年次 4 4 2	160 160 240	情報学部 自然情報学科 人間・社会情報学科 コンピュータ科学科	38 38 59	3年次 4 4 2	160 160 240	
理学部 数理学科 物理学科 化学科 生命理学科 地球惑星科学科	55 90 50 50 25	— — — — —	220 360 200 200 100	理学部 数理学科 物理学科 化学科 生命理学科 地球惑星科学科	55 90 50 50 25	— — — — —	220 360 200 200 100	
医学部 医学科(6年制)	107	3年次 5	662	医学部 医学科(6年制)	100	2年次 4	620	入学定員変更(△7) 編入学定員変更(△1) 編入学を2年次に変更
保健学科	200	—	800	保健学科	200	—	800	
工学部 化学生命工学科 物理工学科 マテリアル工学科 電気電子情報工学科 機械・航空宇宙工学科 エネルギー理工学科 環境土木・建築学科	99 83 110 118 150 40 80	— — — — — — —	396 332 440 472 600 160 320	工学部 化学生命工学科 物理工学科 マテリアル工学科 電気電子情報工学科 機械・航空宇宙工学科 エネルギー理工学科 環境土木・建築学科	99 83 110 118 150 40 80	— — — — — — —	396 332 440 472 600 160 320	
農学部 生物環境科学科 資源生物科学科 応用生命科学科	35 55 80	— — —	140 220 320	農学部 生物環境科学科 資源生物科学科 応用生命科学科	35 55 80	— — —	140 220 320	
合計	2,107	55	8,762	合計	2,100	54	8,720	
名古屋大学大学院				名古屋大学大学院				
人文学研究科 人文学専攻(M) 人文学専攻(D)	104 61	— —	208 183	人文学研究科 人文学専攻(M) 人文学専攻(D)	104 61	— —	208 183	
教育発達科学研究科 教育科学専攻(M) 教育科学専攻(D) 心理発達科学専攻(M) 心理発達科学専攻(D)	32 16 22 15	— — — —	64 48 44 45	教育発達科学研究科 教育科学専攻(M) 教育科学専攻(D) 心理発達科学専攻(M) 心理発達科学専攻(D)	32 16 22 15	— — — —	64 48 44 45	
法学研究科 総合法政専攻(M) 総合法政専攻(D) 実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	35 17 50	— — —	70 51 150	法学研究科 総合法政専攻(M) 総合法政専攻(D) 実務法曹養成専攻 (専門職学位課程)	35 17 50	— — —	70 51 150	
経済学研究科 社会経済システム専攻(M) 社会経済システム専攻(D) 産業経営システム専攻(M) 産業経営システム専攻(D)	30 15 14 7	— — — —	60 45 28 21	経済学研究科 社会経済システム専攻(M) 社会経済システム専攻(D) 産業経営システム専攻(M) 産業経営システム専攻(D)	30 15 14 7	— — — —	60 45 28 21	
情報学研究科 数理情報学専攻(M) 数理情報学専攻(D) 複雑系科学専攻(M) 複雑系科学専攻(D) 社会情報学専攻(M) 社会情報学専攻(D) 心理・認知科学専攻(M) 心理・認知科学専攻(D) 情報システム学専攻(M) 情報システム学専攻(D) 知能システム学専攻(M) 知能システム学専攻(D)	14 4 36 8 18 5 15 7 32 9 29 10	— — — — — — — — — — — —	28 12 72 24 36 15 30 21 64 27 58 30	情報学研究科 数理情報学専攻(M) 数理情報学専攻(D) 複雑系科学専攻(M) 複雑系科学専攻(D) 社会情報学専攻(M) 社会情報学専攻(D) 心理・認知科学専攻(M) 心理・認知科学専攻(D) 情報システム学専攻(M) 情報システム学専攻(D) 知能システム学専攻(M) 知能システム学専攻(D)	14 4 36 8 18 5 15 7 32 9 29 10	— — — — — — — — — — — —	28 12 72 24 36 15 30 21 64 27 58 30	

理学研究科

素粒子宇宙物理学専攻(M)	66	—	132
素粒子宇宙物理学専攻(D)	30	—	90
物質物理学専攻(M)	63	—	126
物質物理学専攻(D)	22	—	66
生命物理学専攻(M)	42	—	84
生命物理学専攻(D)	18	—	54
名古屋大学・エディンバラ大学 国際連携物理学専攻(D)	2	—	6

医学系研究科

総合医学専攻(D)	151	—	604
名古屋大学・アデレード大学 国際連携総合医学専攻(D)	4	—	16
名古屋大学・ルンド大学 国際連携総合医学専攻(D)	4	—	16
名古屋大学・フライブルク大 学国際連携総合医学専攻(D)	2	—	8
医科学専攻(修士課程)	20	—	40
医科学専攻医療行政コース	10	—	10
総合保健学専攻(M)	70	—	140
総合保健学専攻(D)	20	—	60

工学研究科

有機・高分子化学専攻(M)	34	—	68
有機・高分子化学専攻(D)	8	—	24
応用物質化学専攻(M)	34	—	68
応用物質化学専攻(D)	8	—	24
生命分子工学専攻(M)	28	—	56
生命分子工学専攻(D)	6	—	18
応用物理学専攻(M)	39	—	78
応用物理学専攻(D)	9	—	27
物質科学専攻(M)	39	—	78
物質科学専攻(D)	9	—	27
材料デザイン工学専攻(M)	34	—	68
材料デザイン工学専攻(D)	8	—	24
物質プロセス工学専攻(M)	35	—	70
物質プロセス工学専攻(D)	9	—	27
化学システム工学専攻(M)	34	—	68
化学システム工学専攻(D)	8	—	24
電気工学専攻(M)	34	—	68
電気工学専攻(D)	9	—	27
電子工学専攻(M)	47	—	94
電子工学専攻(D)	13	—	39
情報・通信工学専攻(M)	33	—	66
情報・通信工学専攻(D)	8	—	24
機械システム工学専攻(M)	66	—	132
機械システム工学専攻(D)	14	—	42
マイクロ・ナノ機械理工学 専攻(M)	36	—	72
マイクロ・ナノ機械理工学 専攻(D)	8	—	24
航空宇宙工学専攻(M)	38	—	76
航空宇宙工学専攻(D)	8	—	24
エネルギー理工学専攻(M)	18	—	36
エネルギー理工学専攻(D)	5	—	15
総合エネルギー工学専攻(M)	18	—	36
総合エネルギー工学専攻(D)	4	—	12
土木工学専攻(M)	36	—	72
土木工学専攻(D)	9	—	27

生命農学研究科

森林・資材科学専攻(M)	27	—	54
森林・資材科学専攻(D)	6	—	18
植物生産科学専攻(M)	30	—	60
植物生産科学専攻(D)	9	—	27
動物科学専攻(M)	28	—	56
動物科学専攻(D)	7	—	21
応用生命科学専攻(M)	66	—	132
応用生命科学専攻(D)	16	—	48
名古屋大学・カセサート大学 国際連携生命農学専攻(D)	2	—	6
名古屋大学・西オーストラリ ア大学国際連携生命農学専攻	2	—	6

国際開発研究科

国際開発協力専攻(M)	44	—	88
国際開発協力専攻(D)	22	—	66

多元数理科学研究科

多元数理科学専攻(M)	47	—	94
多元数理科学専攻(D)	30	—	90

環境学研究科

地球環境科学専攻(M)	53	—	106
地球環境科学専攻(D)	24	—	72
都市環境学専攻(M)	47	—	94
都市環境学専攻(D)	21	—	63
社会環境学専攻(M)	27	—	54
社会環境学専攻(D)	13	—	39

創薬科学研究科

基盤創薬学専攻(M)	32	—	64
基盤創薬学専攻(D)	10	—	30

合計 2,438 — 5,809

理学研究科

理学専攻(M)	188	—	376	研究科の専攻の設置(設置届出)
理学専攻(D)	70	—	210	研究科の専攻の設置(設置届出)
	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
	0	—	0	令和4年4月学生募集停止
名古屋大学・エディンバラ大 学	2	—	6	

医学系研究科

総合医学専攻(D)	151	—	604
名古屋大学・アデレード大学 国際連携総合医学専攻(D)	4	—	16
名古屋大学・ルンド大学 国際連携総合医学専攻(D)	4	—	16
名古屋大学・フライブルク大 学国際連携総合医学専攻	2	—	8
医科学専攻(修士課程)	20	—	40
医科学専攻医療行政コース	10	—	10
総合保健学専攻(M)	70	—	140
総合保健学専攻(D)	20	—	60

工学研究科

有機・高分子化学専攻(M)	34	—	68	
有機・高分子化学専攻(D)	8	—	24	
応用物質化学専攻(M)	34	—	68	
応用物質化学専攻(D)	8	—	24	
生命分子工学専攻(M)	28	—	56	
生命分子工学専攻(D)	6	—	18	
応用物理学専攻(M)	39	—	78	
応用物理学専攻(D)	9	—	27	
物質科学専攻(M)	39	—	78	
物質科学専攻(D)	9	—	27	
材料デザイン工学専攻(M)	34	—	68	
材料デザイン工学専攻(D)	7	—	21	
物質プロセス工学専攻(M)	35	—	70	
物質プロセス工学専攻(D)	8	—	24	
化学システム工学専攻(M)	34	—	68	
化学システム工学専攻(D)	7	—	21	
電気工学専攻(M)	34	—	68	
電気工学専攻(D)	9	—	27	
電子工学専攻(M)	47	—	94	
電子工学専攻(D)	13	—	39	
情報・通信工学専攻(M)	33	—	66	
情報・通信工学専攻(D)	8	—	24	
機械システム工学専攻(M)	66	—	132	
機械システム工学専攻(D)	14	—	42	
マイクロ・ナノ機械理工学 専攻(M)	36	—	72	
マイクロ・ナノ機械理工学 専攻(D)	8	—	24	
航空宇宙工学専攻(M)	38	—	76	
航空宇宙工学専攻(D)	8	—	24	
エネルギー理工学専攻(M)	18	—	36	
エネルギー理工学専攻(D)	5	—	15	
総合エネルギー工学専攻(M)	18	—	36	
総合エネルギー工学専攻(D)	4	—	12	
土木工学専攻(M)	36	—	72	
土木工学専攻(D)	9	—	27	
名古屋大学・チュラロンコン 大学国際連携サステナブル 材料工学専攻	3	—	9	研究科の専攻の設置 (意見伺い)

生命農学研究科

森林・資材科学専攻(M)	27	—	54
森林・資材科学専攻(D)	6	—	18
植物生産科学専攻(M)	30	—	60
植物生産科学専攻(D)	9	—	27
動物科学専攻(M)	28	—	56
動物科学専攻(D)	7	—	21
応用生命科学専攻(M)	66	—	132
応用生命科学専攻(D)	16	—	48
名古屋大学・カセサート大学 国際連携生命農学専攻(D)	2	—	6
名古屋大学・西オーストラリ ア大学国際連携生命農学専攻	2	—	6

国際開発研究科

国際開発協力専攻(M)	44	—	88
国際開発協力専攻(D)	22	—	66

多元数理科学研究科

多元数理科学専攻(M)	47	—	94
多元数理科学専攻(D)	30	—	90

環境学研究科

地球環境科学専攻(M)	53	—	106
地球環境科学専攻(D)	24	—	72
都市環境学専攻(M)	47	—	94
都市環境学専攻(D)	21	—	63
社会環境学専攻(M)	27	—	54
社会環境学専攻(D)	13	—	39

創薬科学研究科

基盤創薬学専攻(M)	32	—	64
基盤創薬学専攻(D)	10	—	30

合計 2,455 — 5,843

教育課程等の概要															
(大学院教育学研究科教職実践開発専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専攻共通科目	(1) 教育課程の編成・実施に関する領域	カリキュラムマネジメントの理論と実践	1後	2			○				1				
	(2) 教科等の実践的な指導法に関する領域	授業研究基礎論	1前	2			○		3	2					オムニバス、共同（一部）
	(3) 生徒指導、教育相談に関する領域	生徒指導・教育相談の理論と実践	1前	2			○		1	1					オムニバス
		学校適応の理論と実践	1前		2		○			1					
	(4) 学級経営、学校経営に関する領域	学級経営の理論と実践	1前		2		○			1					
		学校経営の理論と実践	1前		2		○					1			
(5) 学校教育と教職員の在り方に関する領域	教職開発論	1前	2			○		1							
	教師協働カプラス演習	1後	2				○	1	2					共同	
(6) 独自の領域	特別支援教育の理論と実践	1前	2			○		2	1		1			オムニバス、共同（一部）	
小計（9科目）			—	14	4	0	—	8	8	0	2	0	兼0		
専門科目	教科指導能力開発コース	社会・コミュニケーション教育に関する学習指導のデザイン	1前		2		○		2	2				兼11	オムニバス、共同（一部）
		国語教育の理論と実践	1前・後		2		○		1					兼1	共同
		国語科の理論と教材開発A	1前・後		2		○		2					兼1	共同
		国語科の理論と教材開発B	1前・後		2		○		1						
		国語科の理論と教材開発C	1前・後		2		○		2					兼1	共同
		国語科の理論と実践A	1前・後		2		○		1					兼2	共同
		国語科の理論と実践B	1前・後		2		○		1					兼2	共同
		国語科の理論と実践C	1前・後		2		○		1					兼2	共同
		社会科教育の理論と実践	1前・後		2		○		1					兼1	共同
		公民科教材開発論	1前・後		2		○			1				兼2	共同
		日本史の理論と教材開発	1前・後		2		○							兼2	共同
		西洋史の理論と教材開発	1前・後		2		○							兼2	共同
		人文地理学の理論と教材開発	1前・後		2		○							兼1	
		地誌学の理論と教材開発	1前・後		2		○							兼2	共同
法律学の理論と教材開発	1前・後		2		○							兼3	共同		

	政治学の理論と教材開発	1前・後	2	○								兼 2	共同
	経済学の理論と教材開発	1前・後	2	○								兼 2	共同
	哲学の理論と教材開発	1前・後	2	○								兼 3	共同
	小学校外国語活動・外国語に関する実践研究	1前・後	2	○				1					
	英語学に関する理論と実践	1前・後	2	○				1				兼 1	共同
	英語文学の理論と実践	1前・後	2	○		1						兼 1	共同
	異文化理解に関する理論と実践	1前・後	2	○				1					
	外国語指導の理論と実践 I	1前・後	2	○				1					
	外国語指導の理論と実践 II	1前・後	2	○				1					
サイエンス系	自然科学教育に関する学習指導のデザイン	1前	2	○			5	3				兼 2	オムニバス、共同 (一部)
	算数教育の理論と実践	1前・後	2	○			1						
	数理モデルに関する学習内容と教材開発	1前・後	2	○				1				兼 1	共同
	図形教育の学習内容と教材開発	1前・後	2	○			1	1					共同
	数と図形の学習内容と教材開発	1前・後	2	○				2					共同
	データの活用に関する学習内容と教材開発	1前・後	2	○			1	1					共同
	算数・数学教育実践内容総論	1前・後	2	○				1					
	理科教育の理論と実践	1前・後	2	○			2	3				兼 4	オムニバス、共同
	エネルギーの捉え方に関する学習内容と授業開発	1前・後	2	○				1				兼 1	共同
	「化学変化と原子・分子」に関する学習内容と授業開発	1前・後	2	○				1				兼 2	共同
	身のまわりの物質に関する学習内容と授業開発	1前・後	2	○				1				兼 2	共同
	生命の連続性に関する学習内容と授業開発	1前・後	2	○			2						オムニバス、共同 (一部)
	生物の構造と機能および生物と環境の関わりに関する学習内容と授業開発	1前・後	2	○			1	1					オムニバス、共同 (一部)
	地球と宇宙の変動に関する学習内容と授業開発	1前・後	2	○				1				兼 1	オムニバス
	地球の大気と水の循環に関する学習内容と授業開発	1前・後	2	○			1					兼 1	共同
	工作教育実践研究	1前・後	2	○			1	1				兼 1	共同
	技術科教育実践研究	1前・後	2	○			1	1				兼 1	共同
	工業技術に関する学習内容と教材開発	1前・後	2	○			1	1				兼 1	共同
	電気電子工学に関する学習内容と教材開発	1前・後	2	○				1				兼 1	共同
	情報工学に関する学習内容と教材開発	1前・後	2	○				1				兼 1	共同
	金属加工学・機械工学に関する学習内容と教材開発	1前・後	2	○			1						
	木材加工学に関する学習内容と教材開発	1前・後	2	○			1						
	家庭科教育実践研究	1前・後	2	○			2	2				兼 2	オムニバス、共同 (一部)
	調理学の理論と実践	1前・後	2	○			1					兼 1	オムニバス、共同 (一部)
	調理学の学習内容と教材開発	1前・後	2	○			1					兼 1	オムニバス、共同 (一部)
	栄養学の理論と実践	1前・後	2	○			2	2					共同
栄養学の学習内容と教材開発	1前・後	2	○			2	2					共同	
住居学の理論と実践	1前・後	2	○			1					兼 1	オムニバス、共同 (一部)	
住居学の学習内容と教材開発	1前・後	2	○			1					兼 1	オムニバス、共同 (一部)	
家庭経営学の理論と実践	1前・後	2	○			1							
家庭経営学の学習内容と教材開発	1前・後	2	○			1							
芸術身体表現系	芸術身体表現教育の学習指導のデザイン	1前	2	○			4						オムニバス、共同 (一部)
	音楽教育実践研究	1前・後	2	○			1	1				兼 3	共同
	声楽教育の理論と実践	1前・後	2	○			1	1				兼 3	オムニバス
	器楽教育の理論と実践 (鍵盤楽器)	1前・後	2	○			1	1				兼 3	共同
	音楽教育の理論と実践	1前・後	2	○			1	1				兼 3	共同
	作曲教育の理論と実践	1前・後	2	○			1	1				兼 3	共同
	器楽教育の理論と実践 (管楽器)	1前・後	2	○			1	1				兼 3	オムニバス
	音楽学教育の理論と実践	1前・後	2	○			1	1				兼 3	共同
	造形教育実践研究	1前・後	2	○			1	1					オムニバス、共同 (一部)
	美術科教育の理論と実践	1前・後	2	○			2	1				兼 2	オムニバス、共同 (一部)
	絵画教育の理論と実践	1前・後	2	○			1					兼 2	共同
	彫刻教育の理論と実践	1前・後	2	○			1					兼 1	共同
	デザイン教育の理論と実践	1前・後	2	○			1					兼 1	オムニバス、共同 (一部)
	工芸教育の理論と実践	1前・後	2	○				1				兼 1	オムニバス、共同 (一部)
	鑑賞教育の理論と実践	1前・後	2	○								兼 2	共同
	体育教育実践研究	1前・後	2	○			3					兼 2	オムニバス、共同 (一部)
	保健体育科教育の理論と実践	1前・後	2	○			1						

	体育測定評価の理論と実践	1前・後	2		○		1								
	運動生理学の理論と実践	1前・後	2		○								兼1		
	コーチング学の理論と実践	1前・後	2		○								兼1		
	身体表現の理論と教材開発	1前・後	2		○		1								
教育実践開発コース	特別支援学校経営の理論と実践	1前・後	2		○		1								
	特別支援学校の危機管理対策	1前・後	2		○		1								
	障害児理解と教育実践	1前・後	2		○		1	1		1			オムニバス		
	コミュニケーション障害の教育的支援	1前・後	2		○		1								
	学習障害児教育実践	1前・後	2		○		1								
	知的障害児の教育臨床	1前・後	2		○					1					
	知的障害児のキャリア教育の理論と実践	1前・後	2		○					1					
	きこえの困難への教育的対応	1前・後	2		○						1				
	特別支援教育心理アセスメント	1前・後	2		○		1				1		共同		
	小学校への接続を見通した幼児教育カリキュラムの理論と実践	1前・後	2		○		1	1					オムニバス		
	授業研究と教育技術開発	1前・後	2		○		1	1					兼2	オムニバス、共同（一部）	
	学習過程と教材開発	1前・後	2		○		1	1						オムニバス	
	カリキュラム開発実践研究デザイン	1前・後	2		○		2	4						オムニバス	
	総合的・横断的なカリキュラム開発	1前・後	2		○		1	1						オムニバス	
授業研究実践論	1前・後	2		○						2			オムニバス		
教職の省察と職能開発	1前・後	2		○		1	1						オムニバス		
情報メディアの開発と活用	1前・後	2		○									兼1		
学校管理職養成コース	インクルーシブ教育の開発実践	1前・後	2		○		1								
	教育政策の理論と実践	1前・後	2		○					1			兼1	オムニバス	
	教育法規の解釈と実際の運用	1前・後	2		○								兼1		
	学校経営計画・評価の開発実践	1前・後	2		○		2							オムニバス、共同（一部）	
	学校財務の開発実践	1前・後	2		○								兼1		
	学校の危機管理対策	1前・後	2		○		1			1			兼1	オムニバス、共同（一部）	
	地域社会と学校の連携と協働	1前・後	2		○								兼1		
	スクールリーダーの教育哲学	1前・後	2		○		1								
	問題行動と社会性の理論と実践	1前・後	2		○					1					
	学校行事の開発実践	1前・後	2		○					1					
小計（103科目）	—	0	206	0	—	—	25	21	0	2	0	兼35			
専門科目（開発実践科目）	開発実践基礎（国語）	1後	2		○		3						兼3	共同	
	開発実践報告Ⅰ（国語）	2前	2		○		3						兼3	共同	
	開発実践報告Ⅱ（国語）	2後	2		○		3						兼3	共同	
	開発実践基礎（地理歴史）	1後	2		○				1				兼4	共同	
	開発実践報告Ⅰ（地理歴史）	2前	2		○				1				兼4	共同	
	開発実践報告Ⅱ（地理歴史）	2後	2		○				1				兼4	共同	
	開発実践基礎（公民）	1後	2		○		1	1					兼4	共同	
	開発実践報告Ⅰ（公民）	2前	2		○		1	1					兼4	共同	
	開発実践報告Ⅱ（公民）	2後	2		○		1	1					兼4	共同	
	開発実践基礎（英語）	1後	2		○		1	3					兼2	共同	
	開発実践報告Ⅰ（英語）	2前	2		○		1	3					兼2	共同	
	開発実践報告Ⅱ（英語）	2後	2		○		1	3					兼2	共同	
	開発実践基礎（数学）	1後	2		○		1	4					兼1	共同	
	開発実践報告Ⅰ（数学）	2前	2		○		1	4					兼1	共同	
	開発実践報告Ⅱ（数学）	2後	2		○		1	4					兼1	共同	
	開発実践基礎（理科）	1後	2		○		2	3					兼4	共同	
	開発実践報告Ⅰ（理科）	2前	2		○		2	3					兼4	共同	
	開発実践報告Ⅱ（理科）	2後	2		○		2	3					兼4	共同	
	開発実践基礎（技術・工業）	1後	2		○		1	1					兼1	共同	
	開発実践報告Ⅰ（技術・工業）	2前	2		○		1	1					兼1	共同	
	開発実践報告Ⅱ（技術・工業）	2後	2		○		1	1					兼1	共同	
	開発実践基礎（家政）	1後	2		○		2						兼2	共同	
開発実践報告Ⅰ（家政）	2前	2		○		2						兼2	共同		
開発実践報告Ⅱ（家政）	2後	2		○		2						兼2	共同		
開発実践基礎（音楽）	1後	2		○		1	1					兼3	共同		

	開発実践報告Ⅰ（音楽）	2前	2		○	1	1				兼3	共同	
	開発実践報告Ⅱ（音楽）	2後	2		○	1	1				兼3	共同	
	開発実践基礎（美術）	1後	2		○	2	1				兼1	共同	
	開発実践報告Ⅰ（美術）	2前	2		○	2	1				兼1	共同	
	開発実践報告Ⅱ（美術）	2後	2		○	2	1				兼1	共同	
	開発実践基礎（保健体育）	1後	2		○	3					兼2	共同	
	開発実践報告Ⅰ（保健体育）	2前	2		○	3					兼2	共同	
	開発実践報告Ⅱ（保健体育）	2後	2		○	3					兼2	共同	
	開発実践基礎（カリキュラム開発）	1後	2		○	2	4					共同	
	開発実践報告Ⅰ（カリキュラム開発）	2前	2		○	2	4					共同	
	開発実践報告Ⅱ（カリキュラム開発）	2後	2		○	2	4					共同	
	特別支援教育開発実践基礎	1後	2		○	2	1		1			共同	
	特別支援教育開発実践報告Ⅰ	2前	2		○	3	1		1			共同	
	特別支援教育開発実践報告Ⅱ	2後	2		○	3	1		1			共同	
	開発実践基礎	1後	2		○	2	2		1			共同	
	開発実践報告Ⅰ	2前	2		○	3	2		1		兼1	共同	
	開発実践報告Ⅱ	2後	2		○	3	2		1		兼1	共同	
	小計（42科目）	—	0	84	0	—	25	21	0	2	0	兼28	
実習科目	基礎実習（学校教育臨床実習）	1前・後	4		○	1	2					共同	
	授業開発臨床実習（学校教育臨床実習）	2前	3		○	1	2					共同、集中	
	教育臨床実習（学校教育臨床実習）	2前	3		○	1	2					共同、集中	
	基礎実習（特別支援学校教育臨床実習）	1前・後	4		○	1	1		1			共同	
	授業開発臨床実習（特別支援学校教育臨床実習）	2前	3		○	2	1		1			共同、集中	
	教育臨床実習（特別支援学校教育臨床実習）	2前	3		○	2	1		1			共同、集中	
	教育行政実習（学校管理職臨床実習）	1前	3		○	3	2		1			共同、集中	
	学校経営実習Ⅰ（学校管理職臨床実習）	1後	3		○	3	2		1			共同、集中	
	学校経営実習Ⅱ（学校管理職臨床実習）	2前	4		○	3	2		1			共同、集中	
	教育行政実習（特別支援学校管理職臨床実習）	1前	3		○	2						共同、集中	
	学校経営実習Ⅰ（特別支援学校管理職臨床実習）	1後	3		○	2						共同、集中	
	学校経営実習Ⅱ（特別支援学校管理職臨床実習）	2前	4		○	2						共同、集中	
小計（12科目）	—	0	40	0	—	7	5	0	2	0	兼0		
合計（166科目）			—	14	334	0	—	25	23	0	2	0	兼35
学位又は称号	教職修士（専門職）			学位又は学科の分野			教員養成関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等						
【修了要件】 46単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：40単位（年間）（ただし、学部開講科目、実習科目、集中講義を除く。))							1学年の学期区分			2期			
							1学期の授業期間			15週			
							1時限の授業時間			90分			
【履修方法】 (教科指導能力開発コース) 専攻共通科目 18単位、専門科目 8単位（※1）、専門科目（開発実践科目） 6単位（※2）、実習科目 10単位（※3）、自由選択科目 4単位（※4） ※1 8単位のうち、2単位は教科横断型の科目（「社会・コミュニケーション教育に関する学習指導のデザイン」「自然科学教育に関する学習指導のデザイン」「芸術身体表現教育の学習のデザイン」）の中から、所属する系が指定する科目を履修すること。6単位は所属する系の分野（◆）が指定する科目から履修すること。 ※2 所属する系の分野（◆）が指定する科目から履修すること。 ※3 所属するコースが指定する科目から履修すること。 ※4 他のコースの専門科目（開発実践科目を除く）を含めることができる。 ◆各系には次の分野を設定する。 言語社会系 国語科教育実践分野、社会科教育実践分野、英語科教育実践分野 サイエンス系 数学科教育実践分野、理科教育実践分野、技術科教育実践分野、家庭科教育実践分野 芸術身体表現系 音楽科教育実践分野、美術科教育実践分野、保健体育科教育実践分野 (教育実践開発コース) 専攻共通科目 18単位、専門科目 8単位、専門科目（開発実践科目） 6単位（※5）、実習科目 10単位（※5）、自由選択科目 4単位（※6） ※5 所属するコースが指定する科目から履修すること。 ※6 他のコースの専門科目（開発実践科目を除く）を含めることができる。													

(学校管理職養成コース)

専攻共通科目 14単位, 専門科目 12単位, 専門科目(開発実践科目) 6単位(※7),
実習科目 10単位(※7), 自由選択科目 4単位(※8)

※7 所属するコースが指定する科目から履修すること。

※8 他のコースの専門科目(開発実践科目を除く)を含めることができる。

教育課程等の概要																	
【既設】(大学院教育学研究科教職実践開発専攻)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専攻共通科目	学校経営の理論と実践	1前	2			○						1					
	授業研究基礎論	1前	2			○			2	1						共同	
	生徒指導・教育相談の理論と実践	1前	2			○			1	1						共同	
	学校改革の理論と実践	1前	2			○			1								
	教職開発論	1前	2			○			1								
	特別支援教育の理論と実践	1前	2			○			2							オムニバス	
	カリキュラムマネジメントの理論と実践	1後	2			○				1							
	授業研究開発論	1後		2		○			1	1						共同	
	学級経営の理論と実践	1前		2		○				1							
	学校適応の理論と実践	1前		2		○				1							
小計(10科目)		—	14	6	0			—	7	4	0	1	0	兼0			
専門科目 学校管理職養成コース	教育政策の理論と実践	1後		2		○			1								
	教育法規の解釈と実際の運用	1後		2		○						1		兼1		共同	
	学校評価の開発実践	1後		2		○			2			1				共同	
	学校経営計画の開発実践	1後		2		○			1								
	学校財務・事務の開発実践	1後		2		○			1								
	学校の危機管理対策	2前		2		○			2			1				共同	
	地域社会と学校の連携と協働	2後		2		○								兼1			
	インクルーシブ教育の開発実践	1後		2		○			1								
	特別支援学校経営の理論と実践	1後		2		○			2							共同	
	特別支援学校の危機管理対策	2前		2		○			2							共同	
特別支援学校教育課程の理論と実践	1後		2		○			1									
教育実践開発コース	授業と学びの評価	1後		2		○			1	2						オムニバス	
	総合的学習の授業開発	1後		2		○				2						共同	
	問題行動と社会性の理論と実践	1後		2		○				1							
	道徳教育の開発実践	1前		2		○			1								
	特別活動の開発実践	2前		2		○				1							
	特別支援学校・学級の授業開発	1後		2		○			1								
	教育実践の基礎研究	1前		2		○			3	2						共同	
	模擬授業演習	1後		2		○			1	1						共同	
	授業研究マネジメント	1後		2		○			1							集中	
	総合的・横断的なカリキュラムの開発	1通		2		○				2						共同、集中	
	道徳の指導と評価	1通		2		○			1							集中	
	教育臨床の理論と実践	1通		2		○			1							集中	
	特別支援教育実践論Ⅰ	1通		2		○			1							集中	
特別支援教育実践論Ⅱ	1通		2		○			1							集中		
小計(25科目)		—	0	50	0			—	8	4	0	1	0	兼2			
専門科目 (開発実践科目)	開発実践基礎	1後		2				○	5	4		1				共同	
	特別支援教育開発実践基礎	1後		2				○	2							共同	
	学校改善開発実践報告Ⅰ	2前		2				○	2			1				共同	
	学校改善開発実践報告Ⅱ	2後		2				○	2			1				共同	
	授業開発実践報告Ⅰ	2前		2				○	2	3		1				共同	
	授業開発実践報告Ⅱ	2後		2				○	1	2						共同	
	教育臨床開発実践報告Ⅰ	2前		2				○	1	2						共同	
	教育臨床開発実践報告Ⅱ	2後		2				○	1	2						共同	
	特別支援教育開発実践報告Ⅰ	2前		2				○	3							共同	
	特別支援教育開発実践報告Ⅱ	2後		2				○	3							共同	
小計(10科目)		—	0	20	0			—	8	4	0	1	0	兼0			
実習科目	教育行政実習(学校管理職臨床実習)	1通		3				○	5	4		1		兼1		共同、集中	
	学校経営実習Ⅰ(学校管理職臨床実習)	1後		3				○	5	4		1		兼1		共同、集中	
	学校経営実習Ⅱ(学校管理職臨床実習)	2通		4				○	5	4		1		兼1		共同、集中	

教育行政実習（特別支援学校管理職臨床実習）	1通	3				○	3							共同、集中
学校経営実習Ⅰ（特別支援学校管理職臨床実習）	1後	3				○	3							共同、集中
学校経営実習Ⅱ（特別支援学校管理職臨床実習）	2通	4				○	3							共同、集中
基礎実習（学校教育臨床実習）	1通	4				○	5	4		1				共同、集中
授業開発臨床実習（学校教育臨床実習）	2通	3				○	5	4		1				共同、集中
教育臨床実習（学校教育臨床実習）	1通	3				○	5	4		1				共同、集中
基礎実習（特別支援学校教育臨床実習）	1前	4				○	3							共同、集中
授業開発臨床実習（特別支援学校教育臨床実習）	2通	3				○	3							共同、集中
教育臨床実習（特別支援学校教育臨床実習）	2通	3				○	3							共同、集中
小計（12科目）	—	0	40	0	—	—	8	4	0	1	0	兼1		
合計（57科目）		—	14	116	0	—	8	4	0	1	0	兼3		
学位又は称号	教職修士（専門職）				学位又は学科の分野			教員養成関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
【修了要件】 46単位以上を修得すること。 （履修科目の登録の上限：40単位（年間）（ただし、学部開講科目、実習科目、集中講義を除く。）） 【履修方法】 （学校管理職養成コース） 専攻共通科目 14単位、専門科目 12単位、専門科目（開発実践科目） 6単位（※1）、 実習科目 10単位（※1）、自由選択科目 4単位（※2） ※1 所属するコースが指定する科目から履修すること。 ※2 他のコースの専門科目（開発実践科目を除く）を含めることができる。 （教育実践開発コース） 専攻共通科目 20単位、専門科目 6単位、専門科目（開発実践科目） 6単位（※3）、 実習科目 10単位（※3）、自由選択科目 4単位（※4） ※3 所属するコースが指定する科目から履修すること。 ※4 他のコースの専門科目（開発実践科目を除く）を含めることができる。								1学年の学期区分		2期				
								1学期の授業期間		15週				
								1時限の授業時間		90分				

教 育 課 程 等 の 概 要															
(岐阜大学教育学部学校教育教員養成課程)															
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
全学 共通 教育	初年次 ミナ ミナ ミナ	初年次セミナー	1前	2			○			38	39	0	6	0	クラス分け
	人文 科学	哲学入門 (正義について哲学しよう)	1前	2			○								兼1
		哲学入門 (西洋哲学入門)	1後	2			○								兼1
		近現代思想 (近現代の平等)	1後	2			○								兼1
		科学論 (科学論入門：近代的自然観と自然科学)	1前	2			○								兼1
		科学論 (生命と癒しの科学論)	1前	2			○								兼1
		東洋・日本思想 (中国の古典思想)	1前	2			○		1						兼1
		東洋・日本思想 (インド思想の特質)	1前	2			○								兼1
		倫理学 (倫理学とは何か)	1後	2			○								兼1
		宗教学 (比較宗教学概論)	1前	2			○								兼1
		宗教学 (日本の文化と宗教)	1後	2			○								兼1
		歴史学入門 (歴史学とは何か)	1前	2			○								兼1
		西洋・中東史 (西欧諸国形成史)	1前	2			○								兼1
		西洋・中東史 (西洋史 (イギリス近代史))	1前	2			○			1					兼1
		中国・朝鮮半島史 (中国史)	1後	2			○								兼1
		中国・朝鮮半島史 (朝鮮・韓国の文化と日本との交流史)	1後	2			○								兼1
		世界近現代史 (アメリカ概論)	1前	2			○								兼1
		世界近現代史 (ドイツ文化史)	1後	2			○								兼1
		世界近現代史 (現代国際関係史)	1前	2			○								兼1
		日本史 (日本の歴史)	1後	2			○								兼1
		日本近世史 (近世都市史)	1前	2			○								兼1
		日本近世史 (近世文化史)	1後	2			○								兼1
		日本近現代史 (近現代日本の政治と国家主義運動)	1後	2			○								兼1
		日本近現代史 (近現代日本における女性)	1前	2			○								兼1
		民俗学・人類学 (人類学入門)	1後	2			○								兼1
		文学 (文学とジェンダー：世界の文学に見る女性像)	1前	2			○								兼1
		文学 (文学とは何か)	1前	2			○								兼1
		外国文学 (西洋文学論)	1後	2			○								兼1
		外国文学 (三國志時代の文学)	1後	2			○			1					兼1
		外国文学 (朝鮮・韓国の神話・文学・伝統芸能)	1前	2			○								兼1
		外国文学 (ロシア革命と文学)	1後	2			○								兼1
		日本文学 (近世文学の世界)	1後	2			○								兼1
		日本文学 (日本現代小説の魅力)	1後	2			○								兼1
		言語学入門 (日本語学入門)	1前・後	2			○								兼1
		言語学 (フランス語論)	1前	2			○								兼1
		言語学 (児童の文章表現)	1後	2			○		1						兼1
		言語学 (言語地理学)	1前	2			○		1						兼1
		日本語表現論 (劇作における会話表現)	1前	2			○								兼1
		日本語表現論 (日本語口語表現)	1前・後	2			○								兼1
		心理学入門 (心理学概論)	1前	2			○		2	3					オムニバス
		心理学 (幼児発達支援入門)	1後	2			○								兼1
		心理学実験・調査法	1前	2			○								兼1
		西洋文化論 (ロシア人の生活と言語)	1前	2			○								兼2
		西洋文化論 (ロシアの自然と言語)	1後	2			○								兼2
		西洋文化論 (西洋建築史)	1後	2			○			1					兼2
		日本文化論 (日本語文化論：国語教育史)	1前	2			○		1						兼5
		日本文化論 (衣生活文化史)	1前	2			○		1						兼2
		日本文化論 (金属で学ぶ日本文化史)	1前	2			○			1					兼1
		現代文化論 (現代の文化研究)	1後	2			○								オムニバス
		現代文化論 (科学技術と人間社会)	1前	2			○								オムニバス
		異文化論 (通過儀礼(人の一生)に見る世界の諸地域)	1後	2			○								兼1
		美術論 (美術史)	1前	2			○		1						
		美術論 (デザイン論)	1前	2			○		1						
		音楽論 (音楽への誘い)	1後	2			○		1						
		音楽論 (音楽芸能文化概論)	1後	2			○			1					
		音楽論 (ドイツ歌曲への誘い)	1前	2			○			1					
		音楽論 (オーケストラ歌曲を聴く)	1前	2			○			1					
		音楽論 (ピアノ基礎 (連弾))	1後	2			○			1					
		音楽論 (実用作曲法)	1前	2			○			1					
社会 科学		法学入門 (法とは何か)	1前	2			○								兼1
		法学入門 (立法体験：まちづくり条例制定の体験)	1前	2			○								兼1
		日本国憲法 (憲法)	1前	2			○								兼1
		日本国憲法 (教職のための憲法)	1後	2			○		1						兼1
		日本国憲法 (統治機構論)	1後	2			○								兼1
		経済学入門 (現代の日本経済)	1前	2			○				1				
		経済学入門 (社会における経済の仕組み)	1前	2			○								兼1
		地理学入門	1前	2			○								兼1
		民事法 (家族生活と法)	1前	2			○								兼1
		民事法 (財産と法)	1後	2			○								兼1
	社会法 (労働と法)	1後	2			○								兼1	

	社会学 (福祉と法)	1後	2	○								兼1	
	ジェンダー法 (ジェンダーと法)	1前	2	○								兼2	集中
	裁判法 (指紋と裁判)	1後	2	○								兼1	
	刑事法 (犯罪と刑罰について)	1後	2	○								兼1	
	国際法 (国際社会の法)	1前	2	○			1						
	国際法 (国際法入門)	1後	2	○								兼1	
	知的財産権法 (知的財産権法入門)	1前	2	○								兼3	
	政治学入門 (政治とは何か)	1後	2	○								兼1	
	現代政治論 (現代日本の政治)	1前	2	○								兼1	
	現代政治論 (日本の政治と世界)	1後	2	○								兼1	
	現代政治論 (日本人と国際社会)	1前	2	○								兼1	
	現代政治論 (近代日本の政治と行政)	1後	2	○								兼1	
	現代政治論 (政治理論と現代日本の政治)	1後	2	○								兼1	
	平和学 (戦争の被害と加害、そして抵抗)	1前	2	○								兼1	
	平和学 (国際平和学)	1前	2	○			1						
	平和学 (戦争と平和の法制度)	1後	2	○								兼1	
	経済学入門 (社会における経済の仕組み)	1前	2	○								兼1	
	経済学入門 (現代の日本経済)	1前	2	○								兼1	
	経済学史 (日本経済論)	1後	2	○								兼1	
	財政学 (行財政制度の改革と住民)	1前	2	○								兼1	
	マクロ経済学 (銀行論・金融政策論)	1前	2	○								兼1	
	ミクロ経済学 (生活の経済と法律)	1前	2	○			1						
	ミクロ経済学 (交通経済学)	1前	2	○									
	経営学入門 (経営学とは何か)	1前	2	○								兼1	
	マネージメント論 (マーケティング論入門)	1後	2	○								兼1	
	社会学入門 (社会階層論)	1前	2	○								兼1	
	現代社会論 (少子高齢化社会)	1前	2	○								兼1	
	現代社会論 (現代を生きる家族)	1前	2	○								兼7	オムニバス
	現代社会論 (社会の基盤)	1後	2	○								兼6	オムニバス
	現代社会論 (Amish のライフスタイルから現代 社会を考える)	1後	2	○			1						
	現代社会論 (やさしいジェンダー学入門)	1後	2	○								兼1	
	メディア論 (メディアの特徴・歴史・現状・課題)	1前	2	○								兼1	
	メディア論 (メディア論の基礎)	1前	2	○								兼1	
	メディア論 (国際メディア論)	1後	2	○								兼1	
	広報・PR論入門 (岐阜大学をケーススタディに)	1前	2	○			1					兼3	オムニバス
	地理学入門 (日本の地理入門)	1前	2	○								兼1	
	地理学 (地図・環境・立地・都市)	1前	2	○			1						
	地理学 (人間と社会)	1後	2	○								兼1	
	地理学 (都市論)	1前	2	○								兼1	
	地域論 (地域経済と中小企業)	1前	2	○								兼1	
	教育論 (現代社会問題と教育)	1前	2	○								兼1	
	教育論 (障害児教育臨床学)	1前	2	○									
	教育論 (障害学への招待)	1前	2	○			1						
	教育論 (教育哲学)	1前	2	○								兼1	
	教育論 (学校の社会的意味を問う)	1後	2	○								兼1	
	教育論 (環境教育入門)	1後	2	○			1						
	教育論 (岐阜大学の歴史と高等教育論)	1後	2	○								兼1	
	社会総合 (環境、CSR (企業の社会的責任)とマネジメント)	1前	2	○								兼1	集中
	社会総合 (社会科学入門(やさしい現代社会論))	1後	2	○			1					兼2	
自然科学 科目 目録	教養の数学 (数学概論 I (実数と数列))	1後	2	○						1			
	教養の数学 (コンピュータのための数学概論)	1前	2	○								兼1	
	教養の数学 (図学)	1後	2	○								兼1	
	基礎代数学 (古典数学へのいざない)	1前	2	○								兼1	
	基礎代数学 (数学概論II)	1後	2	○								兼2	オムニバス
	基礎解析学 (解析学の基礎)	1前	2	○								兼1	
	基礎解析学 (微分積分学)	1後	2	○				1					
	基礎統計学 (統計学の基礎)	1後	2	○								兼1	
	物理学入門 (現代物理学の基礎(相対論と量子論入門))	1前	2	○								兼1	
	物理学入門 (身のまわりの物理学)	1前	2	○								兼1	
	教養の物理学 (雷の科学)	1前	2	○								兼1	
	教養の物理学 (日曜大工からはじめる力学)	1前	2	○								兼1	
	教養の物理学 (現代の視点から、古典に学ぶ(物理系))	1後	2	○								兼4	オムニバス
	教養の物理学 (物理学の基礎)	1後	2	○								兼1	
	教養の物理学 (物性の力学)	1後	2	○								兼2	
	教養の物理学 (力学現象の数学的見方)	1後	2	○								兼1	
	現代物理学 (現代物理学概論)	1後	2	○								兼1	
	化学入門 (身近なものから学ぶ化学)	1前	2	○								兼1	
	化学入門 (日常生活でよく見る化学現象や化学製品を学ぶ)	1前	2	○								兼1	
	教養の化学 (有機化学概論)	1前	2	○								兼2	
	教養の化学 (化学結合と反応のしくみ)	1前	2	○								兼1	
	教養の化学 (化学概論)	1後	2	○								兼2	
	教養の化学 (コロイド及び高分子化学概論)	1後	2	○								兼1	
	教養の化学 (現代の視点から、古典に学ぶ(化学系))	1後	2	○				1				兼6	
	教養の化学 (有機化合物を分子模型で探る)	1後	2	○								兼1	
	現代化学 (フラスチック材料の基礎)	1前	2	○								兼1	
	現代化学 (ソフトマター)	1後	2	○								兼3	
	生物学入門 (現代生物学入門)	1前	2	○								兼3	オムニバス
	生物学入門 (微生物と病気)	1前	2	○								兼1	
	教養の生物学 (生命の仕組み)	1前	2	○								兼4	オムニバス
	教養の生物学 (分子から地球レベルの光合成)	1前	2	○								兼1	
	教養の生物学 (動物と病気)	1後	2	○								兼3	オムニバス

	教養の生物学（ヒトのからだ）	1後	2																兼4
	現代生物学（生き物よもやま話）	1後	2																兼8
	現代生物学（葉の細胞生物学）	1後	2																兼1
	教養の医学（人体生理学基礎）	1後	2																兼3
	現代医学（生体防御・腫瘍病理基礎）	1後	2																兼6
	宇宙地球科学入門（天文学への招待）	1後	2																兼1
	教養の宇宙地球科学（気象学概論）	1前	2																兼2
	教養の宇宙地球科学（地球環境の変遷）	1後	2																兼1
	教養の宇宙地球科学（ESD入門）	1前	2										1						兼1
	教養の環境学（自然災害と生活）	1後	2																兼2
	教養の環境学（生物の多様性と人間社会）	1前	2																兼5 オムニバス
	教養の環境学（土の物理的環境）	1前	2																兼2
	教養の環境学（生物生産と環境）	1後	2																兼3
	現代環境学（エネルギー問題）	1前	2																兼1
	現代環境学（生物多様性を支える森林と動物たち）	1前	2																兼5
	現代環境学（人の営みと環境）	1後	2																兼4
	現代環境学（世界の食料と人口問題）	1前	2																兼5
	現代環境学（ESD実践研究）	1後	2																兼4
	自然科学総合（化学と生物のインターフェース）	1後	2																兼5
	自然科学総合（医学・生物学のための量子サイエンス）	1後	2																兼1
	自然科学総合（科学的なものの考え方）	1前	2										1						兼1
	自然科学総合（情報・通信の基礎）	1後	2																兼1
	自然科学総合（数値シミュレーション入門）	1前	2																兼1
	自然科学総合（ものの科学）	1後	2																兼1
	自然科学実験講座（理科実験法講座）	1前	2																兼5 集中
	自然科学実験講座（ご飯までのフィールド科学）	1前	2																兼4
	自然科学実験講座（家畜たちのフィールド科学）	1前	2																兼1
	自然科学実験講座（森と川のフィールド科学）	1前	2																兼2
	情報学入門（ITの歴史と未来）	1前	2																兼1
	情報学入門（経営のためのオペレーションズ・リサーチ）	1前	2																兼1
	教養の情報学（オペレーションズ・リサーチにおけるモデリング）	1後	2																兼1
	教養の情報学（情報と物理）	1後	2																兼2
	教養の情報学（データサイエンス入門）	1後	2																兼1
複合領域科目群	社会の中の看護	1後	2																兼5 オムニバス
	食の教養	1前・後	2																兼1
	栄養と運動	1後	2									1							
	交通安全の科学	1前	2												1				兼5
	医療と生命	1前	2																兼2
	医学史	1前	2																兼11 オムニバス
	健康とQOL	1前	2																兼5
	身近な薬と毒の科学	1後	2																兼2
	世界の農業事情	1後	2																兼5 オムニバス
	生物共生論	1前	2																兼3
	現代医療の最前線	1前	2																兼14 オムニバス
	環境マネジメントと環境経営	1前・後	2																兼6 オムニバス
	免疫学	1前	2																兼1
	森と美術	1後	2																兼1
	岐阜県の生物の分布と生態	1後	2									2							兼4
	現代のまちづくりと住民	1後	2										2			1			兼4
	岐阜大学の教育研究と運営	1前	2											3					兼14 オムニバス
	岐阜の自然（地質・活断層と水環境）	1前	2																兼3 オムニバス
	岐阜県の農産物の生産・流通・消費	1後	2																兼1
	岐阜県誌：岐阜県の歴史・文化・自然	1前	2																兼3
	岐阜の自然と都市，そこに生きる生き物と人	1前	2																兼3
	岐阜県の食構造	1前	2																兼1
	フューチャーセンター入門	1前・後	2																兼3
	フューチャーセンター実践Ⅰ	1前	2																兼3 集中
	フューチャーセンター実践Ⅱ	1後	2																兼3 集中
	岐阜県の方言	1前	2											1					
	人と自然との関わりから見た岐阜	1前	2																兼3
	人と自然の関わりから見た岐阜（実践）	1後	2																兼3
	外国語と地域の方言	1前	2																兼1
	岐阜の産業：地域で活躍する企業と人	1前	2																兼2
	岐阜の伝統産業：陶磁器，刃物，石灰，紙，繊維	1後	2																兼5
	地域産業と企業戦略入門：岐阜の企業を知る	1前・後	2																兼5
	岐阜にまつわる東洋史	1前	2																兼1
	地域資源の活用と観光デザイン	1前	2																兼5
	地域防災リーダー基礎	1前・後	2																兼4 オムニバス
	地域防災リーダー実践Ⅰ	1前・後	2																兼4 オムニバス
	地域防災リーダー実践Ⅱ	1前・後	2																兼4 オムニバス
	ワーク・ライフ・バランス（男女共同参画論）	1後	2																兼1
	学びをデザインする	1後	2																兼1
	ひろがる学び，つながる学び	1前	2																兼1
	高年次教養セミナーⅠ	1前・後	2										2						兼4
	高年次教養セミナーⅡ	1前・後	2														1		兼4
	自分らしいキャリア設計Ⅰ	1前・後	2																兼5
	自分らしいキャリア設計Ⅱ	1前・後	2																兼5
	現代社会を支える企業	1後	2																兼1
	生活と金融・人生設計と資産形成	1後	2																兼1
	地域協働型インターンシップ	1前・後	2																兼6 集中
	自治体協働型インターンシップ	1前・後	2																兼6 集中

		産業協働型インターンシップ I	1前	2														兼6	集中
		社会の多様な働き方	1前	2														兼1	
		キャリア形成論	1前・後	2														兼1	
		ライフコース論 (人生設計と生活保障)	1後	2														兼1	
		プロジェクト型インターンシップ	1後	2														兼4	
		現代社会とボランティア・地域活動	1前・後	2														兼4	
		自己省察と将来のキャリア設計	1前・後	2														兼8	
		イノベーション型インターンシップ I	1前	2														兼6	
		イノベーション型インターンシップ II	1後	2														兼6	
		地域リーダー実践 (上級) I	1前	2														兼6	
		地域リーダー実践 (上級) II	1後	2														兼6	
		産業リーダー実践	1前・後	2														兼6	
	英語	英語 1	1前	1								1						兼6	
		英語 2	1前	1										1				兼6	
		英語 3	1後	1								1						兼6	
		英語 4	1後	1									1					兼6	
	第二外国語	ドイツ語 I	1前	1														兼7	
		ドイツ語 II	1後	1														兼7	
		フランス語 I	1前	1														兼4	
		フランス語 II	1後	1								1						兼3	
		ポルトガル語 I	1前	1														兼1	
		ポルトガル語 II	1後	1														兼1	
		中国語 I	1前	1														兼6	
		中国語 II	1後	1														兼6	
		朝鮮・韓国語 I	1前	1														兼1	
		朝鮮・韓国語 II	1後	1														兼1	
	スポーツ・健康科学	健康科学 (運動・栄養・休養と健康)	1前	2														兼5	オムニバス
		健康科学	1後	2														兼9	オムニバス
		スポーツコンディショニング	1後	2														兼1	
		剣道 I	1前	2								1							
		ヨガ・エアロビクス	1前	2								1							
		トレーニング	1後	2								1							
		ハンドボール	1前	2								1							
		新卓球 (ラージボール)	1後	2														兼1	
		ファストピッチ・ソフトボール (ウインドミル投法入門)	1前	2														兼1	
		卓球・水泳	1前	2														兼2	
		バドミントンA I	1前・後	2														兼3	
		女子サッカーA	1前	2														兼1	
		女子サッカーB	1後	2														兼1	
		サッカー	1前・後	2														兼1	
		卓球	1前・後	2														兼3	
		ボールゲームIII	1後	2														兼1	
		バレーボールA	1前	2														兼1	
		テニス I	1前	2														兼1	
		テニス II	1後	2														兼1	
		バスケットボールA	1前・後	2														兼1	
		ソフトボールB I	1前	2														兼1	
		アダブテッドスポーツ	1前	2														兼1	
		フットサル	1後	2														兼1	
		小計 (281科目)		6	540	0						38	39	0	6	0		兼240	
学部開講科目	教養科目	教養基礎	情報教育	1前	2							2	3					兼1	クラス分け
			人権	1後	2							3	5		1			兼3	オムニバス
			外国語コミュニケーション (英語)	2前・後	2							1	2		2			兼2	クラス分け
			外国語コミュニケーション (ドイツ語)	2前	2							1						兼1	
			外国語コミュニケーション (フランス語)	2前	2							1							
			外国語コミュニケーション (中国語)	2前	2													兼1	
			外国語コミュニケーション (ポルトガル語)	2前	2							1						兼1	共同
			外国語コミュニケーション (朝鮮・韓国語)	2前	2							1						兼1	共同
専攻科目	専攻科目	国語教育	国語学概論	1後	2							1							
			音声言語・文章表現論	3後	2							1							
			国語学各論 I	2前	2							1							
			国語学各論 II	2後	2							1							
			国語学各論 III	3前	2							1							
			国語学各論 IV	3後	2							1							
			国語学研究	3後	1							2							
			国語学演習 I	4前	2							2							
			国語学演習 II	4後	2							2							
			国文学概論	1後	2									1					
			国文学史	2前	2									1					
			国文学各論 I	3前	2									1					
			国文学各論 II	1・2・3・4後	2									1					隔年
			国文学研究	3後	1									1					
			国文学演習 I	4前	2									1					
			国文学演習 II	4後	2									1					
			漢文学概論	2前	2									1					
			漢文学各論 I	2後	2									1					
			漢文学各論 II	3前	2									1					
			漢文学研究	3後	1									1					
			漢文学演習 I	4前	2									1					
			漢文学演習 II	4後	2									1					
			書道	1前	1									1					
			国語科教育学研究	3後	1									2					オムニバス

	国語科教育学演習Ⅰ	4前		2			○		2									
	国語科教育学演習Ⅱ	4後		2			○		2									
社会科教育	日本史Ⅰ	1後		2			○										兼1	
	日本史Ⅱ	2前		2			○			1							兼1	隔年
	日本史Ⅲ	2後		2			○											
	西洋史Ⅰ	1前		2			○			1								
	西洋史Ⅱ	1後		2			○			1								
	日本文化史	2・3・4前		2			○					1						隔年
	西洋文化史	3前		2			○											
	東洋文化史	3後		2			○			1								隔年
	日本史基礎研究Ⅰ	3前		1				○			1							
	日本史基礎研究Ⅲ	3前		1				○			1							
	西洋史基礎研究Ⅰ	3前		1				○			1							
	西洋史基礎研究Ⅱ	3後		1				○			1							
	歴史学研究Ⅰ	4前		1				○				2						共同
	歴史学研究Ⅱ	4後		1				○				2						共同
	人文地理学Ⅰ	3前		2							1							
	人文地理学演習Ⅰ	4前		1					○		1							
	人文地理学演習Ⅱ	4後		1					○		1							
	自然地理学Ⅰ	1前		2				○										兼1
	自然地理学演習Ⅰ	4前		1					○		1	1						共同
	自然地理学演習Ⅱ	4後		1					○		1	1						共同
	地理学実験	2後		1					○		1	1						共同
	地誌学Ⅰ	1後		2				○				1						
	地誌学Ⅱ	3前		2								1						
	地誌学演習Ⅰ	4前		1					○			1						
	地誌学演習Ⅱ	4後		1					○			1						
	地理学野外実習Ⅰ	2後		1					○			1						
	地理学野外実習Ⅱ	3後		1					○									集中
	法律学Ⅰ（国際法を含む）	2前		2				○			1							
	法律学Ⅱ（国際法を含む）	2後		2				○			1							
	政治学	2前		2				○				1						
	国際政治学	2後		2				○				1						
	経済学Ⅰ（国際経済を含む）	2前		2				○						1				
	経済学Ⅱ	2後		2				○						1				
	社会科授業実践論	3後		2				○				1						
	哲学Ⅰ	2前		2				○			1							
	哲学Ⅱ	3後		2				○			1							隔年
哲学Ⅲ	3後		2				○				1						隔年	
社会学Ⅰ	2前		2				○										兼1	
社会学Ⅱ	3後		2				○										兼1	
法律学研究Ⅰ	3前		2				○			1								
法律学研究Ⅱ	3後		2				○			1								
法律学研究Ⅲ	4後		2				○			1								
経済学研究Ⅰ	3後		2				○						1					
経済学研究Ⅱ	3後		2				○						1					
経済学研究Ⅲ	4後		2				○						1					
政治学研究Ⅰ	3前		2				○				1							
政治学研究Ⅱ	3後		2				○				1							
政治学研究Ⅲ	4後		2				○				1							
東洋哲学研究Ⅰ	3後		2				○			1								
東洋哲学研究Ⅱ	4前		2				○			1								
東洋哲学研究Ⅲ	4後		2				○			1								
社会科教育研究Ⅰ	4前		2				○			1								
社会科教育研究Ⅱ	4後		2				○			1								
公民教育研究Ⅰ	3前		2				○				1							
公民教育研究Ⅱ	4前		2				○				1							
公民教育研究Ⅲ	4後		2				○				1							
数学教育	線型代数学Ⅰ	1前		2			○				1							
	線型代数学Ⅱ	1後		2			○				1							
	代数学Ⅰ	2後		2			○				1							
	代数学Ⅱ	3前		2			○				1							
	幾何学Ⅰ	2前		2			○				1							
	幾何学Ⅱ	3前		2			○				1							
	純微分積分学	1後		2			○				1							
	解析学Ⅰ	2前		2			○				1							
	解析学Ⅱ	3前		2			○				1							
	解析学Ⅲ	3後		2			○				1							
	解析学Ⅳ	3後		2			○				1							
	解析学演習	2前		1				○			1							
	位相数学Ⅰ	2後		2			○				1							
	位相数学Ⅱ	3前		2			○			1								
	位相数学Ⅲ	3後		2			○				1							
	統計学Ⅰ	3後		2			○				1							
	電子計算機	2前		2			○				1							
理科教育	理科Ⅰ（物理学）	2前		2			○				1						兼1	
	物理数学セミナー	1前		1				○		1								
	力学（講義及び演習）Ⅰ	1後		1				○			1							
	力学（講義及び演習）Ⅱ	2前		1				○			1							
	電磁気学（講義及び演習）Ⅰ	2前		2				○									兼1	
	電磁気学（講義及び演習）Ⅱ	2後		1				○									兼1	

	熱力・統計力学（講義及び演習）	2後	1				○		1									
	量子力学（講義及び演習）Ⅰ	3前	2				○											
	量子力学（講義及び演習）Ⅱ	3後	1				○											
	応用物理学実験Ⅰ	2前	1					○										
	応用物理学実験Ⅱ	3前	1					○						兼1		共同		
	インターンシップ（就業体験）	2前	1						1							集中		
	物理学実験及びコンピュータ処理	1後	1					○	1		1					共同		
化学	理科Ⅱ（化学）	2前	1					○	1									
	物理化学	2前	2					○			1							
	無機化学実験法及び実験	2後	1						○		1							
	物理化学実験法及び実験	2後	1						○		1							
	有機化学	2後	2					○		1								
	有機化学実験法及び実験	3前	1						○	1								
	生物化学実験法及び実験	3前	1						○	1								
	環境化学	3後	2						○	1								
	分析化学	2後	2						○			1						
	化学特論	3前	1							○	1							
	化学実験及びコンピュータ処理	1後	1							○	1		1				共同	
	生物学	理科Ⅲ（生物学）	2前	2						○		2	1					オムニバス
植物系統学		2後	2						○			1					兼1	
植物形態学及び実験		3前	1							○		1					兼1	
遺伝学		2後	2							○		1						
細胞分子生物学及び実験		3後	1							○		1						
動物生理学		2前	2							○		1						
動物生態学		2前	2							○							兼1	
動物生理学及び実験		2後	1								○	1						
生物学特論Ⅰ		4前	1						○		2	1					共同	
生物学特論Ⅱ		4後	1						○		2	1					共同	
臨海実験法及び実験		1前	1							○	2	1					兼1	
野外実習		2前	1								○	2	1				集中、共同	
植物生態学概論		2前	2							○		1						
進化生態学		3後	2							○		1						
生物学実験及びコンピュータ処理		1前	1								○	2	1				オムニバス	
地学		理科Ⅳ（地学）	2前	2						○			2					オムニバス
	地質学	2後	2							○		1						
	地質学実験法及び実験	3前	2								○	1						
	地球環境論	2後	2							○							兼1	
	地球物理学実験法及び実験	3後	2								○						兼1	
	地球システム論	3後	2								○		1					
	地球科学セミナーⅠ	4前	1								○		2				共同	
	地球科学セミナーⅡ	4後	1								○		2				共同	
	地球科学野外実習	3後	2									○	2				集中、共同	
	地学実験及びコンピュータ処理	1前	1									○	1					
音楽教育	ソルフェージュⅠ	1前	1							○		1						
	ソルフェージュⅡ	1後	1								○		1					
	音楽表現基礎	1前	1					○				2					共同	
	声楽基礎	1後	1								○		1					
	声楽Ⅰ	2前	1								○		1					
	声楽Ⅱ	2後	1									○	1					
	声楽Ⅲ	3前	1									○	1					
	声楽Ⅳ	3後	1										○	1				
	合唱Ⅰ	1後	1									○	1					
	合唱Ⅱ	2後	1										○	1				
	合唱Ⅲ	3後	1											○	1			
	合唱Ⅳ	4後	1												○	1		
	論	1・2前	1										○					兼1
	ピアノⅠ	1前	1									○		2				隔年、集中
	ピアノⅡ	1後	1										○	2				共同
	ピアノⅢ	2前	1											○	1			クラス分け
	ピアノⅣ	2後	1												○	1		
	ピアノⅤ	3前	1													○	1	
	ピアノⅥ	3後	1														○	1
	器楽奏法基礎	1後	1															○
	器楽奏法演習Ⅰ	2前	1															○
	器楽奏法演習Ⅱ	2後	1															○
	器楽奏法演習Ⅲ	3前	1															○
	器楽奏法演習Ⅳ	3後	1															○
	器楽合奏Ⅰ	2前	1															○
	器楽合奏Ⅱ	2後	1															○
	伴奏法	4前	1															○
	箏	1・2前	1															○
	指揮法	3前	1															○
	楽式論	2前	2															○
	和声学Ⅰ	1後	2															○
	和声学Ⅱ	3前	2															○
	和声学Ⅲ	3後	2															○
	作曲（編曲法を含む）	2後	2															○
	音楽史（日本の伝統音楽を含む）	2前	2															○
	民族音楽概論	3前	2															○
音楽教育セミナーⅠ	4前	1									○	1	5					
音楽教育セミナーⅡ	4後	1										○	1	5				

美術教育	基礎絵画Ⅰ	1前	1				○	1					兼1	共同
	基礎絵画Ⅱ	1後	1				○	1					兼1	共同
	絵画Ⅰ	2前	2				○	1	1				兼2	共同
	絵画Ⅱ	3前	2				○	1					兼1	共同
	絵画Ⅲ	3後	1				○	1					兼1	共同
	基礎彫塑Ⅰ	1前	1				○	1						
	基礎彫塑Ⅱ	1後	1				○	1						
	彫塑Ⅰ	2後	2				○	1						
	彫塑Ⅱ	3前	2				○	1						
	彫塑Ⅲ	3後	1				○	1						
	基礎デザインⅠ	1前	1				○	1						
	基礎デザインⅡ	1後	1				○	1						
	視覚デザインⅠ	2後	2				○	1						
	視覚デザインⅡ	3前	2				○	1						
	視覚デザインⅢ	3後	1				○	1						
	基礎工芸Ⅰ	1前	1				○		1					
	基礎工芸Ⅱ	1後	1				○		1					
	工芸Ⅰ	2前	2				○		1					
	工芸Ⅱ	3前	2				○		1					
	工芸Ⅲ	3後	1				○		1					
	陶芸	3前	1				○							兼1
	西洋美術史	2前	2			○		1						隔年
	日本美術史	2後	2			○		1						隔年
	美術教育実践教材論	2・3後	2			○		1						集中
	美術教育論研究	3後	2			○								兼1
	美術教育論演習	4前	1				○	3	1					
	美術制作演習	4後	1				○	3	1					
保健体育	陸上	2前	1				○			1				
	水泳	1前	1				○	1						
	体づくり・器械運動	1前	1				○	1						
	ダンス	2後	1				○	1						
	柔道	1・2後	1				○						兼1	隔年
	剣道	1後	1				○	1						
	バスケットボール	3・4前	1				○						兼1	隔年
	バレーボール	1・2後	1				○						兼1	隔年
	ハンドボール	1・2後	1				○	1					兼1	隔年
	サッカー	3・4前	1				○		1					
	野外運動（スキー）	1・2後	1				○		1		1			隔年、集中
	野外運動（キャンプ）	1・2前	1				○	1	1		1			隔年、集中
	体育原理	1・2後	2			○							兼1	隔年、集中
	体育社会学	4前	2			○		1						
	体育経営管理学	4前	2			○		1					兼1	共同
	体育心理学	1・2前	2			○							兼1	隔年
	運動学（運動方法学を含む）	3前	2			○		1						
	生理学（解剖学・運動生理学を含む）	2前	2			○			1					
	運動生理学	2後	2			○			1					
	衛生学・公衆衛生学	3後	2			○		1						
	学校保健Ⅰ（小児保健・精神保健を含む）	3後	2			○		1						
	学校保健Ⅱ（学校安全・救急処置を含む）	4前	2			○		1						
	保健体育演習Ⅰ	4前	1				○	5		1	1			
保健体育演習Ⅱ	4後	1				○	5		1	1				
技術教育	木材加工学	1後	2		○			1						
	木材加工学及び実習	2後	1				○	1	1					共同
	木材利用	4前	2		○			1						
	木材加工学演習Ⅰ	4前	1			○		1						
	木材加工学演習Ⅱ	4後	1			○		1						
	金属加工学	1前	2		○				1					
	金属加工学及び実習	2後	1				○	1	1					共同
	金属加工学及び実験	4前	1				○		2					共同
	金属加工学演習Ⅰ	4前	1			○			1					
	金属加工学演習Ⅱ	4後	1			○			1					
	機械工学	2前	2		○			1						
	機械工学及び実習	3後	1				○	1	1					共同
	材料力学	1後	2		○				1					
	機械工学演習Ⅰ	4前	1			○		1						
	機械工学演習Ⅱ	4後	1			○		1						
	電気電子工学及び実習	2後	1				○			2				共同
	電気電子工学	2前	2		○				1					
	電子回路	3後	2		○				1					
	電気電子工学及び実験	4前	1				○		2					共同
	電気電子工学演習Ⅰ	4前	1			○			1					
	電気電子工学演習Ⅱ	4後	1			○			1					
	栽培学及び実習	3前	1				○							兼1
	情報工学	1後	2		○				1					
情報工学及び実習	2後	1				○		2					共同	
情報工学演習Ⅰ	4前	1			○			1						
情報工学演習Ⅱ	4後	1			○			1						
職業指導	4前	2		○			1						兼1	共同
家政教育	家族関係学	1後	2		○			1						
	家庭経済学	2前	2		○			1						
	家庭経営学	3後	2		○			1						

	家庭経営学演習Ⅰ	4前	2				○		1						
	家庭経営学演習Ⅱ	4後	2				○		1						
	被服科学	1・2前	2				○					1	兼1	隔年、共同	
	被服構成・実習Ⅰ	1後	1					○	1						
	食品学概論	1後	2				○					1			
	栄養学	2前	2				○		1						
	食生活演習	1前	1					○	1						
	食品栄養実験	2後	1						1						
	食品栄養学及び実験Ⅰ	4前	1						1						
	食品栄養学及び実験Ⅱ	4後	1						1						
	調理学実習法及び調理実習	2前	1						1				1		
	調理学演習及び調理実験・実習Ⅰ	4前	1						1				1		
	調理学演習及び調理実験・実習Ⅱ	4後	1						1				1		
	住居学概論	1前	2				○				1				
	住居設計製図	1後	1				○				1				
	住生活問題Ⅰ	4前	1				○				1				
	住生活問題Ⅱ	4後	1				○				1				
	保育学（家庭看護学を含む）	2後	2				○		1						
	保育実習	3前	1					○	1						
	家庭電気機械	3後	2				○				1				
英語教育	英語学概論Ⅰ	2前	2				○						1		
	英語学概論Ⅱ	2後	2				○						1		
	英語学各論	3前	2				○						1		
	英語文学概論Ⅰ	2前	2				○						1		
	英語文学概論Ⅱ	2後	2				○						1		
	英語文学各論	3前	2				○						1		
	英語コミュニケーションⅠ	2前	2				○		1						
	英語コミュニケーションⅡ	2後	2				○								
	異文化理解Ⅰ	1後	2				○					1			
	異文化理解Ⅱ	3前	2				○					1			
	英語教育セミナーⅠ	3前	1					○	1	3			2		
	英語教育セミナーⅡ	3後	1					○	1	3			2		
	英語教育セミナーⅢ	4前	1					○	1	3			2		
	英語教育セミナーⅣ	4後	1					○	1	3			2		
	コミュニケーション活動の指導技術	2・3・4前	2				○							兼1	隔年
	外国語体験活動	2・3・4前	2				○							兼1	隔年
総合文化海外実習（ノーザンケンタッキー大学）	1・2・3・4前	3						○	1					集中	
学校教育	心理学	1前	2				○		1						
	社会・集団・家族心理学	1前	2				○				1				
	心理学概論	1後	2				○		1						
	臨床心理学概論	2前	2				○				1				
	心理学統計法	2前	2				○				1				
	公認心理師の職責	2前	2				○		3	2				兼1	共同
	発達心理学	2前	2				○								
	障害者・障害児心理学	2後	2				○		1						
	心理学研究法	2後	2				○				1				
	司法・犯罪心理学	2後	2				○		1						
	学習・言語心理学	2後	2				○				1				
	知覚・認知心理学	3前	2				○				1				
	心理学実験Ⅰ	3前	2				○		2					共同	
	心理学実験Ⅱ	3後	2				○		1	1				共同	
	神経・生理心理学	3前	2				○				1				
	心理学的支援法	3前	2				○		1						
	異常心理学（精神疾患とその治療）	3前	2				○		1						
	健康・医療心理学	3後	2				○		1						
	福祉心理学	3後	1				○				1				
	産業・組織心理学	3後	1				○				1				
	人体の構造と機能及び疾病	3前	2				○		1					兼1	共同
	関係行政論（公認心理師と法）	3後	1				○		1						
	心理実習Ⅰ	3後	1						○	3	2			共同	
	心理実習Ⅱ	4前	1						○	3	2			共同	
	心理的アセスメント	4前	2								1				
	心理演習	4前	2								2			共同	
	教職基礎	現代教育学の基礎研究	1前	2				○				1			
		教授設計入門	2前	2				○				1			
		幼児教育学	3前	2				○				1			
		教職基礎セミナーⅠ	4前	1					○	3	2				
		教職基礎セミナーⅡ	4後	1					○	3	2				
		教育社会学	2後	2				○					1		
		デジタル教材開発（ウェブデザイン）	2後	2				○					1		
教育工学		1後	2				○				1				
幼児指導法		2前	2				○				1			兼1	
教授学習過程論		3前	2				○				1				
西洋精神史		2後	2				○				1				
異文化理解論（西洋文化史）		2前	2				○				1				
視覚文化論		1後	2				○				1				
特別支援教育	特別支援教育総論	1前	3				○						兼1		
	特別支援教育演習Ⅰ（特別支援教育基礎）	1後	1					○				1	兼1	集中	
	特別支援教育演習Ⅱ（療育観察法）	2前	1					○		1					
	特別支援教育演習Ⅲ（特別支援学校における発達検査法）	2後	1					○		1		1		共同	
	特別支援教育演習Ⅳ（特別支援教育学）	3後	1					○		1					

	技術科教育法Ⅰ	3前	2					1												
	技術科教育法Ⅱ	3前	2						2										共同	
	技術科教育法Ⅲ	3前	2					1												
	技術科教育法Ⅳ	3前	2					1	2										オムニバス	
	情報科教育法Ⅰ	3後	2						1											
	情報科教育法Ⅱ	4前	2						1											
	工業科教育法Ⅰ	4前	2					1												
	工業科教育法Ⅱ	4前	2					1												
	家庭科教育法Ⅰ	2前	2							1										
	家庭科教育法Ⅱ	2後	2								1									
	家庭科教育法Ⅲ	2後	2					1												
	家庭科教育法Ⅳ	3前	2					1												
	英語科教育法Ⅰ	2後	2						1											
	英語科教育法Ⅱ	2後	2					1												
	英語科教育法Ⅲ	3前	2					1												
	英語科教育法Ⅳ	3前	2						1											
教育の基礎的 理解に関する科目	教育思想に関する 歴史及び教育 学概論	2前	2				○				1									
	の後職制の 意義及び 内容教員 教職論（教職 トライアル）	1前	2				○				12	19		4					クラス分け	
	的育に 関する 社会的 教育 教育経営論	3前	2				○											兼2	クラス分け	
	の幼 心 過 程 教育・学校 心理学	3前	1				○					1						兼1	クラス分け	
	生 特 別 支 援 教 育 論 特別支援 教育論	3前	1				○				2	1		1					クラス分け	
	編 成 育 意 義 及 び 方 法 カリキュラム 論	3後	2				○				1								兼2	クラス分け
道徳、総合的な 学習の時間の 指導法及び生徒 指導、教育相談 等に関する科目	道徳の 指導法 道徳の理論 及び指導法	3前	2				○												兼1	
	特別活動 及び総合的な 学習の時間 の指導法 特別活動及び 総合的な学習 の時間の指導 法	3後	2				○												兼1	クラス分け
	教育の 方法 及び技術 教育方法学 ・技術	2前	2				○				2	1							兼1	クラス分け
	生徒 指導の 理論 及び方法 生徒指導の 理論及び方法	2前	2				○					1							兼1	
	育 進 路 指 導 の 理 論 及 び 方 法 教育相談 及び進路 指導	3後	2				○				1	2							兼1	

幼稚園教員免許に関する科目	幼稚園教員免許の理論及び	幼児理解と教育相談	1後	2						1											
	保育内容の指	言葉 環境 人間関係 表現 健康	2後 2前 2後 2後 2前	2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○			1 1 1 1 1								兼1 兼1 兼1 兼1	集中、共同 集中、共同 共同 集中、共同		
教育実践に関する科目	教育実践	教職実践演習	4後	2				○		19	14		2					兼1	クラス分け		
	教育実習	小学校教育実習（教職プラクティス）	3前	4				○		6	8		2							集中	
		中学校教育実習（教職プラクティス）	3前	4				○		6	8		2							集中	
		高等学校教育実習（教職プラクティス）	4前	2				○		38	39		6							集中	
		特別支援学校教育実習（教職プラクティス）	4前	2				○		3	1		1							集中	
		幼稚園教育実習（教職プラクティス）	4前	2				○		2	2									集中	
		教育実習事前事後指導（幼・小）	3後	1				○		38	39		6							集中	
		教育実習事前事後指導（中・高）	3後	1				○		38	39		6							集中	
		教育実習事前事後指導（特別支援学校）	4前	1				○		3	1		1							集中	
	大科学が独自に設定する科目	教職リサーチⅠ	2前	2				○		6	8		2								
教職リサーチⅡ		2後	2				○		6	8		2									
教職インターン		4前後	4				○		6	8		2									
教育リーダー実践Ⅰ		2前	2				○		2										共同		
教育リーダー実践Ⅱ		2後	2				○		1												
幼児指導法		2後	2				○		1									兼1	集中、共同		
保育内容概論		3後	2				○		1	1									共同		
保育内容各論	3前	2				○		1													
資格取得関連科目	高等学校（情報）免許	情報社会と倫理	1前	2			○			1										隔年、集中	
		情報テクノロジー	2前	2			○			1											
		データサイエンス	2前	2			○			1											
		教育情報システムとプログラミング	2前	2			○			1											
		データベース	3前	2			○			1											
		デジタル教育情報システム	3後	2			○				1										
		ネットワークプログラミング	2後	2			○				1										
		情報通信システム	3前	2			○														
		メディアコミュニケーション	1前	2			○					1									隔年、集中
	情報メディア	3前	2			○					1									集中	
	情報と職業	3前	2			○					1										
	若者社会指導	トレーニング論	4後	2			○			1											
		スポーツ医学	2後	2			○			1				1							兼3 兼1
スポーツ指導論・スポーツ行政		2後	2			○			1											集中 共同	
博物館学芸員	現代社会と学習・教育（生涯学習論Ⅰ）	1前	2			○														兼1	
	博物館資料論	1後	2			○				1											
	博物館教育論A	2前	1			○				1										集中	
	博物館教育論B	2前	1			○				1										兼1	
	博物館実習（学内実習）	4前	2				○			1										兼1	
博物館実習（館園実習）	4前	1				○			1										集中		
小計（506科目）			—	30	807	0	—		38	39	0	6	0	0				兼90			
合計（787科目）			—	36	1347	0	—		38	39	0	6	0	0				兼330			
学位又は称号	学士（教育学）			学位又は学科の分野				教育学・保育学関係													
卒業要件及び履修方法										授業期間等											
（卒業要件） ・135単位以上（うち教養科目は36単位以上）を修得すること。 ・学校教育教員養成課程（学校教育講座及び特別支援教育講座を除く）では、卒業に当たって、小学校教諭1種免許及び中学校教諭1種免許を取得しなければならない。 ・学校教育講座では、卒業に当たって、小学校教諭1種免許状を取得するとともに、中学校教諭2種免許状又は幼稚園教諭2種免許状を取得しなければならない。 ・特別支援学校教員養成課程では、卒業に当たって、小学校教諭1種免許状及び特別支援学校教諭1種免許状（聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱）を取得しなければならない。 ・自由選択科目は、教養・専門科目の教養・専門科目の最低必要単位数を超えて取得した単位数及びネットワーク大学コンソーシアム岐阜の単位数を加えることができる。ただし、教養科目は4単位まで含めることができる。 ・高等学校教育実習、幼稚園教育実習及び教職インターンの各2単位は、自由選択科目とする。 ・学校教育教員養成課程（特別支援教育講座を除く）では、卒業に当たって、7日間（特別支援学校で2日間及び社会福祉施設で5日間）の介護等体験を行わなければならない。 ・特別支援教育講座は、特別支援学校教育実習に参加するため、介護等体験を要しない。										1学年の学期区分					2期						
										1学期の授業期間					15週						
										1時限の授業時間					90分						

(履修方法)

履修単位基準

区分	学校教育教員養成課程			
	小一 種中一 種	小一 種中二 種	小一 種幼二 種	小一 種特支一 種
教養科目	36			
専門科目	98	88	90	93
自由選択科目	1	11	9	6
合計	135	135	135	135

※ 教養科目で36単位を超えた単位数については4単位まで自由選択科目に算入することができる。

教養科目

初年次セミナー	2単位	必修	
人文科学	18単位 (社会科学科目のうち日本国憲法は必修)		
社会科学			
自然科学			
複合領域			
スポーツ・健康科学	2単位		
外国語科目	6単位		
自由選択科目	2単位		
学部開講科目	情報教育	2単位	必修
	人権	2単位	必修
	外国語コミュニケーション(英語)	2単位	1言語以上必修
	外国語コミュニケーション(ドイツ語)	2単位	
	外国語コミュニケーション(フランス語)	2単位	
	外国語コミュニケーション(中国語)	2単位	
	外国語コミュニケーション(ポルトガル語)	2単位	
	外国語コミュニケーション(朝鮮・韓国語)	2単位	
学部開講科目合計	8単位以上		
合計	36単位以上		

授 業 科 目 の 概 要			
(大学院教育学研究科教職実践開発専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専攻共通科目	カリキュラムマネジメントの理論と実践	カリキュラムマネジメントの理論と実際について講義する。学習指導要領の変遷、カリキュラム構成、カリキュラムの改革と研究の変遷、学校を基礎とするカリキュラム開発論、効果的学校論、組織開発論などについて講義する。それらカリキュラム研究と学校経営研究をつなぐ理論としてカリキュラムマネジメント論を位置づける。教育課程を軸とした学校経営の実践化の基盤となる理論の理解、マネジメント・マインドの醸成、方法的知識の修得をめざす。また、先行事例や勤務校の実践について、カリキュラムマネジメントの理論枠組みから分析し、改善策についてのディスカッションを行う。	
専攻共通科目	授業研究基礎論	<p>1. 授業力形成、授業研究推進の共有基盤となる学習指導要領、中教審答申等の政策文書等に関する基本情報を理解し、それに基づいてこれまでの実践及び研究枠組の対象化や再構成、今後のビジョンの形成を行う。</p> <p>2. 授業における教師と子ども、子どもどうしの複雑な学びの共創性、互惠性を読み解き、子どもの学びの充実発展を支える教師の状況的な洞察力、判断力を培う。</p> <p>3. 授業のケース・スタディをもとにして、自身の授業観や子ども観や教師観等のメンタルモデルの省察(相対化や再構成)を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (20 益子 典文/4回) 第1回:プロローグ～TIMSSビデオスタディーとわが国の授業研究の評価～ 第2回:教授スキル研究と授業における教師の意思決定の重要性 第3回:授業における教師の意思決定の特徴 第4回:教師の教材開発活動と授業設計 (31 今井 亜湖/4回) 第5回:授業分析の種類と方法 第6回:授業分析の実践 第7回:ワークショップに基づくグループ発表 第8回:グループ間の相互討論と全体統括 (37 原 尚/3回) 第9回:授業研究をめぐる校内の教師協働～若手教師の授業力育成における管理職、ベテラン・中堅教師の役割～ 第10回:学習指導要領と授業研究～中教審答申を読み、実践にいかにつなぐかを考える～ 第11回:学習指導要領と授業研究～主体的・対話的で深い学びを中心に～ (40 菊池 一人/3回) 第12回:教育評価の基本的な考え方 第13回:教育評価の新たな動向～パフォーマンス評価等～ 第14回:全国学力・学習状況調査の目的と仕組み (40 菊池 一人, 7 山田 雅博/1回) (共同) 第15回:全国学力・学習状況調査を学校現場の授業改善に活用する</p>	オムニバス方式 共同(一部)
専攻共通科目	生徒指導・教育相談の理論と実践	<p>生徒指導と教育相談の理論を根本的に理解し、それを組織化し実践化する力量を身に付けることを主たるねらいとする。</p> <p>(1) 生徒指導と教育相談の基礎理論を幼児・児童・生徒の発達課題やカウンセリングの考え方から理解し、学校の組織的な動きを踏まえたスクール・リーダーとしての役割を持つ力量を修得する。</p> <p>(2) 幼児・児童・生徒のいじめや不登校などの事例研究を通して、その問題点や対応の在り方を分析・検討し、評価する能力を修得する。</p> <p>(3) 生徒指導と教育相談の機能性を重視し、学習指導や進路指導及びキャリア教育等との関連を図る実践的な能力を修得する。</p>	オムニバス方式

専攻共通科目		<p>(オムニバス方式／全15回) (1 柳沼 良太／8回) 第1回：生徒指導・教育相談の意義と原理 第2回：生徒指導・教育相談の歴史的考察 第3回：生徒指導と教育課程 第11回：教育相談の意義と原理 第12回：カウンセリングの理論と実践スキル 第13回：生徒指導と教育相談の諸問題に関するケーススタディ 第14回：生徒指導と教育相談の今後の展望 第15回：講義全体の総括 (39 柴崎 直人／7回) 第4回：生徒指導の行内組織体制 第5回：進路指導 第6回：キャリア教育 第7回：職場体験学習の意義と課題 第8回：職業レディネステスト等の活用 第9回：外部諸機関・施設との連携 第10回：生徒指導主事に求められる資質・能力</p>	
専攻共通科目	学校適応の理論と実践	<p>前半では、学校適応上の課題を解決するためのエビデンスとなる学術論文から各理論を学習するスキルを身につけるために、方法論と課題分析に関する基礎的な知識を解説する。課題を検証する方法論、課題分析に必要な基礎的統計分析・多変量解析のそれぞれを学習し、研究論文を購読するために必要とされるスキルの獲得を目指す。 後半では、テキストの各章について発表者とコメントーターの各担当を決め、学校適応の観点から発表とディスカッションを行う。発表では、教員研修での活用を想定した資料をレジュメとして作成・紹介する。ディスカッションでは、学校における具体的問題を解決する際に、各理論の知見を援用することで、どのような利点や限界が想定されるかという点に焦点を当てる。担当としての発表およびコメントは必須であり、授業の終了時に総括レポートの提出が求められる。</p>	
専攻共通科目	学級経営の理論と実践	<p>学級・ホームルームが児童生徒の学校生活の基盤であり、学級経営が担任教師の人間性に関わるという特性を踏まえ、その考え方や実践の技法を学ぶ。いじめ、不登校、学級崩壊等の学級経営上の問題を意識しながら、望ましい学級経営の実践的スキルを修得する。</p>	
専攻共通科目	学校経営の理論と実践	<p>本授業は、受講者が学校（園）経営に関する知識の修得を通して、理論的・実践的な観点から現代日本の学校経営にみられる諸課題についてとらえ、学校管理職としての職務遂行に当たって正当かつ妥当な根拠をもとに解決策を考察していくための手掛かりを得ることを目的とする。第一に、学校（園）経営の理論的な位置づけについて、政治的・経済的・社会的な視点から学校経営改革の動きを通時的に解説する。第二に、学校管理職に求められるリーダーシップについて、法的地位と経営行動という視点から相対的に解説する。第三に、各学校（園）における経営過程について、学校組織の特徴を踏まえて、経営サイクルすなわち計画段階（Plan）・実施段階（Do）・評価段階（See）の視点から構造的に説明する。第四に、各学校（園）における条件整備について、経営条件すなわち人的条件・物的条件・財的条件・組織運営的条件の視点から構造的に解説する。</p>	
専攻共通科目	教職開発論	<p>授業の到達目標及びテーマは以下のとおりである。 ①学校（園）組織理論・意思形成システムの基本理論を理解する。 ②現職教員は、学校（園）管理職・ミドルリーダーとして求められる教職職能開発の理論を理解し、実践方法を開発する。学部卒院生は、教職職能開発の理論を理解し、実践する。 ③学校（園）組織開発を理解し、現職教員は、ライフステージを通じた教員の資質能力向上の具体案を作成できる。学部卒院生は、自身の資質能力向上を計画できる。</p>	

専攻共通科目	教師協働力プラス演習	<p>この科目は、ストレートマスターが1年次の後期に行う実習である「基礎実習」と連動させて、ストレートマスターと現職教員がともに教師協働力を高めるための授業科目である。異なるキャリアを持った学生たちが協働して、「チーム学校」など新しい学校のあり方を議論し、学校や自らの課題の解決に取り組む。「基礎実習」では、ストレートマスターが1年次後期の決められた曜日に、2年次の課題設定に向けた観察やチーム・ティーチングのT2を中心とした実習を行う。この授業では、「基礎実習」においてストレートマスターが抱いた現在の社会における学校教育の位置付けや教員としての役割等に関する疑問・課題等を現職教員学生とともに探究する。毎週の「基礎実習」後の決められた時限に（授業回数は1年次後期に15回）ストレートマスターと現職教員学生が少人数に分かれ、大学教員の指導のもとに「基礎実習」で抱いた疑問・課題等を探究し、探究の過程や振り返りなどをレポートにまとめる。それらを教育実践開発コースの夜間・遠隔担当の大学教員が「基礎実習」を履修している夜間・遠隔の現職教員学生に提示し、同学生は中間リーダーとしての立場から課題解決についての探究を行い、その後にレポートとしてまとめて昼間の学生にフィードバックする。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (17 今村 光章、49 各務 至、50 淀川 雅夫)</p>	共同
専攻共通科目	特別支援教育の理論と実践	<p>特別支援教育の理念・制度に関する知識をもち、特別支援学校および小・中学校、高等学校における障害のある児童生徒への実践的能力ならびに特別支援教育推進にかかわる関係諸機関等の関係者と連携協働しながら課題を解決するための能力を育成する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (34 鈴木 祥隆／3回) 第1回：特別支援教育の理念・制度 第2回：世界の特別支援教育 第3回：インクルーシブ教育システム (35 平澤 紀子／4回) 第4回：小・中学校、高等学校における特別支援教育 第5回：LD, ADHD, 高機能自閉症等の児童生徒への教育的ニーズ 第6回：教室における発達障害児の気になる・困った行動のアセスメントと支援 第7回：特別支援教育コーディネーターと学校体制での支援 (19 村瀬 忍／3回) 第8回：通常の学級における児童生徒の読み書きのアセスメントと支援 第9回：発達障害のある児童生徒への学習おくれのアセスメントと支援 第10回：通級指導教室における指導 (33 神野 幸雄／3回) 第11回：特別支援学級における指導 第12回：発達障害のある幼児・児童生徒への個別支援 第13回：発達障害のある保護者への支援 (35 平澤 紀子, 19 村瀬 忍, 33 神野 幸雄, 34 鈴木 祥隆／2回) (共同) 第14回：討論①特別支援学校の視点から 第15回：討論②小中高等学校の視点から</p>	オムニバス方式 共同（一部）
専門科目	教科指導能力開発 社会・コミュニケーション教育に関する学習指導のデザイン	<p>【国語科教育】 国語科で教えられる物語文・説明文、古文、漢文に関する課題を適切に設定し、日本語によるコミュニケーションに関する授業を行う。</p> <p>【英語科教育】 英語科で扱われる社会的な話題や言語文化に対する多角的な見方を与え、英語によるコミュニケーションに関する授業を行う。</p> <p>【社会科教育】 日本の国土と歴史、政治、経済、法律、思想に関する課題を適切に設定し、社会科のコミュニケーションに関する授業を行う。</p>	オムニバス方式 共同（一部）

<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>		<p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>【国語科教育】 (51 佐藤 貴裕／1回) 第1回：国語辞典で振りかえる日本語 (5 山田 敏弘／1回) 第2回：外国人が用いる日本語・外国人に対する日本語 (59 好川 聡／1回) 第3回：訓読という文体とその教育の歴史 (60 小川 陽子／1回) 第4回：古文教材による対話的な学び</p> <p>【英語科教育】 (30 仲 潔／4回) 第5回：コミュニケーションにおけることばの働き 第6回：文化とコミュニケーション 第7回：英語科教育における「コミュニケーション能力」観 第8回：「国際共通語としての英語」論とその実践について</p> <p>【社会科教育】 (42 須本 良夫, 21 田中 伸, 52 大関 泰宏, 53 坂内 栄夫, 54 坂本 一也, 61 田澤 晴子, 62 辻本 諭, 63 橋本 操, 64 上野 友也, 75 原田 俊平／4回) (共同) 第9回：歴史教育における言語表現とその背景 第10回：法律と政治の言語特性－公民科教育の多様性①－ 第11回：経済と思想の文化－公民科教育の多様性②－ 第12回：地理の見方・考え方による地域文化の教材化</p> <p>【全体】 (51 佐藤 貴裕, 5 山田 敏弘, 59 好川 聡, 60 小川 陽子, 30 仲 潔, 42 須本 良夫, 21 田中 伸, 52 大関 泰宏, 53 坂内 栄夫, 54 坂本 一也, 61 田澤 晴子, 62 辻本 諭, 63 橋本 操, 64 上野 友也, 75 原田 俊平／3回) (共同) 第13回：他分野や他領域との融合教材・教具の開発(ICTも含む)に関する基礎的知識と教材研究 第14回：授業実践の振り返りとまとめとして、受講生がプレゼンテーション発表 第15回：第14回で行ったプレゼンテーションに対する質疑応答</p>	
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>国語教育の理論と実践</p>	<p>国語科の授業について、主として書くことと読むことの指導を取り上げる。授業研究ならびに実践方法をふまえながら実際の授業を参観し、学習指導に参加することを通して、国語科の学習指導のあり方について議論し研究レポートを発表する。教育要領、学習指導要領の事項をふまえ、各校種の学習指導の特徴と児童・生徒の学習の実際について検討し、教育内容と指導方法について初等教育から中等教育までの連続性を重視した議論を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (6 小林 一貴、60 小川 陽子)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>国語科の理論と教材開発A</p>	<p>国文学分野のうち古文を中心に、教科書に掲載されることの多い作品を扱う。各作品に関する近年の文学研究の成果および国語科の基礎理論を学習した上で、国語学的観点を視野に入れながら、教材開発ならびに学習活動の組織に基づく指導展開案を作成し、模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じた省察を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (4 安 直哉、5 山田 敏弘、60 小川 陽子)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>国語科の理論と教材開発B</p>	<p>学校で教えられている文法について、毎回、1つの観点から検討した上でその誤りを見つけ、実際に学校現場でどのように児童生徒に対して教えるかをディスカッションする。その上で、学生が個別の国語教材の中からその文法的観点を活かして教材分析を行い授業内で検討する。</p>	

<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>国語科の理論と教材開発C</p>	<p>本授業は三本の柱からなる。第一は国語教育解釈学理論の理解である。近代日本では、「形象理論」が国語教育の理論的基盤となり、そこにドイツの解釈学的思想が付加されて、「国語教育解釈学」という独自の方法論体系を形成した。この国語教育解釈学的手法が現在も国語教育の主流となっている。国語教育解釈学理論を学ぶことは国語教師の思想的根幹を形成することに寄与する。第二は実際の授業の観察である。ただ漫然と観察するのではなく、解釈学的知見のもとで「国語教室の解釈学」を構築する目的で綿密な観察を行う。第三は、第一・第二の学習を踏まえて、国語教育解釈学に基づく国語の模擬授業を行う。指導者・学習者・観察者という複眼的思考のもと解釈学的国語教育を体得する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (4 安 直哉、5 山田 敏弘、60 小川 陽子)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>国語科の理論と実践A</p>	<p>国語科の授業分析に関する論文を読み、授業の実際の様子を見ながら言語の学習場面の記録・分析方法について学ぶ。また、学習指導要領の事項ならびに、校種や教材、地域文化等をふまえて行われてきている学習指導や授業研究の方法についてレポート発表と議論を行う。小学校から中学校にかけて、国語科の学習指導がどのようなテーマやトピックについて行われているのか、そして言葉に関する理解と思考・判断力、表現力とがどのように関連づけられているのかについて検討し、具体的な授業場面や指導過程をふまえながら国語科の教育／学習内容について考える。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (6 小林 一貴、51 佐藤 貴裕、59 好川 聡)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>国語科の理論と実践B</p>	<p>免許更新講習で漢文の講義を行う際、現職の教員からは、教科書の表面上の解釈をなぞって覚えさせることが中心となってしまうことに苦勞しているという声が多く挙がっている。本講義の前半では、教科書の漢文教材を取り上げ、教科書の問題点を明らかにし、解釈の多様性や作品への理解を深める。後半は教材開発に使えるような古典を紹介しながら、受講者自身が教材開発を進め、それをもとに授業実践を行ってもらう。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (6 小林 一貴、51 佐藤 貴裕、59 好川 聡)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>国語科の理論と実践C</p>	<p>言語変化・変種・変異に対する知識を学んでいく。これには、日本語の歴史的变化と地域的变化（方言）および、異文化（古代～近代中国）との接触などを含む。いくつかのケースについて実際的な解釈を行うことで、より鮮明に日本語の各種問題を意識する過程自体を経験する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (6 小林 一貴、51 佐藤 貴裕、59 好川 聡)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>社会科教育の理論と実践</p>	<p>就学前を含む生活科の社会認識内容及び人文科学や社会諸科学の内容を踏まえ、小学校の社会系教科の授業構成について検討させ、社会科授業理論の修得を目指す。また、それを基盤に授業計画を作成し学校において実施・検証することにより理論と実践との統合を図る。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (42 須本 良夫、64 上野 友也)</p>	<p>共同</p>

<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>公民科教材開発論</p>	<p>本講義は、公民教育論における教材開発を行う。①公民教育論の課題・問題点を理解出来る、②公民教育における授業をデザインすることが出来る、③デザインした授業を実践し、結果の検証の基づき、授業を修正・更新することが出来る、ことを目標とする。 本講義は、米国で行われている公民教育研究を検討し、日本の文脈へ応用した授業実践をデザインし、実践する。なお、研究結果は適宜学会等において発表することを目指す。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (21 田中 伸、64 上野 友也、75 原田 峻平)</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>日本史の理論と教材開発</p>	<p>小学校中学校の社会科歴史および高等学校地歴科日本史の教科内容、教材について検討する。同じく日本史分野といってもそれぞれの校種によって扱い方が異なるが、教師の側にたつての日本史学への理解、教材への認識の深化をこの授業の課題とする。とくに、各時代の特色と歴史の大きな変革期に目を向け、具体的な教材のとらえ方を論究する。地域文化財・文化遺産についても考察を試みる。 第1時間目に受講希望者と扱う時代・事項等について協議し、受講生の研究発表、模擬授業形式で授業を進める。必要に応じて授業中にプリントを配布し、参考資料も指示する。随時、課題を提示し、口頭での報告、レポート提出を求める。また、研究成果を模擬授業において実践する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (52 大関 泰宏、61 田澤 晴子)</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>西洋史の理論と教材開発</p>	<p>西洋史を5つの時代(古代・中世・近世・近代・現代)に区分し、それぞれについて、①史料・二次文献をもとに各時代の概要、鍵となるテーマ、各テーマについての研究史を学ぶ、②①で得られた専門的知見を学習指導要領、教科書に合わせて教材化する、の2つの課題に取り組む。以上の成果をもとに3回の模擬授業を行い、教材を実践的に活用する力を育成する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (52 大関 泰宏、62 辻本 諭)</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>人文地理学の理論と教材開発</p>	<p>地理教育における人文地理学の果たすべき役割について論考し、地理教育の実践に資する人文地理学の見方・考え方を修得することを目指す。地理学教科書・学術論文の講読により、地理学の見方・考え方に基づく人口分析、都市分析および計量的分析の成果と課題について考究する。</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>地誌学の理論と教材開発</p>	<p>本講義では、地誌学および系統地理学の基礎となる理論を学び、地理学的研究を自ら主体的に行いまとめていくための基礎力を身に付けることを目的とする。文献精読および議論を通して、地理教育の中でも地誌の授業について、その実践方法と課題について分析・考察し、模擬授業を通して指導方法について理解することを目指す。地誌学および系統地理学の基礎となる理論を学び、地理教育の実践方法と課題について論文購読を通して分析・考察し、模擬授業を行うことで、より深く地理教育の指導方法について理解する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (52 大関 泰宏、63 橋本 操)</p>	<p>共同</p>

<p>専 門 科 目</p> <p>教科 指 導 能 力 開 発</p>	<p>法律学の理論と教材開発</p>	<p>社会生活を営む上で重要な役割を持つ法についての基本的な知識を修得し、社会の諸問題を法的なものの考え方（リーガルマインド）から捉えるための基礎となる概念を理解することは、中学校社会及び高等学校公民での法に関わる授業実践において必要な知識・能力であると考えられる。</p> <p>そこで、本授業では、まず、日本国憲法に内在する価値について考察したのち、自律的な個人として社会生活に関わるための基本的な法律である民法と刑法の基本概念を検討することにする。また、これらの法律に規定される権利・義務の履行確保手続である司法制度についても理解を深めることにする。この授業を通して、法がいかなる機能を果たしているのか、その存在理由はどのようなものかを生徒の発達段階に応じて説明できる能力を養うことにする。</p> <p>次に、こうした内容を理解した上で、中学校社会及び高等学校公民の教材開発に取組み、模擬授業を行う。模擬授業を通して法律に関わる中学校社会及び高等学校公民の授業の実践的な能力を高める。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (54 坂本 一也、64 上野 友也、75 原田 峻平)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教科 指 導 能 力 開 発</p>	<p>政治学の理論と教材開発</p>	<p>政治学の理論と教材開発では、国際政治学に関する古典・名著等を講読し、報告と討議によって、国際政治学の基本概念・歴史・理論を学ぶ。初回のガイダンスにおいて、テキストの概要に関して報告をし、報告に対して受講生の間で討議を行い、国際政治学に関する知識を得るだけでなく、それを教育実践の場においても役立てることを目的とする。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (64 上野 友也、75 原田 峻平)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教科 指 導 能 力 開 発</p>	<p>経済学の理論と教材開発</p>	<p>講義の前半に経済学の基礎理論について修得したうえで、教育学部の附属小中学校等を中心として社会科・公民科の授業について観察を行う。そこで、様々な現職教員の行う指導法について、身近な価格、消費者行動、企業行動、納税などの各分野における指導法について観察学習する。その観察学習をもとに、教材開発を行い、附属小中学校等で授業実践をする。それらを行った後に、学生がプレゼンテーションで発表し、質疑応答をし、指導法を検討・修正していく。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (64 上野 友也、75 原田 峻平)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教科 指 導 能 力 開 発</p>	<p>哲学の理論と教材開発</p>	<p>臨済の基本的な思想について理解し、それについての授業を設定できるようにすることを目標とする。授業では、臨済やその先達の思想を解説し、授業設定の際に指導要領を参考にして、ポイントとなるような点を説明する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (53 坂内 栄夫、64 上野 友也、75 原田 峻平)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教科 指 導 能 力 開 発</p>	<p>小学校外国語活動・外国語に関する実践研究</p>	<p>母語獲得と第二言語修得との相違点を比較しながら、母語を一旦身に付けた幼児・児童が、第二言語をどのように修得していくことが望ましいのか等、先行研究等を基に学び、また、実践的な研究を通じ、第二言語修得の知見と幼児・児童英語教育との融合を図り、小学校英語教育を効果的に行うことのできる高度な教育専門職者の養成を目的とする。なお、小中連携を意識した小学校英語教育についても視野に入れる。第二言語修得論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。</p>	

<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>英語学に関する理論と実践</p>	<p>英語の発音や語彙や文法の指導をするうえでは、英語（や日本語）の仕組みを理解しておくことが重要である。本授業では、英語の音・語・文・意味・談話といった各レベルに対して、英語学の各分野（音韻論・形態論・統語論・意味論・語用論）で蓄積された研究や分析を通して考察を行う。そのうえで、英語学的知見を英語科教育にいかに関活用できるかを考えながら教材開発などを行い、英語授業の実践へとつなげる。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (30 仲 潔、78 飯田 泰弘)</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>英語文学の理論と実践</p>	<p>英語で書かれた文学作品を精読し、ディスカッションを通して理解を深める。また、小学校・中学校の英語の授業を参観し、授業の中で英語文学の知識を生かす授業案・教材開発を行い、模擬授業として発表する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (44 巽 徹、79 林 日佳理)</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>異文化理解に関する理論と実践</p>	<p>まず、欧米の現代状況や時事問題を学習するために、情報収集の仕方を学ぶ。授業で現時点で話題となっているニュースについてディスカッションをし、背景の文化（特に異文化）を検討する。インターネットから修得できる情報を元に、日本の中高生に適した教材作成をする。その教材を用いて、プレゼンテーションや模擬授業を行う。授業後は教材や教授法を分析し、改善に努める。</p>	
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>外国語指導の理論と実践 I</p>	<p>教育学部の附属小中学校（前期課程）等を中心として、外国語の授業について観察を行う。そこで、様々な現職教員の行う指導法について、英語表現の扱いやコミュニケーション活動、言語や文化に対する理解の深め方から導かれた指導法について観察学習する。その観察学習をもとに、外国語の教材開発を行い、附属小中学校（前期課程）等で授業実践をする。それらを行った後に、学生がプレゼンテーションで発表・質疑応答をし、指導法を検討・修正していく。</p>	
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>外国語指導の理論と実践 II</p>	<p>最新の第二言語修得研究文献の原書の講読により、先行研究により明らかにされた成果を検討し、それに基づいて、効果的な英語学習法、英語指導法について考察する。具体的には、受講生が文献・先行研究に関するレポートを行い、それに基づいた受講生同士の議論を通して探究を深める。理論的探究に基づいて教材開発や指導法の開発を行い、授業参観、模擬授業等を通して、作成した教材や開発した指導法の有効性について検証を行う。</p>	

<p style="text-align: center;">教科指導能力開発 コース 専門科目</p>	<p>自然科学教育に関する学習指導のデザイン</p>	<p>【算数教育】 幼稚園教育の目標に「自然などの身近な事象への興味や関心を育て」、また、学習指導要領の目標では、小学校算数教科に「進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」、中学校数学科に「数学的活動の楽しさや数学のよさを実感し、それらを活用して考えたり判断したりしようとする態度を育てる」とある。本講義では、これらの目標実現のための算数・数学教育の授業を行う。</p> <p>【理科教育】 小学校生活科および理科の各分野の内容を踏まえ、科学の体系を知るとともに、関連する身近な自然現象を紹介する。この中から学習者の科学的な見方や考え方を養うための授業展開と教材開発、評価の方法について学習する。放射線を題材にしていくつかの教育的観点から実験を体験し、教材開発につなげる。小学校4年生以降で実施する生物を対象とした条件を設定する「実験」をデザインする際に、「対照実験」をどのように考えれば良いのかを演習を通じて深く追求する。</p> <p>【技術教育】 自然科学系の教科を担当する教師の技術的素養を高めるため、技術・工業に関する教育の内容と方法について、今日の教育現場における実践事例を踏まえつつ技術科教育の授業を行う。</p> <p>【家庭科教育】 小中学校の家庭科教育の目標と内容を理解し、「生活課題の認識」「生活に関する問題解決の能力」や「生活を創造する能力」に関し実践的・体験的に学び、最終目標である「生活を科学的な視点でとらえ実践する能力」を養うための家庭科教育の授業を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>【算数教育】 (7 山田 雅博／2回) 第1回：数の把握と表記に関する基礎的知識と教材研究について、学習する。 第3回：算数科を主とした、教科横断的な教材の実践例について学習する。 (24 菱川 洋介／1回) 第2回：面積と体積に関する基礎的知識と教材研究（台形公式・不定形面積）について学習する。</p> <p>【理科教育】 (46 中村 琢／1回) 第4回：放射線の性質の実習を通して授業デザイン、教材開発について学習する。 (8 古屋 康則／2回) 第5回：生物を対象とした「実験」のデザイン法の理論と実際について学習する。 第6回：実験のデザイン法をより深く理解するために、「対照実験」の設定方法についての演習を行う。</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>

		<p>【技術教育】 (15 小原 光博/2回) 第7回：木材とその加工方法に関する基礎知識とそれを利用した教材研究について学習する。 第8回：金属とその加工方法に関する基礎知識とそれを利用した教材研究について学習する。 (28 福岡 大輔, 73 舟越 久敏/1回) 第9回：情報や電気電子に関する基礎知識とそれを利用した教材研究について学習する。 【家庭科教育】 (18 久保 和弘/1回) 第10回：「食生活」に関する基礎的知識と教材研究について、学習する。 (16 大藪 千穂/1回) 第11回：「消費生活と環境」に関する基礎的知識と教材研究について、学習する。 (74 杉山 真魚/1回) 第12回：「住生活」に関する基礎的知識と教材研究について、学習する。 【全体】 (24 菱川 洋介, 7 山田 雅博, 8 古屋 康則, 46 中村 琢, 15 小原 光博, 28 福岡 大輔, 73 舟越 久敏, 16 大藪 千穂, 18 久保 和弘, 74 杉山 真魚/3回) (共同) 第13回：他分野や他領域との融合教材・教具の開発(ICTも含む)に関する基礎的知識と教材研究について学習する。 第14回：授業実践の振り返りとまとめとして、受講生がプレゼンテーション発表を行う。 第15回：第14回で行ったプレゼンテーションに対する質疑応答を行う。ここでは、教員の司会のもとに、受講生が各自のプレゼンテーション発表に対する質疑応答を行う。それらをもとに、授業実践の振り返りとまとめを行う。最後に、指導法を検討・修正していく。</p>	
専門科目 教科指導能力開発 コース	算数教育の理論と実践	<p>教育学部の附属小中学校（前期課程）等を中心として、算数の授業について観察を行う。そこで、様々な現職教員の行う指導法について、数と計算領域、測定領域、図形領域、変化と関係領域、データの活用領域の指導内容論から導かれた指導法について観察学習する。その観察学習をもとに、算数の教材開発を領域ごとに行い、附属小中学校（前期課程）等で授業実践をする。それらを行った後に、学生がプレゼンテーションで発表し、質疑応答をし、指導法を検討・修正していく。</p>	
専門科目 教科指導能力開発 コース	数理モデルに関する学習内容と教材開発	<p>いくつかの身近な事象から数理モデルを作る過程を講義する。また、得られた数理モデルを解き、その結果と元の事象の比較をし、モデルの妥当性について議論する。最後に、このテーマに対する高校生向けの教材開発をし、その教材を用いて授業実践を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (45 河崎 哲嗣、65 柘植 直樹)</p>	共同
専門科目 教科指導能力開発 コース	図形教育の学習内容と教材開発	<p>中学校および高等学校における指導力の向上を目指して、図形教育における専門的知識とそれを教育現場に活かす実践的な能力を修得することを目標とする。高度な図形教育を行うための専門的な内容を学び、それを用いた教材開発及び教育実践または模擬授業を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (7 山田 雅博、22 田中 利史)</p>	共同

<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>数と図形の学習内容と教材開発</p>	<p>中学校および高等学校における指導力の向上を目指して、数と図形に関する専門的知識とそれを教育現場に活かす実践的な能力を修得することを目標とする。中学校および高等学校で扱う数や図形に関する専門的な内容を学び、それを用いた教材開発及び教育実践または模擬授業を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (23 花木 良、45 河崎 哲嗣)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>データの活用に関する学習内容と教材開発</p>	<p>授業計画の序盤では、関数解析学の基本的な知識について講義する。主に、統計学の理論に繋がる測度論、ルベグ積分、関数空間について扱う。これらの知識を体得した上で、中盤では、関数解析学から統計学の確率過程への誘導について講義する。終盤には、学習した内容を含め、論文や書籍を読みながら、中学校数学及び高等学校数学「データの活用」領域で扱えそうな教材を受講者で議論して提案してもらい、実践及びその考察を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (7 山田 雅博、24 菱川 洋介)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>算数・数学教育実践内容総論</p>	<p>数学教育における様々な課題について、それらの課題を見出す方法、及び、打開するための調査・分析・考察の方法について学ぶ。適宜遠隔教育システムを通して、国内外の教育機関と協働して議論を行う。子どもの認識獲得や学力保障をするために、以下の4つの観点を追究しながら、国際比較・異分野理解・インクルーシブ等にも検討を努める。</p> <p>(1) 数学を学ぶ楽しさや意義を実感でき、質の高い学びを実現するには (2) 子どもの資質を活かし、様々な能力(問題発見・解決能力、思考力、判断力、表現力、情報活用能力)を高めていくには (3) 「総合的な学習」の授業などを通して、「社会生活の課題」(キャリア教育・防災教育・プログラミングとものづくり・SDGs等への対応)や「他教科との複合領域」等に対して、数学を活用するための「数学的な見方・考え方」を体得するには (4) 学習の中でICTを有効に活用できるようにするには</p>	
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導</p> <p>コ ー ス</p>	<p>理科教育の理論と実践</p>	<p>教育学部の附属小中学校等を中心として、小学校の理科の授業について観察を行う。そこで、様々な現職教員の行う指導法について、各分野の持つ分野特性から導かれた指導法について観察学習する。その観察学習をもとに、理科の教材に関する改良や開発を行い、附属小中学校等で授業実践をする。それらを行った後に、学生によるプレゼンテーション・質疑応答を経て、指導法を検討・修正し、最終的に報告書としてまとめていく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (47 内海 志典, 46 中村 琢, 8 古屋 康則/7回) (共同) 第1回: ガイダンス。小学校での授業観察に関する日程調整や対象とする分野(エネルギー・粒子・生命・地球)の調整を行う。 第4回: 授業観察。小学校理科における授業観察を行う。ここでは、分野の持つ特性を理解した上で、現職教員の指導法を学習するとともに、授業における教材や実験・観察方法などの問題点・改善点を洗い出すことを目的とする。 第5回: 授業観察の振り返り。前回の授業観察に基づき、洗い出した教材や実験・観察方法などの問題点・改善点を整理する。 第10回: 授業案の策定。開発した教材や実験・観察法を導入した授業案を考える。 第11回: 授業実践の実施。小学校において新たに開発した教材や実験・観察法を導入した授業実践を行う。この実践を通して、用いる教材や実験・観察法によって児童の授業内容に対する理解や授業に取り組む態度が異なることに気付かせる。 第14回: 指導法の再検討。プレゼンテーションと質疑応答の内容をもとに、教材開発から授業実践までを振り返り、最終的に教材開発・指導法を検討・修正する。 第15回: 報告書の作成。ここまでの実施内容を報告書としてまとめ、文書を提出する。</p>	<p>オムニバス方式 共同</p>

<p>科目 能力開発</p>		<p>(66 住浜 水季, 55 吉松 三博, 67 萩原 宏明, 9 三宅 崇, 25 須山 知香, 68 勝田 長貴/7回) (共同) 第2回: 事前講義-1. 観察予定の小学校理科の授業の分野に関して, 基礎的な知識の確認・修得のための講義を実施し, 分野の持つ特性の理解を促す。 第3回: 事前講義-2. 観察予定の小学校理科の授業の単元に関して, 発展的な内容の確認・修得のための講義を実施し, 単元の持つ特性の理解を促す。 第6回: 教材開発案の策定。ここでは, 目的とした授業を効果的に行うことができるよう改良・工夫した教材や実験・観察法を考案するとともに, それを導入した授業案を考える。その際, 教材や方法の改良・開発によって児童の授業内容に対する理解や, 授業に取り組む態度にどのような違いが生じるのかを想定しながら実施する。 第7回: 開発教材の検討。考案した教材や方法の改良・開発内容に関して, その妥当性や実現性について検討する。 第8回: 開発教材の実施。検討した案に沿って, 教材開発を行う。複数回の予備実験を実施する。 第9回: 開発教材の改良。予備実験を実施した開発教材について, 授業時間内での実施の可能性やさらなる改良を重ねる。 第12回: 授業実践の反省。小学校で実施した授業実践に基づき, 新たに開発した教材や実験・観察法の学習効果や学習態度への影響について検討する。ここでの検討によって, 授業案や教材をさらに改善する。 (47 内海 志典, 46 中村 琢, 8 古屋 康則, 66 住浜 水季, 55 吉松 三博, 67 萩原 宏明, 9 三宅 崇, 25 須山 知香, 68 勝田 長貴/1回) (共同) 第13回: 授業実践のまとめ。教員の司会のもとに, 受講生全員が教材開発から授業実践までをまとめ, プレゼンテーション発表を行い, 質疑応答を行う。</p>	
<p>専門科目 教科指導能力開発</p>	<p>エネルギーの捉え方に関する学習内容と授業開発</p>	<p>力学・電磁気学・波動などの物体の現象の中から, 受講生がテーマを選択する。選択した現象に関して資料や文献の講読を通じて理解する。現象のメカニズムを力とエネルギーと関連させて他者にプレゼンテーション等で説明する。現象について深く理解した上で, 中学校理科の「エネルギー」の単元での学習教材の現状を俯瞰し, 教材開発や授業開発を行う。</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発</p>	<p>「化学変化と原子・分子」に関する学習内容と授業開発</p>	<p>化学変化と原子・分子などの化学変化の規則性の中から, 受講生がテーマを選択する。選択した現象に関して資料や文献の講読を通じて理解し, 化学変化の詳細と他の化学変化との違い, と関連させて他者にプレゼンテーション等で説明する。また, 選択した現象について深く理解した上で, 中学校理科の「化学変化と原子・分子」の単元での学習教材の現状を俯瞰し, 教材開発や授業開発を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (47 内海 志典, 55 吉松 三博, 67 萩原 宏明)</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発</p>	<p>身のまわりの物質に関する学習内容と授業開発</p>	<p>身近な物質を中心とした物質の性質の分類や区別, 状態の異なる物質の特徴, 状態変化などの中から, 受講生がテーマを選択する。選択したテーマに関して資料や文献の講読を通じて理解し, 粒子のモデルも活用しながら物質の性質や状態, 状態変化等を相互に関連させて他者にプレゼンテーション等で説明する。また, 選択したテーマについて深く理解した上で, 中学校理科の「身のまわりの物質」の単元での学習教材の現状を俯瞰し, 教材開発や授業開発を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (47 内海 志典, 55 吉松 三博, 67 萩原 宏明)</p>	<p>共同</p>
	<p>生命の連続性に関する学習内容と授業開発</p>	<p>細胞分裂, 生殖様式, 遺伝, 進化などの生命現象の中から, 受講生がテーマを選択する。選択した現象に関して資料や文献の講読を通じて理解し, 現象のメカニズムを他の生命現象と関連させて他者にプレゼンテーション等で説明する。また, 選択した現象について深く理解した上で, 中学校理科の「生命の連続性」の単元での学習教材の現状を俯瞰し, 教材開発や授業開発を行う。</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>

<p style="text-align: center;">教科指導能力開発 コース 専門科目</p>		<p>(オムニバス方式／全15回) (8 三宅 崇／6回) 第1回：ガイダンス。追求する生命現象の選定に関して教員と受講生が話し合って決める。 第2回：教科書及び参考資料に基づき、細胞分裂、生殖様式に関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第3回：教科書及び参考資料に基づき、遺伝に関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第4回：教科書及び参考資料に基づき、進化に関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第5回：個々の受講生は、自分が選択した現象に関する学習教材や教育について研究した文献を検索し、これを講読する。 第6回：個々の受講生は、講読した文献の内容を紹介するプレゼンの準備を行う。</p> <p>(9 古屋 康則／7回) 第9回：第8回の課題発表に関して受講生間で議論を行い、追求内容を具体化する。 第10回：授業内で開発・改善途中の内容を自由に話し合い、お互いに指摘し合いながら適宜フィードバックし、さらなる改善に努める。 第11回：受講生は、追求・開発した教材や内容を盛り込んだ指導案を作成する。 第12回：選択した内容に関する模擬授業（1回目）。受講生は、他の受講生に対して模擬授業を実施する。 第13回：第12回の模擬授業に対する反省会を実施し、授業案や用いる教材に関して修正を加える。 第14回：選択した内容に関する模擬授業（2回目）。受講生は、修正した授業案に沿って模擬授業を実施する。 第15回：選定した内容に関する模擬授業（2回目つづき）及び全体のまとめ。開発した教材・授業案について、「生命」領域の持つ特性に対する学習効果や、さらなる課題をまとめ、レポートとして提出する。</p> <p>(8 三宅 崇, 9 古屋 康則／2回) (共同) 第7回：個々の受講生による文献の内容を紹介するプレゼンを実施し、その後、受講生間で他の生命現象との関連や現状課題について議論を行って理解を深める。 第8回：追求内容に関する発表をおこなう。個々の受講生は、第7回のプレゼンおよび議論によって浮き彫りになった課題に関して、改善を追求することに決めた内容を他の受講生や教員に対して発表する。</p>	
<p style="text-align: center;">教科指導 コース 専門科目</p>	<p>生物の構造と機能および生物と環境の関わりに関する学習内容と授業開発</p>	<p>生物の観察と分類、生物の体の共通点と相違点、植物・動物の体のつくりと働き、生物と環境、自然環境の保全と科学技術の利用などから、受講生がテーマを選択する。選択したテーマに関して資料や文献の講読を通じて理解し、他者にプレゼンテーション等で説明する。また、選択した現象について深く理解した上で、中学校理科の「生物の構造と機能」および「生物と環境の関わり」の単元での学習教材の現状を俯瞰し、教材開発や授業開発を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (25 須山 知香／6回) 第1回：ガイダンス。追求するテーマの選定に関して教員と受講生が話し合って決める。 第2回：教科書及び参考資料に基づき、生物の観察と分類、生物の体の共通点と相違点に関する学習項目および指導方法を学習する。これらのテーマを選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第3回：教科書及び参考資料に基づき、植物の体のつくりと働きに関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第4回：教科書及び参考資料に基づき、動物の体のつくりと働きに関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第5回：教科書及び参考資料に基づき、生物と環境、自然環境の保全と科学技術の利用に関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第6回：個々の受講生は、自分が選択した現象に関する学習教材や教育について研究した文献を検索し、これを講読する。</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>

<p>科目 能力開発</p>		<p>(8 古屋 康則/7回) 第9回：第8回の課題発表に関して受講生間で議論を行い、追求内容を具体化する。 第10回：授業内で開発・改善途中の内容を自由に話し合い、お互いに指摘し合いながら適宜フィードバックし、さらなる改善に努める。 第11回：受講生は、追求・開発した教材や内容を盛り込んだ指導案を作成する。 第12回：選択した内容に関する模擬授業（1回目）。受講生は、他の受講生に対して模擬授業を実施する。 第13回：第12回の模擬授業に対する反省会を実施し、授業案や用いる教材に修正を加える。 第14回：選択した内容に関する模擬授業（2回目）。受講生は、修正した授業案に沿って模擬授業を実施する。 第15回：選定した内容に関する全体のまとめ。開発した教材・授業案について、「生物の構造と機能」および「生物と環境の関わり」領域の持つ特性に対する学習効果とさらなる課題をまとめ、レポートとして提出する。</p> <p>(25 須山 知香, 8 古屋 康則/2回) (共同) 第7回：個々の受講生による文献の内容を紹介するプレゼンを実施し、その後、受講生間で他の生命現象との関連や現状課題について議論を行って理解を深める。 第8回：追求内容に関する発表をおこなう。個々の受講生は、第7回のプレゼンおよび議論によって浮き彫りになった課題に関して、改善を追求することに決めた内容を他の受講生や教員に対して発表する。</p>	
<p>専攻科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>地球と宇宙の変動に関する学習内容と授業開発</p>	<p>地球システムと宇宙の変動の関わりの中から、受講生がテーマを選択する。選択した現象に関して資料や文献の講読を通じて理解し、地球史の解読法と関連させて他者にプレゼンテーション等で説明する。また、選択した現象について深く理解した上で、中学校理科の「地球と宇宙」の単元での学習教材の現状を俯瞰し、教材開発や授業開発を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (68 勝田 長貴/7回) 第1回：ガイダンス。追求する地球概念の選定に関して教員と受講生が話し合って決める。 第2回：教科書及び参考資料に基づき、地球と宇宙に関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第3回：教科書及び参考資料に基づき、地球と宇宙の歴史・地学的時間スケールに関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第4回：教科書及び参考資料に基づき、地球と宇宙の関わりを記録する堆積物とその研究法に関する学習項目および指導方法を学習する。これらの現象を選定した学生を中心に議論を進め理解を深める。 第5回：個々の受講生は、自分が選択した宇宙に関する学習教材や教育について研究した文献に基づいてプレゼンを行い、その後受講生間で現状課題について議論を行って理解を深める。 第6回：個々の受講生は、自分が選択した地球環境に関する学習教材や教育について研究した文献に基づいてプレゼンを行い、その後受講生間で現状課題について議論を行って理解を深める。 第7回：個々の受講生は、自分が選択した地球や宇宙の関りが記録される堆積物に関する学習教材や教育について研究した文献に基づいてプレゼンを行い、その後受講生間で現状課題について議論を行って理解を深める。</p>	<p>オムニバス方式</p>

		<p>(46 中村 琢/8回)</p> <p>第8回：追求内容に関する発表をおこなう。個々の受講者は、第5～7回のプレゼンおよび議論によって浮き彫りになった課題に関して、改善を追求することに決めた内容を他の受講生や教員に対して発表する。その後受講生間で議論を行い、追求内容を具体化する。</p> <p>第9回と第10回：授業内で開発・改善途中の内容を自由に話し合い、お互いに指摘し合いながら適宜フィードバックし、さらなる改善に努める。</p> <p>第11回：受講生は、追求・開発した教材や内容を盛り込んだ指導案を作成する。</p> <p>第12回：選択した内容に関する模擬授業（1回目）。受講生は、他の受講生に対して模擬授業を実施する。</p> <p>第13回：模擬授業を振り返り、受講者間で反省会を実施し、授業案や用いる教材に関して修正を加える。</p> <p>第14回：選択した内容に関する模擬授業（2回目）。受講生は、修正した授業案に沿って模擬授業を実施する。</p> <p>第15回：選定した内容に関する模擬授業（2回目つづき）及び全体のまとめ。開発した教材・授業案について、「地球」領域の持つ特性に対する学習効果や、さらなる課題をまとめ、レポートとして提出する。</p>		
専門科目	教科指導能力開発 コース	地球の大気と水の循環に関する学習内容と授業開発	<p>「地球の大気と水の循環」に関連する内容の中から、受講生がテーマを選択する。選択した現象に関して資料や文献の講読を通じて理解し他者にプレゼンテーション等で説明する。また、選択した現象について深く理解した上で、中学校理科の「地球の大気と水の循環」の単元での学習教材の現状を俯瞰し、教材開発や授業開発を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (8 古屋 康則、68 勝田 長貴)</p>	共同
専門科目	教科指導能力開発 コース	工作教育実践研究	<p>はじめに、ものづくり体験の意義と目的について、最近の教育研究・教育実践事例を取り上げながら講述する。続いて、ものづくり題材の開発事例を紹介しながら、対象学齢に合わせた難易度の調整や学習指導要領に基づく適正な学習内容の選択についてのべ、授業における利用の場面と留意点について解説する。また、発達段階に応じた適切な材料・工具の選択とその安全な使用方法について、実習を交えながら修得を目指す。最後に、附属学校等の教育現場で開発題材の試用と検証を行い実践力の向上をはかる。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (15 小原 光博、28 福岡 大輔、73 舟越 久敏)</p>	共同
専門科目	教科指導能力開発 コース	技術科教育実践研究	<p>技術教育・工業教育の各分野における教材開発の方法論と事例研究、教育環境の整備と活用、実習における実技指導・安全指導について、詳しく講ずる。現場教師の協力を得て、附属学校等での授業研究を適宜取り入れ、技術教育・工業教育の実践を総合的に研究する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (15 小原 光博、28 福岡 大輔、73 舟越 久敏)</p>	共同
専門科目	教科指導能力開発 コース	工業技術に関する学習内容と教材開発	<p>技術と工業に関する教育の内容と方法及び実践事例について俯瞰的に解説した後、各専門分野における産業史及び先端技術の現状と、今後の技術開発の展望並びに産業への応用、また社会や環境に及ぼす影響について、工学的側面からとらえ講述する。各分野の知識とともに「専門横断的」な理解力・発想力を身につけ知識と技術の深化を図る。最後に学校現場での活用を想定した教材開発に取り組み、実践力の向上を確かめる。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (15 小原 光博、28 福岡 大輔、73 舟越 久敏)</p>	共同

<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>電気電子工学に関する学習内容と教材開発</p>	<p>高効率エネルギー変換技術とセンシング技術に焦点を当てて、中学校技術および高等学校工業における電気電子工学および電子情報工学に関する学習内容の構築や教材開発への活用に必要な知識について解説する。電気電子工学および電子情報工学の技術を活用した教材開発の事例を学び、教材や教育内容の開発に取り組むことにより、「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力等」を涵養できる教材開発のスキルを身につける。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (28 福岡 大輔、73 舟越 久敏)</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>情報工学に関する学習内容と教材開発</p>	<p>本講義では、中学校技術・家庭科（技術分野）内容「D 情報の技術」における実践事例を調査・分析し、新たな題材および教材・教具の開発を通して、「プログラムによる計測・制御」、「ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミング」、「情報セキュリティ」に関する実践的な知識を学ぶ。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (28 福岡 大輔、73 舟越 久敏)</p>	<p>共同</p>
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>金属加工学・機械工学に関する学習内容と教材開発</p>	<p>金属加工学及び機械工学に関する教育の内容と方法及び実践事例について俯瞰的に解説した後、各専門分野における産業史及び先端技術の現状と、今後の技術開発の展望並びに産業への応用、また社会や環境に及ぼす影響について、工学的側面からとらえ講述する。最後に学校現場での活用を想定した教材開発に取り組み、実践力の向上を確かめる。</p>	
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>木材加工学に関する学習内容と教材開発</p>	<p>木材の利用と環境・産業・生活との関わりについて、また学校教育内外における木材利用に関わる教育の現状と動向について、さまざまな事例を紹介しながら考察し、議論を通じて理解を深める。技術と工業の学習内容に重点を置きながら、教育実践に必要な専門的・実地的な知識・技術を修得する。</p>	
<p>専門科目 教科指導能力開発 コース</p>	<p>家庭科教育実践研究</p>	<p>実習における効率的な指導法を検討するための教材開発とその応用について学ぶ。小中学校の教材開発として、家庭科の特徴でもある実習・実技に用いる動画の作成などに取り組み、小学校及び中学校の授業で活用し、その効用について検討する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (16 大藪千穂/2回) 第6回：教材の開発①：消費生活・環境分野 第10回：家庭科における授業実践①：消費生活・環境分野 (18 久保 和弘/2回) 第7回：教材の開発②：食分野（栄養学） 第11回：家庭科における授業実践②：食分野（栄養学） (74 杉山 真魚/2回) 第8回：教材の開発③：住分野 第12回：家庭科における授業実践③：住分野 (77 柴田 奈緒美/2回) 第9回：教材の開発④：食分野（調理学） 第13回：家庭科における授業実践④：食分野（調理学） (74 杉山 真魚、77 柴田 奈緒美/2回) (共同) 第4回：家庭科授業の観察 第5回：家庭科授業の教材研究 (16 大藪千穂、18 久保 和弘、74 杉山 真魚、77 柴田 奈緒美/5回) (共同) 第1回：家庭科教育の概要 第2回：小学校・中学校の家庭科に関する教育内容の課題 第3回：教材の事例 第14回：家庭科の授業の評価と課題 第15回：教材研究レポート作成</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>

<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p style="text-align: center;">コ ー ス</p>	<p>調理学の理論と実践</p>	<p>ヒトは生きる上で、食事をすることは必要不可欠であり、食べ物を日々摂取している。食べ物の根源は食品・食材であり、これらを調理することで、安全が担保され、かつ消化・吸収しやすくなる。すなわち、調理操作のひとつひとつには、何かしらの意義がある。本授業では、調理操作が及ぼす食品・食材への影響を科学的側面から理解することを目的とする。また、家庭科の授業では、科学的知識のみならず、家庭や環境など幅広い視野を有することで、児童・生徒に深い学びを教授することが可能となる。そこで、家庭科における調理学の役割や、調理学と家族との関わり、そして調理学と環境の関連について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (77 柴田 奈緒美/10回)</p> <p>第2回：食品における水の役割と微生物について 第3回：タンパク質系食品について 第4回：デンプン系食品について 第5回：野菜について 第6回：非加熱調理操作の基礎 第7回：加熱調理操作の基礎 第8回：冷凍および解凍について 第9回：調理過程における食品の品質変化について 第10回：調理前後の食品・調理品の保存過程における品質変化について 第11回：調理方法の選択に関する実践事例 (16 大藪千穂/3回)</p> <p>第12回：家族を考慮した献立の計画 第13回：調理操作から環境を考える 第14回：エコクッキングの実践事例 (77 柴田 奈緒美, 16 大藪千穂/2回) (共同)</p> <p>第1回：家庭科における調理学の役割 第15回：まとめ</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>
<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p style="text-align: center;">コ ー ス</p>	<p>調理学の学習内容と教材開発</p>	<p>食分野 (調理学) において、家族を考慮した献立作成に関する教材、消費生活・家族および調理操作を包括した食材選択を検討する教材、食品科学の知識に基づき調理操作を選択する教材、環境に配慮した調理方法に関する教材、計4項目の教材を開発する。また、開発した教材の有効性について議論することで、児童・生徒が深い学びを修得することができる教材の開発を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (16 大藪千穂/3回)</p> <p>第1回：調理学における有効な教材とは 第6回：食材の選択と調理実習・家庭・消費生活との関連 第14回：エコクッキングに関する教材開発 (77 柴田 奈緒美/7回)</p> <p>第2回：献立の計画における指導のポイント 第5回：食材の選択における指導のポイント 第8回：調理器具について 第9回：調理操作について 第10回：伝熱の基礎 第11回：伝熱と調理操作との関連 第12回：調理方法の選択に関する教材開発 (16 大藪千穂, 77 柴田 奈緒美/5回)</p> <p>第3回：献立の計画と調理実習・家庭との関連 第4回：家族を考慮した献立を作成するための教材開発 第7回：消費生活・家族および調理操作を包括した食材選択に関する教材開発 第13回：調理操作から環境を考える教材開発 第15回：まとめ</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>
<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p style="text-align: center;">コ ー ス</p>	<p>栄養学の理論と実践</p>	<p>中学及び高校における食分野の学習は、食育、食事の役割、各ライフステージの栄養、栄養素の種類と働き及びその相互作用とこれに伴う健康の保持増進、運動と栄養の関係、病態と栄養の関係、食文化等について、基礎理論を理解することを目的としている (中学校学習指導要領：食生活、高等学校学習指導要領：第14節フードデザイン・第15節食文化・第17節栄養・第18節食品)。本授業の目的は、基礎理論に関する理解を実践につなげ、これを教育に応用できるようにすることである。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (16 大藪 千穂、18 久保 和弘)</p>	<p>共同</p>

<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>栄養学の学習内容と教材開発</p>	<p>日本及び世界の食生活・食文化と疾病罹患率・死亡率との関係について、文献調査を行い、健康に寄与する食のあり方を理解する。また、健康の保持及び疾病リスク低減を目的として、食事調査と食事摂取基準を活用した教材を開発し、集団（給食）及び個人の栄養について食事指導ができるようする。（中学校学習指導要領：食生活、高等学校学習指導要領：第14節フードデザイン・第15節食文化・第17節栄養・第18節食品に対応）</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （16 大藪 千穂、18 久保 和弘）</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>住居学の理論と実践</p>	<p>住居学の理論について、住空間と人間の在り方を問うている著名な文献・作品を通して、意匠・構造・設備・周辺環境など物理的構成要素と居住性を総合的に捉える方法を学ぶ。作品解説においては伝統的民家から近現代に設計されたものまで幅広く扱う。また、住居学の授業実践について、修得した理論をもとに教材事例研究を行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （74 杉山真魚／9回） 第2回：景観と風景 第3回：住居と自然 第4回：住居と機械 第5回：住居と器物 第6回：西洋の生活景1：アーツ・アンド・クラフツ運動 第7回：西洋の生活景2：植物への愛着 第8回：日本の生活景1：日本人と自然 第9回：日本の生活景2：民藝運動 第10回：住まいの居住性 （74 杉山真魚、16 大藪千穂／6回）（共同） 第1回：住居学の家庭科における役割 第11回：住まいの安全性と教材事例研究 第12回：住まいの快適性と教材事例研究 第13回：住まいの実用性と教材事例研究 第14回：住まいの持続可能性と教材事例研究 第15回：総括</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>住居学の学習内容と教材開発</p>	<p>住居学の教育方法に関する実践的研究を遂行するにあたり、実践事例や開発された教材を踏まえ、指導案作成、教材開発、模擬授業を行う。最後に、実践的な教育方法や教材のあり方について考究して成果を取りまとめる。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （74 杉山真魚／9回） 第3回：住まいの安全性に関する指導案作成 第4回：住まいの安全性に関する教材開発 第5回：住まいの安全性に関する模擬授業 第6回：住まいの快適性に関する指導案作成 第7回：住まいの快適性に関する教材開発 第8回：住まいの快適性に関する模擬授業 第9回：住まいの実用性に関する指導案作成 第10回：住まいの実用性に関する教材開発 第11回：住まいの実用性に関する模擬授業 （74 杉山真魚、16 大藪千穂／6回）（共同） 第1回：住居学と教育 第2回：住まいと家族・地域・環境 第12回：住まいの持続可能性に関する指導案作成 第13回：住まいの持続可能性に関する教材開発 第14回：住まいの持続可能性に関する模擬授業 第15回：総括</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>家庭経営学の理論と実践</p>	<p>家庭は家庭生活をその対象としているが、私たちのライフスタイルと家庭生活がどのように結びついているかを情報、環境との関係から明らかにする。それぞれの側面で展開できる授業について紹介する。</p>	

<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p>	<p>家庭経営学の学習内容と教材開発</p>	<p>教育学部の附属小中学校（前期課程）等を中心として、家庭科の授業について観察を行う。そこで、様々な現職教員の行う指導法について、家庭科経営学領域の指導内容論から導かれた指導法について観察学習する。その観察学習をもとに、家庭科の家庭経営学領域の教材開発を行い、附属小中学校（前期課程）等で授業実践をする。それらを行った後に、学生がプレゼンテーションで発表し、質疑応答をし、指導法を検討・修正していく。</p>	
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p>	<p>芸術身体表現教育の学習指導のデザイン</p>	<p>(1) まず、音楽、図画工作、保健体育の3教科について、それぞれの教科の基盤となる基礎理論を学び、各教科の特性を理解するとともに、共通点や相違点について考察する。 (2) 幼児の原始的表現である遊び歌、落書き、遊びから小学校に至るまでの発達段階を理解し、適切な指導方法の理解と授業デザインを構想する。 (3) 教科間の共通性を生かした授業デザインと模擬授業および省察を通して学校教育における芸術身体表現の意義を理解するとともに教材開発能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (43 松永 洋介／4回) 第1回：本講義の構成のガイダンス、知覚・感受による表現、及びその学習と支援方法の探究（デューイ、スワンウィック、ハーグリーブスの理論を中心に） 第2回：「表現の原理」の理解と解析 第3回：イメージの発生と内化、音への変換の過程および音楽表現との関係 第4回：聴覚を中核とした教材開発と授業デザイン (10 河西 栄二／4回) 第5回：子どもの遊びや行為に内在する感性（主観的なイメージ）からパフォーマンス（具体的な作品）への、意図的行為についての理解 第6回：表現における視覚芸術としての美術の意義、および児童の発達について（リード、ローウェンフェルトの理論を中心に） 第7回：パフォーマンスや作品と行為者の意図との関係の理解およびパフォーマンスの見方と学習者の見方探究 第8回：視覚を中核とした教材開発と授業デザイン</p> <p>(12 杉森 弘幸, 13 熊谷 佳代／4回) 第9回：身体的認識、空間認知の理解、実践知の探究および支援方法の探究 第10回：環境や状況の中における、行為者の意図についての理解と実践知の探究 第11回：客観的な時空間的環境と人的環境の影響の認識と、受容的な援助体制や配慮の方法 第12回：身体的認識・空間認知を中核とした授業教材開発と授業デザイン (43 松永 洋介, 10 河西 栄二, 12 杉森 弘幸, 13 熊谷 佳代／3回) 第13回：遊びの中の芸術表現と身体性についての考察と授業デザイン 第14回：教科間の関連を生かした授業デザインと模擬授業の構想 第15回：教科間の関連を生かした模擬授業の実践と省察</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p>	<p>音楽教育実践研究</p>	<p>内的動機からイメージを喚起する音楽の授業を構想、実践し、その授業を省察することを通して、授業に対する教材開発・分析、授業構想、臨床的実践力等を養う。自分たちの企画した授業について複数の観点から分析し、授業実践力を身に付けることができることを目標とする。授業を構想、実践、省察することを通して実践力を高める。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (26 松浦 光男、43 松永 洋介、69 仲田 久美子、70 西尾 洋、71 近野 賢一)</p>	<p>共同</p>
	<p>音楽教育の理論と実践</p>	<p>取り組む作品を自分で決め、これまでに身につけた音楽の演奏技術を更に磨く。またその作品の「音楽の構造」や「詩（テキスト）の解釈」など、あらゆる視点から考察を深めていく。また音楽鑑賞教材として利用するための準備を行う。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専 門 科 目</p> <p>教科指導能力開発 コース</p>		<p>(オムニバス方式／全15回) (71 近野 賢一／11回) 第1回：作品成立の時代背景について文献調査を行う 第2回：様式をふまえて楽譜を読む 第3回：詩（テキスト）の解釈について考察する 第4回：様式や詩（テキスト）の解釈を実際の演奏にいかす 第5回：表現方法や構成を具体的に説明する 第6回：自分の演奏を、音楽学的観点から見つめ、改善点をまとめる 第11回：中学校での音楽鑑賞授業の際の説明、鑑賞のポイントをまとめる 第12回：解説や鑑賞ポイントの説明と実際の演奏の流れを台本にまとめ練習する 第13回：音楽鑑賞授業 生徒にはアンケートを配布し回収する 第14回：回収したアンケートを分析し、音楽鑑賞授業の改善点をまとめる 第15回：改善点を反映した音楽鑑賞授業の台本を作成する (69 仲田 久美子／1回) 第7回：声楽パートと伴奏パートの関わりの観点から、改善点をまとめる (70 西尾 洋／1回) 第8回：自分の演奏を、楽曲分析や様式的な観点から見つめ、改善点をまとめる (26 松浦 光男／1回) 第9回：声楽パートを器乐的な観点から見つめ、改善点をまとめる (43 松永 洋介／1回) 第10回：中学校での音楽鑑賞教材として実演するための準備をする</p>	
<p>専 門 科 目</p> <p>教科指導能力開発 コース</p>	<p>音楽教育の理論と実践（鍵盤楽器）</p>	<p>これまでに身につけてきた演奏技術を更に磨き、自分で決めた課題曲に取り組む。課題曲について「曲想」と「音楽の構造」の関係を演奏で表現し、それについて音楽的な知識をいかした理由付けができるようにする。また、音楽鑑賞教材として利用するための準備をする。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (26 松浦 光男、43 松永 洋介、69 仲田 久美子、70 西尾 洋、71 近野 賢一)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教科指導能力開発 コース</p>	<p>音楽教育の理論と実践</p>	<p>音楽科には歌唱、器楽、創作(音楽づくり)、鑑賞の4つの領域がある。それぞれが音楽科のトータルな学力を育成するのに欠かせない分野である。授業をするにあたっては単に実技の指導能力が求められるだけではなく、指導内容に基づいて授業をデザインし、生徒の実態に合わせて展開していく能力が要求される。そこでこの授業では各領域の授業を構想し展開できる能力を養うと同時に、音楽科のカリキュラムを作成できる能力を養う。各分野の指導内容を理解し指導案を書くと同時に展開できることを目標とする。そのため、まずカリキュラムの編成原理を学び、その原理に基づいた授業を検討すると同時に指導案を書き、受講生全員で比較検討する。さらに評価方法についても検討する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (26 松浦 光男、43 松永 洋介、69 仲田 久美子、70 西尾 洋、71 近野 賢一)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教科指導能力開発 コース</p>	<p>作曲教育の理論と実践</p>	<p>演奏や指導方法のうち、作品の構造に由来する範囲について、関係性を明らかにする。音楽を高度な知的活動としてとらえ、作品の構造を作曲理論的に一定の程度まで説明できること、また、それを授業展開に生かすことができることを目標とする。西洋音楽理論の歴史と実際を作曲的見地から俯瞰するとともに、演奏法・鑑賞法・指導法への接続を考察する。また参加学生の興味に沿った作曲も行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (26 松浦 光男、43 松永 洋介、69 仲田 久美子、70 西尾 洋、71 近野 賢一)</p>	<p>共同</p>

<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 科 指 導 能 力 開 発 コ ー ス</p>	<p>器楽教育の理論と実践（管楽器）</p>	<p>本授業の内容は次のとおりである。</p> <p>(1) これまでの学習経験の上立った、器楽演奏の研究（管楽器・リコーダー等を含める）</p> <p>(2) 器楽のために書かれた楽曲の研究（時代背景を含めた楽曲分析および呼吸・発音の研究）</p> <p>(3) 鍵盤楽器とのアンサンブル研究（器楽合奏および鑑賞を含める）</p> <p>(4) 演奏する上で、何が大切であるかを探求しながら演奏技術および音楽性の向上を図る。</p> <p>(5) 演奏法の模索だけでなく指導法の研究を並行して行う。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （26 松浦 光男／11回）</p> <p>第1回：ガイダンス（研究計画の確認・作成）</p> <p>第2回：基本的な演奏技術の振り返り、課題とする楽曲の選定（1曲目）</p> <p>第3回：選定した楽曲の譜読み（1曲目）</p> <p>第4回：楽曲分析をもとに演奏法の研究（1曲目）</p> <p>第5回：楽曲のフレーズから「基礎・基本」に立ち返った練習方法の模索（1曲目）</p> <p>第6回：楽曲の仕上げ・鍵盤楽器とのアンサンブル研究（1曲目）</p> <p>第7回：中間発表（模擬授業の展開）および振り返り（1曲目）</p> <p>第8回：楽曲の譜読みおよび楽曲が作曲された時代背景の研究（2曲目）</p> <p>第13回：模擬授業（実技試験）に向けた授業計画の準備および暗譜確認（2曲目）</p> <p>第14回：模擬授業の展開（実技試験）（2曲目）</p> <p>第15回：反省会（試験の振り返り） （70 西尾 洋／1回）</p> <p>第9回：楽曲分析をもとに演奏法の研究（2曲目） （71 近野 賢一／1回）</p> <p>第10回：楽曲のフレーズから「基礎・基本」に立ち返った練習方法の模索（発音およびブレス研究）（2曲目） （43 松永 洋介／1回）</p> <p>第11回：楽曲演奏と指導法の関連性についての研究（2曲目） （69 仲田 久美子／1回）</p> <p>第12回：楽曲の仕上げ、鍵盤楽器とのアンサンブル研究（2曲目）</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 科 指 導 能 力 開 発 コ ー ス</p>	<p>音楽学教育の理論と実践</p>	<p>教科教育と音楽学との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。音楽学と音楽教育の歴史と理論について学習を行い、教材開発と指導展開案の作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （26 松浦 光男、43 松永 洋介、69 仲田 久美子、70 西尾 洋、71 近野 賢一）</p>	<p>共同</p>

<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 科 指 導 能 力 開 発 コ ー ス</p>	<p>造形教育実践研究</p>	<p>造形表現活動、身体表現活動や音楽表現活動について、対象者の発達段階に応じたワークショップや題材研究について考察する。 小学校図画工作の「造形遊び」に見られる、材料や技法から造形活動を始める活動などについて、いくつかの実践を行い「造形遊び」を行うために教師としての目標や準備を理解する。 受講生で協力し芸術活動全般に共通する身体活動を生かしたワークショップや題材を開発する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (27 隼瀬 大輔/7回)</p> <p>第1回：オリエンテーション 造形活動について 第2回：「造形遊び」の実践1と考察 第3回：「造形遊び」の実践2と考察 第4回：「造形遊び」の題材開発1 第5回：「造形遊び」の題材開発2 第6回：開発した「造形遊び」題材の実践1 (模擬授業A班) 第7回：開発した「造形遊び」題材の実践2 (模擬授業B班) (11 山本 政幸/7回)</p> <p>第8回：「ICT教育」の実践1と考察 第9回：「ICT教育」の実践2と考察 第10回：「ICT教育」の題材開発1 第11回：「ICT教育」の題材開発2 第12回：「ICT教育」の題材開発3 第13回：開発した「ICT教育」題材の実践1 (模擬授業A班) 第14回：開発した「ICT教育」題材の実践2 (模擬授業B班) (27 隼瀬 大輔, 11 山本 政幸/1回) (共同)</p> <p>第15回：成果発表</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>
<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 科 指 導 能 力 開 発 コ ー ス</p>	<p>美術科教育の理論と実践</p>	<p>学部での美術科教育と美術教科内容の学習をふまえ、小・中学校教育における美術の役割を理解し、各学年の発達段階に対応した授業構成と美術教材を分析する。教科内容専門分野の教員が、絵画、彫刻、デザイン、立体造形等の教育的特性を分析し、実践的な教材開発の方法を指導する。また、美術科教育に関連する専門性の高い研究テーマを紹介する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (小室 明久/6回)</p> <p>第1回：小・中学校教育における美術の役割と特徴 第2回：各学年の発達段階に対応する図工・美術教材の変化分析 第3回：図工・美術科教育における各種題材の領域構成 第4回：「造形遊び」の実践事例、材料と場所の特徴をもとにした表現 第5回：アメリカの美術教育の実践、DBAEの動向、教科内容の体系化 第14回：模擬授業に関する題材研究 (10 河西 栄二/2回)</p> <p>第6回：美術教育における立体・彫刻の役割と特性、及び立体造形表現の題材と指導方法 第7回：木を素材とした作品制作の指導と注意事項 (27 山本 政幸/2回)</p> <p>第8回：美術教育におけるデザインの役割と特性、及び平面造形表現の題材と指導方法 第9回：文字デザインを応用した作品制作の指導 (11 隼瀬 大輔/2回)</p> <p>第10回：美術教育における工作・工芸の役割と特性 第11回：いろいろな素材の技法と応用した造形表現の指導方法 (56 野村 幸弘/2回)</p> <p>第12回：美術教育における鑑賞の役割と特性 第13回：鑑賞対象作品の選定と鑑賞方法 (81 小室 明久, 10 河西 栄二, 27 山本 政幸, 11 隼瀬 大輔, 56 野村 幸弘/1回) (共同)</p> <p>第15回：模擬授業発表</p>	<p>オムニバス方式 共同 (一部)</p>
<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 科 指 導 能 力 開 発 コ ー ス</p>	<p>絵画教育の理論と実践</p>	<p>図工・美術における絵画題材の造形要素、制作の主題・モチーフ、素材・技法別の系統的な展開、絵画作家作品の鑑賞および鑑賞と連動した表現題材の設定、生活や学習に活用する場面などについて、教師の立場から授業展開を考察する。講義および意見交換後に、実際に各種素材・技法の検討・研究を行う。その後、実施学年を想定した題材の試作、授業構成の検討、模擬授業を行う。</p>	<p>共同</p>

		授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (10 河西 栄二、56 野村 幸弘、80 佐藤 昌宏)	
専門科目	彫刻教育の理論と実践	図工・美術における立体・彫刻題材の造形要素,制作の主題・モチーフ、素材・技法別の系統的な展開,彫刻作家作品の鑑賞および鑑賞と連動した表現題材の設定,生活や学習に活用する場面などについて,教師の立場から授業展開を考察する。講義および意見交換後に,実際に各種素材・技法の検討・研究を行う。その後,実施学年を想定した題材の試作,授業構成の検討,模擬授業を行う。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (10 河西 栄二、81 小室 明久)	共同
専門科目	デザイン教育の理論と実践	図工・美術におけるデザイン・映像メディア表現領域の題材について考察する。装飾や伝達などの生活に密着したデザインの目的や役割を考えるとともに,ユニバーサルデザインやサステイナブルデザインといった現代社会における問題解決の事例や,ICT機器を用いたデザイン手法を追求し,学校教育における教材化の方法を探る。 (オムニバス方式/全15回) (27 山本 政幸/13回) 第1回:デザインの目的と役割 第2回:デザイン表現における写真・イラストレーションの技法 第3回:デザイン表現におけるピクトグラム・地図の技法 第4回:デザイン表現におけるポスターの技法 第5回:デザイン表現におけるレタリング・タイポグラフィの技法 第6回:デザイン表現におけるCG・アニメーションの技法 第7回:デザイン表現におけるユニバーサルデザイン・サステイナブルデザインの技法 第8回:小学校題材の試作 第9回:小学校題材の指導案作成 第10回:小学校題材の評価方法 第12回:中学校題材の試作 第13回:中学校題材の指導案作成 第14回:中学校題材の評価方法 (27 山本 政幸, 81 小室 明久/2回) (共同) 第11回:小学校題材による模擬授業 第15回:中学校題材による模擬授業	オムニバス方式 共同 (一部)
専門科目	工芸教育の理論と実践	学部での美術科教育と美術教科内容の学習をふまえ,小・中学校教育における工作・工芸教育の役割を理解し,各学年の発達段階に対応した授業構成と工作・工芸教育題材について,素材や技法,表現方法について学ぶ。実践を通して題材を開発し,指導方法について考察する。 (オムニバス方式/全15回) (27 隼瀬 大輔/13回) 第1回:小・中学校教育における工作・工芸の表現について 第3回:工作・工芸の表現の素材(紙・粘土)について 第4回:工作・工芸の表現の素材(紙・粘土)の技法について 第5回:工作・工芸の表現の素材(木材・金属)について 第6回:工作・工芸の表現の素材(木材・金属)の技法について 第7回:工作・工芸の表現の題材事例の調査 第8回:工作・工芸の表現の題材事例の実践 第9回:工作・工芸の表現の題材事例の振り返り 第10回:工作・工芸の表現の題材開発 第11回:工作・工芸の授業の注意点 第12回:模擬授業案の構想 第13回:模擬授業の実践 第14回:模擬授業の振り返り (81 小室 明久/1回) 第2回:各学年の発達段階に対応する工作・工芸題材について教科書を分析 (27 隼瀬 大輔, 81 小室 明久/2回) (共同) 第15回:まとめ	オムニバス方式 共同 (一部)

<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>鑑賞教育の理論と実践</p>	<p>「対話型鑑賞」をはじめ、美術鑑賞のさまざまな方法を学ぶとともに、「比較鑑賞法」によって作品の価値・制作者・制作年・発想源・作品の特徴・作者の個性を理解する。またおもにアジアとヨーロッパの美術・文化遺産、および郷土の文化財について調べ、美術鑑賞の新たな教材を開発する。教育学部の附属小中学での美術鑑賞の授業について観察・分析を行ったうえで、その教材を用いて模擬授業を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (56 野村 幸弘、81 小室 明久)</p>	<p>共同</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>体育教育実践研究</p>	<p>幼・小を対象として運動指導および体育の授業を実施する際に必要となる理論を修得する。修得した理論を基にして、単元計画および1時間の授業案を作成し、模擬授業を実施する。最後に自らが行った授業を省察することにより、授業実践を行う上で必要となる総合的な能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (76 林 陵平/5回) 第1回：学習指導要領における体育 第2回：体育科教育の歴史 第3回：体育における4つの学習場面 第4回：二重構造で成り立つ体育の良い授業 第5回：教師の相互作用行動 (14 春日 晃章/1回) 第6回：授業見学(幼) (13 熊谷 佳代/3回) 第7回：授業見学(小) 第8回：授業見学を受けての討論 第14回：模擬授業の実施(表現運動) (12 杉森 弘幸/3回) 第9回：単元計画の作成 第10回：授業計画の作成 第13回：模擬授業の実施(ネット型) (72 上田 真也/1回) 第12回：模擬授業の実施(ゴール型) (14 春日 晃章, 76 林 陵平/1回) (共同) 第11回：模擬授業(陸上・水泳) (76 林 陵平, 14 春日 晃章, 13 熊谷 佳代, 12 杉森 弘幸, 72 上田 真也/1回) (共同) 第15回：模擬授業の振り返り</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>保健体育科教育の理論と実践</p>	<p>保健体育科教育における高度な教育専門職者の養成を目的に、保健体育科教育に関する基礎理論について学習を行い、効果的な指導展開案の作成とその模擬授業を行う。本授業の中間から終末には模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。</p>	
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>体育測定評価の理論と実践</p>	<p>保健体育科教育における高度な教育専門職者の養成を目的に、保健体育に関する測定と評価の基礎知識について学び、実際の学校現場で活用できる統計的手法を用いた分析と生徒に対する評価のフィードバックに関する模擬授業を行いながら実践力を身につける。</p>	
<p>専 門 科 目</p> <p>教 科 指 導 能 力 開 発</p> <p>コ ー ス</p>	<p>運動生理学の理論と実践</p>	<p>保健体育科教育における高度な教育専門職者の養成を目的に、運動生理学に関する基礎理論について学習を行い、安全で効果的な指導展開案の作成とその模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。</p>	

専門科目 教科指導能力開発 コース	コーチング学の理論と実践	保健体育科教育における高度な教育専門職者の養成を目的に、コーチング学およびトレーニング学の視点から、学校体育において運動指導を行う際に必要となる知識を修得し、それらの知識を問題解決型の思考を取り入れた授業実践に応用する。また、体罰や各種ハラスメントに関連する問題点について深く考える。	
専門科目 教科指導能力開発 コース	身体表現の理論と教材開発	保健体育科教育における高度な教育専門職者の養成を目的に、身体表現に関する基礎理論と実践について学習し、身体表現の教材開発を行い、指導展開案の作成とその模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。	
専門科目 教育実践開発 コース	特別支援学校経営の理論と実践	特別支援学校を実際に訪問し、各学校の学校経営や学校を取り巻く課題等について実地調査を行う。そして、その結果の分析等で得た知見に基づき、連携協力校/勤務校等の学校経営の改革立案等を作成する。その過程をとおして、障がいのある幼児児童生徒がそのもてる力を十分に発揮し、社会自立を実現するための教育的支援を行う学校づくりの在り方等について実地調査や事例研究などをとおして検討し、その方法を考える。	
専門科目 教育実践開発 コース	特別支援学校の危機管理対策	特別支援学校においては、在籍する児童生徒の重度・重複化が進み生命の維持をも含めた危機管理対応が一層求められるようになってきている。特別支援学校の実地調査をし、各学校の危機管理計画やその運用等についての分析を行う。そして、その結果の分析等で得た知見に基づき院生相互で協議を行い、安全かつ有効な危機管理マニュアルの立案・活用等について検討を加える。そして、各障がい種別に対応した危機管理等の実際の内容を分析するなかで、安全かつ効果的な危機管理体制の在り方について検証する。	
専門科目 教育実践開発 コース	障害児理解と教育実践	障害のある児童生徒の理解と対応について、基礎的知識を学んだうえで、特別支援学校、特別支援学級、通常の学級や通級指導教室における指導などを事例的に学ぶ。事例を通して、アセスメントに基づく指導計画の立案、教材開発、保護者や関係機関との連携の方法など、実践力を高めるための授業を展開する。 (オムニバス方式/全15回) (34 鈴木 祥隆/5回) 第1回：インクルーシブ教育と合理的配慮 第2回：世界における特別支援教育 第3回：日本における特別支援教育 第4回：特別支援学校における教育の課題 第5回：特別支援学校での教育実践演習 (33 神野 幸雄/5回) 第6回：就学前の療育 第7回：知的障害児の進路指導 第8回：保護者指導の理論と実践 第9回：特別支援学級における教育の課題 第10回：特別支援学級での教育実践演習 (19 村瀬 忍/5回) 第11回：学習障害児の理解と教育方法 第12回：学習障害児の心理教育アセスメント演習 第13回：通級指導教室における教育の課題 第14回：通級指導教室での教育実践演習 第15回：発達障害児支援の事例検討	オムニバス方式
専門科目 教育実践開発 コース	コミュニケーション障害の教育的支援	コミュニケーション障害から生じる困難さの特徴を、ICFの障害の捉え方を基礎として開設する。通級指導教室でのグループ指導や個別指導の実践例を具体的に学び、指導の目的や課題を議論する。支援を具体的に進めるために必要な連絡、連携の在り方についても学び、事例をもとに個別の支援計画を作成する。	

専門科目 教育実践開発 コース	学習障害児教育実践	学習障害が学校生活でどのような困難を経験しているのかについて、文献や疑似体験から学ぶ。さらに実践事例を題材に、グループで実践事例の支援の成果と課題を討議し、教育現場での学習障害児支援の実践力を育成する。	
専門科目 教育実践開発 コース	知的障害児の教育臨床	教育臨床の視点から知的障害児の対人関係の発達の特性と支援ニーズについて学び、次に支援事例を通して知的障害児の対人関係の発達の理解と教育実践における支援の方法について学ぶ。受講者の教育臨床の実践事例の発表・討議による交流を行い、対人関係の発達支援に関する教育臨床の実践力を修得する。	
専門科目 教育実践開発 コース	知的障害児のキャリア教育の理論と実践	知的障害児のキャリア教育の観点、キャリア発達、キャリア教育の指導方法について学び、次に学部卒院生には提供事例、現職院生には現任校での事例について発表・討議し、知的障害児のキャリア教育の指導法（計画・実践・評価）の能力を高める。	
専門科目 教育実践開発 コース	きこえの困難への教育的対応	特別支援学校に在籍するきこえにくさを有する幼児児童生徒に対する教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。特別支援学校におけるきこえにくさを有する幼児児童生徒に対する指導の背景となる基礎理論について学習を行い、教材開発および支援方法の検討を行う。また、開発した教材を用いて、きこえにくさに配慮した模擬授業を行う。	
専門科目 教育実践開発 コース	特別支援教育心理アセスメント	障害のある児童生徒のためのアセスメントに基づく教育支援の在り方を、学齢期の発達障害のある子どもの事例を通して学ぶ。授業ではWISC-IV、KABC-IIを利用し、結果の解釈を学ぶとともに、アセスメント結果に基づいた支援を自ら立案し、グループ討議を利用して実践力を高める。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (19 村瀬 忍、34 鈴木 祥隆)	共同
	小学校への接続を見通した幼児教育カリキュラムの理論と実践	将来、小学校教員をはじめとして、幼稚園教諭や保育士、保育教諭になる大学院生が、就学前教育の意義と現実を理解し、小学校教育との接続が重要であることを理解できるよう、幼小接続期教育の起源、現在に至る歴史的過程を把握し、その歴史が、現在の幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、および小学校学習指導要領どのように反映されているのかを概説する。また、「チーム学校」を担う教員として、接続期カリキュラムの必要性を理解し、具体的な授業や保育を展開できる能力を身につけられるようにする。そのため、実際の接続期カリキュラムに関する資料を検討したり、その様子をVTR等で視聴したりする。そして、授業の後半では2回にわたってグループワークを実施し、実際に接続期カリキュラムを編成できる能力を身につける。	オムニバス方式

<p style="text-align: center;">教育実践開発 コース 専門科目</p>		<p>(オムニバス方式／全15回) (17 今村 光章／10回)</p> <p>第1回：日本における幼稚園・保育所・認定こども園等の就学前教育機関の現状と課題 第2回：幼児教育思想の実践的展開Ⅰ：フレーベルの幼児教育思想 第5回：保幼小連携体制の形成過程Ⅰ：就学前教育機関と小学校との連携の起源と歴史 第6回：保幼小連携体制の形成過程Ⅱ：幼小連携の経緯を幼稚園教育要領および小学校学習指導要領の変遷から理解する 第7回：接続期カリキュラムの開発と実践Ⅰ：地方自治体が作成したアプローチカリキュラムの比較検討 第8回：接続期カリキュラムの開発と実践Ⅱ：幼稚園教育におけるアプローチカリキュラムの保育実践の検討 第9回：接続期カリキュラムの一例としての領域「環境」と生活科の学習の理論と実践：園外保育における自然との触れ合いの保育実践の事例研究 第11回：幼児教育と小学校教育を接続する生活科の理論と実践Ⅰ：生活科の目標と課題，カリキュラムマネジメントをめぐって 第12回：幼児教育と小学校教育を接続する生活科の理論と実践Ⅱ：生活科の授業実践としての自然認識の芽を育てる遊びの事例を参考に 第13回：アプローチカリキュラムに関するグループ学習：領域「環境」と生活科の接続を目指して</p> <p>(32 長谷川 哲也／5回)</p> <p>第3回：幼児教育思想の実践的展開Ⅱ：モンテッソーリとシュタイナーの教育思想 第4回：幼児教育思想の実践的展開Ⅲ：ショーンとマーネンの保育者の専門性について 第10回：接続期カリキュラムの一例としての領域「言葉」と国語科の学習の理論と実践：言語活動と読み書き能力に関する保育実践の事例研究 第14回：スタートカリキュラムに関するグループ学習：領域「言葉」と国語科の接続を目指して 第15回：アプローチカリキュラムおよびスタートカリキュラムの発表，および，まとめ</p>	
<p style="text-align: center;">教育実践開発 コース 専門科目</p>	<p>授業研究と教育技術開発</p>	<p>学校における教育技術開発は，主体的・協働的な活動である授業研究により行われ，この営みはわが国の教師の教育技術開発・教職職能発達の重要な機会となっている。本科目では，授業研究に参加する教師個人の職能発達の特徴を把握するとともに，授業研究を通じた効果的な教育技術開発活動のあり方，授業記録を読み解く技能の重要性と教員研修用教材開発について解説する。これらの内容をもとに，学校における教師の成長を支援する研究活動のデザイン手法を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (20 益子 典文／6回)</p> <p>第1回：授業における教師の教育技術 第2回：教育技術開発を支える教師の実践知 第3回：経験学習の観点から見た教師の発達 第4回：キャリアステージに応じた教育技術開発活動 第5回：事例研究：学校の教育技術開発のための研修用教材：学力向上 第6回：ワークショップ：学校における教育技術開発の活性化 (31 今井 亜湖／6回)</p> <p>第7回：システム論的アプローチによる授業設計技術 第8回：授業設計技術の多様性（教材・教授メディア・教授方法の選択方法） 第9回：学習支援技術の理論（足場かけと足場はずし） 第10回：学習支援技術の実践（思考過程の明示化と省察，知識構築） 第11回：事例研究：学習環境のデザイン 第12回：ワークショップ：授業における学習支援技術の開発 (82 柴田 好章／1回)</p> <p>第13回：学校の研究活動と教師の成長を促進する授業研究のあり方 (83 坂本 将暢／1回)</p> <p>第14回：授業の定量的・定性的分析に基づく授業研究 (20 益子 典文，31 今井 亜湖，82 柴田 好章，83 坂本 将暢／1回)（共同） 第15回 ワークショップ：授業記録による授業分析活動の意義</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>

<p style="text-align: center;">教育実践開発 コース 専門科目</p>	<p>学習過程と教材開発</p>	<p>学校教育におけるカリキュラムは、国家、学校、教室のそれぞれのレベルにおいて異なる意味を持つ。本科目では、主に教室レベルにおけるカリキュラムを対象とし、その開発方法ならびに授業における運用方法、それを支える教材の開発について解説するとともに、カリキュラム開発研究の方法について考究する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (20 益子 典文／8回)</p> <p>第1回：カリキュラム・教育内容・教材の意味 第2回：カリキュラム開発におけるシステム化 第3回：カリキュラム開発の目標と方法の関係：学力問題を中心に 第4回：教師の教材開発活動の分析と記述 第5回：教材開発事例研究：理解を深める教材開発 第6回：教材開発事例研究：継続的な学習の効果とその教材 第7回：教材開発事例研究：ループリックによる評価と学習 第8回：カリキュラム開発研究における評価の方法 (31 今井 亜湖／7回)</p> <p>第9回 学習者の興味関心に基づく授業カリキュラム開発（羅生門的アプローチ、動機づけ研究） 第10回 学習者の興味関心に基づく単元カリキュラム開発（質的研究・量的研究・ミックス法） 第11回 学習者の経験と興味関心をつなぐ教材開発（経験主義とデジタルコンテンツ） 第12回 新しい教育メディア・題材を用いた学習活動の展開（コミュニケーションとメディア選択） 第13回 学校間遠隔授業のためのカリキュラム開発と評価（授業設計モデルの構成） 第14回 オンライン上における学習カリキュラムの開発（状況学習論） 第15回 ワークショップ・カリキュラムの開発（インフォーマル教育手法）</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p style="text-align: center;">教育実践開発 コース 専門科目</p>	<p>カリキュラム開発実践研究デザイン</p>	<p>本授業では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校における教育実践研究を進めるうえで必要な研究方法（課題に対するアプローチ：接近法）の基礎を修得する。具体的には、教育実践研究における基礎的な研究方法として、リサーチクエスションの設定と調査デザイン、調査における仮説の設定とその検証方法を学ぶ。また、こうした研究方法に基づいてデータを収集・分析し、その結果を表現するための研究技術として、質問紙調査設計、量的データの分析法、質的データの分析法、アカデミックライティングの技法などを学ぶ。そのうえで、自分自身のカリキュラム開発に関する課題に基づいて教育実践研究をデザインし、実践する。なお本授業では、アカデミックな研究方法・研究技術に重点を置くのではなく、教育実践固有の論理や研究方法に留意しながら、教育実践研究のさまざまな事例を扱いながら、研究方法・研究技術の解説を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回) (20 益子 典文／3回)</p> <p>第1回：教育実践研究デザイン概論 第2回：統計的有意性検定の考え方と読み解き方 第3回：教育実践における調査の特質と制約条件 (32 長谷川 哲也／6回)</p> <p>第4回：質問項目の開発 第5回：質問紙調査結果のデータ化 第6回：量的調査結果の分析方法 第7回：量的調査結果の分析 第8回：教育実践を扱う量的研究の表現技術 第15回：教育実践研究のデザイン (31 今井 亜湖／3回)</p> <p>第9回：質的研究方法の基礎 第10回：自由記述の分析方法 第11回：教育実践を扱う質的研究の表現技術 (40 菊池 一人／1回)</p> <p>第12回：授業研究の具体的事例 (41 長倉 守／1回)</p> <p>第13回：総合的・横断的なカリキュラム研究の具体的事例 (17 今村 光章／1回)</p> <p>第14回：幼児教育研究の具体的事例</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 育 実 践 開 発 コ ー ス</p>	<p>総合的・横断的なカリキュラム開発</p>	<p>総合的・横断的なカリキュラム開発や総合的な学習の時間の授業開発の基盤となる背景、理論、歴史的展開、学習指導要領における位置付けについて理解する。その上で総合的・横断的なカリキュラム開発、総合的な学習の時間に関する実態分析、先行事例分析から課題を見だしカリキュラムを開発・改善する。また、環境教育の理論をもとに実践事例について考察し、文化的再生産論と社会変革装置としての学校教育システムの理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (41 長倉 守/10回)</p> <p>第1回：総合的・横断的なカリキュラムが求められる背景 第2回：総合的・横断的なカリキュラムを支える諸理論、歴史的展開 第3回：現代的な諸課題に関する教科等横断的なカリキュラム 第4回：教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力の育成 第5回：総合的な学習の時間の教育課程上の位置付け 第6回：総合的な学習の時間の先行事例分析 第7回：総合的・横断的なカリキュラム開発① 勤務校・実習校の現状分析 第8回：総合的・横断的なカリキュラム開発② 改善案作成 第9回：総合的・横断的なカリキュラム開発③ 改善案の提案と検討 第10回：総合的・横断的なカリキュラム開発④ 改善案修正 (17 今村 光章/5回)</p> <p>第11回：環境教育の理論：自然保護教育と環境教育の歴史をめぐって 第12回：環境教育の実践事例の紹介Ⅰ：環境のなかでの教育、自然体験教育、森のようちえん活動について 第13回：環境教育の実践事例の紹介Ⅱ：環境についての教育、公害教育、理科教育と社会科教育での取り扱いについて 第14回：環境教育の実践事例の紹介Ⅲ：環境のための教育、家庭科教育・道徳教育との関連をめぐって 第15回：環境教育と持続可能な社会：文化的再生産論と社会変革装置としての学校教育システムの理解をめぐって</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p style="text-align: center;">専 門 科 目</p> <p style="text-align: center;">教 育 実 践 開 発 コ ー ス</p>	<p>授業研究実践論</p>	<p>資質・能力の育成や主体的・対話的で深い学び等、授業をめぐる今日的な諸課題について、実践事例をもとに把握し、その解決を目指す授業研究に関する基本的な視点や校内研修推進の方法論を理解する。そのことを基盤として、授業実践の事例研究を行い、授業実践の力量形成や授業研究枠組の対象化や再構成を図る。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (40 菊池 一人/10回)</p> <p>第1回：今日的な授業開発の視点① 資質・能力の育成 第2回：今日的な授業開発の視点② 主体的・対話的で深い学び 第3回：今日的な授業開発の視点③ 教科等の特質に応じた見方・考え方 第4回：今日的な授業開発の視点④ 児童生徒の実態・学習状況の理解 第5回：目標・指導・評価の一体化① 単元目標の設定 第6回：目標・指導・評価の一体化② 単元指導計画 第7回：目標・指導・評価の一体化③ 本時の指導計画 第8回：校内研修推進① テーマと方法 第9回：校内研修推進② 教師の協働 第10回：校内研修推進③ 授業研究の実際 (41 長倉 守/5回)</p> <p>第11回：小学校における授業開発の実践研究① 目標・評価に着目して 第12回：小学校における授業開発の実践研究② 指導過程に着目して 第13回：中学校・高校における授業開発の実践研究① 目標・評価に着目して 第14回：中学校・高校における授業開発の実践研究② 指導過程に着目して 第15回：今後の授業研究の在り方</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門科目</p> <p>教育実践開発 コース</p>	<p>教職の省察と職能開発</p>	<p>本授業では、省察をめぐる諸理論や先行研究等の知見を理解したうえで、教師として実践するための視点や方法を修得する。具体的には、教職に備わる特殊性や専門性、教育の今日的課題や教師に求められる資質能力など、省察が求められる背景や意義について学ぶ。また、省察の主要な理論的枠組みや、省察を扱った先行研究等の知見から、省察を具体化するための視点や方法について検討する。そのうえで、本授業での演習として、研修等の教師が学ぶ具体的な場面を想定しながら課題探究・課題解決や職能開発へとつなげるための省察を構想し、実践する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (32 長谷川 哲也/10回)</p> <p>第1回：教師観の歴史の変遷 第2回：教師の専門性・専門職性 第3回：教育の今日的課題と求められる資質能力 第4回：省察の理論的枠組み①—ショーアの議論をもとに 第5回：省察の理論的枠組み②—コルトハーヘンやロックランの議論をもとに 第6回：省察を扱った先行研究の整理 第7回：教師の学びに関する先行研究の整理 第8回：これまでの学びの振り返り①—プレゼンテーション 第14回：教職における省察の具体化① 第15回：教職における省察の具体化②—プレゼンテーション (20 益子 典文/5回)</p> <p>第9回：実践経験を捉え直す視点 第10回：教育実践研究の視点と方法 第11回：教師の経験学習モデル 第12回：教師の学びと職能開発①—校内研修の事例 第13回：教師の学びと職能開発②—岐阜県の教員育成指標</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>専門科目</p> <p>教育実践開発 コース</p>	<p>情報メディアの開発と活用</p>	<p>情報通信ネットワークで提供される多様なサービスやコンテンツが普及し進化するなか、教育情報の急速なデジタル化により人的資源の追従が課題として叫ばれている。この授業では、情報メディアコンテンツ、とりわけインターネットや情報端末等での利用を目的とし、学校教育教員の資質として必要なデジタル情報や情報通信ネットワークシステムでやりとりされる情報メディアの本質や基本的知識、また昨今の状況を理解する。さらに、開発された情報メディアが今日の情報社会や個人個人に及ぼす影響を及ぼすかについて、情報セキュリティや個人情報保護の観点から言及する。</p>	
<p>専門科目</p> <p>学校管理職養成 コース</p>	<p>インクルーシブ教育の開発実践</p>	<p>インクルーシブ教育システムにおいて、管理職や教員の立場で、特別支援教育を推進するために必要な考え方や技法について、当事者のエンパワメント、課題の把握と分析、関係者との協働、教育的支援の設計・実行・評価から指導する。</p>	
	<p>教育政策の理論と実践</p>	<p>近年、社会構造の大きな変化（情報化、国際化、知識基盤社会化、少子高齢化等）により、国家レベルでの教育改革が矢継ぎ早に断行されている。このような不透明で変化の激しい時代において、特色ある教育行政のもとで「学校の自主性・自律性の確立」が最重要課題の一つとされてきている。</p> <p>そこで、本授業では、教育行政の地方分権・民主化・自主性の原則に基づき、受講者が教育行政に関する知識の修得を通して、理論的・実践的な観点から現代日本の教育改革にみられる諸課題についてとらえ、学校管理職としての職務遂行に当たって教育行政との連携・協働のための基礎的力量を得ることを目的とする。</p>	<p>オムニバス方式</p>

<p>専門科目</p> <p>学校管理職養成コース</p>		<p>(オムニバス方式/全15回) (3 芥川 祐征/3回)</p> <p>第1回：教育行政の理論①：現代教育の諸問題と政治主導の教育改革 第2回：教育行政の理論②：統治機構における教育行政の機能と役割 第3回：教育行政の理論③：行政経営における説明責任の確保と評価政策 (85 足立 慎一/12回)</p> <p>第4回：教育行政の実践①：地方自治体による課題解決と先進的教育改革 第5回：教育行政の実践②：政策実施のための学校（園）のガバナンス 第6回：教育行政の実践③：政策実施のための学校（園）管理職のリーダーシップ 第7回：政策の事例分析①：学校のアーティキュレーションと小・中・高の一貫教育 第8回：政策の事例分析②：コミュニティ・スクール政策と学校運営への参画 第9回：政策の事例分析③：地域との連携・協働事業を活用した教育政策の充実 第10回：政策の事例分析④：若手教員の大量採用と育成指標に基づく研修政策 第11回：政策の事例分析⑤：学校福祉としての家庭環境と「子どもの貧困対策」推進 第12回：政策の事例分析⑥：学習権保障と「全国学力学習状況調査」の実施と課題 第13回：政策の事例分析⑦：学校の過重労働負担と労務管理としての「働き方改革」 第14回：政策の事例分析⑧：Withコロナにおける新しい学習の形と「ICT推進」事業 第15回：政策の事例分析⑨：社会の国際化にともなう外国籍児童生徒への対応</p>	
<p>専門科目</p> <p>学校管理職養成コース</p>	<p>教育法規の解釈と実際の運用</p>	<p>全体を大きく以下の5つの領域に分け、概説するとともに、いじめ、不登校、体罰等をテーマとして教育行政上の問題課題の分析や課題解決の可能性を積極的に考察、協議させる。1。国家・自治体と教育法 2。学校と教育法 3。教師と教育法 4。子どものための教育法 5。親・市民のための教育法</p>	
<p>専門科目</p> <p>学校管理職養成コース</p>	<p>学校経営計画・評価の開発実践</p>	<p>講義と事例研究・演習を通して、以下の内容を理解、研究するとともに実践力を向上する。</p> <p>①組織マネジメントの理論を理解する。 ②学校（園）組織マネジメントの理解と開発 ③学校（園）経営計画の事例研究と立案 ④学校（園）評価の理論と事例研究を通じた立案 ⑤学校（園）経営計画・学校（園）評価を一体化させた学校マネジメント立案</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (36 棚野 勝文/12回)</p> <p>第1回：組織環境対応理論の理解 第2回：組織マネジメント理論の有効性について 第3回：学校（園）経営計画・ビジョンづくりの意義について 第4回：学校（園）経営計画実践における課題 第5回：学校（園）の内外環境分析の手法について 第6回：学校（園）評価活動の意義と背景 第7回：効果的な自己評価の事例 第8回：効果的な学校（園）関係者評価、第三者評価の事例研究 第11回：学校（園）評価改善案作成 第12回：学校（園）評価改善案報告 第13回：学校（園）経営計画・評価の一体化と組織マネジメントについて 第15回：自校の学校（園）経営計画・学校（園）評価プレゼンテーション (36 棚野 勝文, 37 原 尚/3回) (共同)</p> <p>第9回：事例研究における学校（園）経営計画の分析 第10回：事例研究における学校（園）経営計画の立案 第14回：自校の学校（園）経営計画案・学校（園）評価作成</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>

<p>専 門 科 目</p> <p>学 校 管 理 職 養 成 コ ー ス</p>	<p>学校財務の開発実践</p>	<p>学校の自主性・自律性の拡大から学校運営費のあり方が、論議されている。教育内容と予算とは、表裏一体の関係にあるのに、教職員の多くは、教えることや学校運営の中で、学校運営費の基本的構造を理解する機会がほとんどない。国の予算、都道府県の予算、市町村の予算、父母負担による徴収金などの多様なお金の複雑な組み合わせによって学校は運営されている。人件費、施設費、教材費、光熱水費などの用途も含めての考察をしていく。そのような基本構造を理解した上で、自治体ごとの学校(園)予算運営での先進的な事例などを比較検討することで、これからの学校(園)財務のあり方への視点を養う。学校(園)の教育効果をより向上させる学校財務マネジメント力を養成する。</p>	
<p>専 門 科 目</p> <p>学 校 管 理 職 養 成 コ ー ス</p>	<p>学校の危機管理対策</p>	<p>各学校(園)においては子どもの「安全・安心」を実現するために、緊急時における迅速かつ適切な対応を目的として、危機管理マニュアルの作成が求められている。このことについて、学校管理職に対しては、学校経営に関する高度な専門性に裏打ちされた危機管理能力が必須のものとされ、緊急時の責任主体として期待されている。</p> <p>そこで、本授業においては、学校(園)の危機管理対策の意義と機能を理解するとともに、危険性回避・安全確保行動に関する知識・技能を修得する。そして、学校(園)における事件・事故・緊急事態の事例の分析を通して潜在的危険性について考察し、学校(園)の危機管理マニュアルの報告・批判的検討を通して学校管理職に必須となる危機管理能力を形成する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (3 芥川 祐征/4回) 第1回：危機管理の社会的・学術的背景と組織経営における課題 第2回：学校(園)における潜在的危険性の低減 第3回：学校(園)における事件・事故の予防的措置 第4回：各学校(園)の潜在的危険性の析出演習 (36 棚野 勝文/3回) 第5回：学校(園)におけるハラスメント事案の判例分析 第6回：学校(園)の組織文化とハラスメント防止体制の整備 第7回：ハラスメント対策マニュアルの事例分析 (85 足立 慎一/5回) 第8回：学校(園)におけるいじめ事案の判例分析 第9回：いじめ防止対策推進法といじめ防止体制の整備 第10回：いじめ対策マニュアルの事例分析 第11回：危機管理対策としての教職員の多忙化解消 第12回：「チーム学校」における事件・事故への組織的対応 (3 芥川 祐征, 36 棚野 勝文, 85 足立 慎一/3回) (共同) 第13回：幼稚園における危機管理対策改善案の報告・協議 第14回：小・中学校における危機管理対策改善案の報告・協議 第15回：高等学校における危機管理対策改善案の報告・協議</p>	<p>オムニバス方式 共同(一部)</p>
<p>専 門 科 目</p> <p>学 校 管 理 職 養 成 コ ー ス</p>	<p>地域社会と学校の連携と協働</p>	<p>地域と学校・幼稚園がパートナーとして連携・協働することが必要とされている今日、①学校(園)と地域の関係はどうあるべきなのか、②学校(園)と地域が共に学びを創造していくためには、どのような取組がなされるべきなのか等について、岐阜県内及び全国、世界の優れた実践事例を取り上げて理論的・実践的に考究し、地域と学校(園)がパートナーとして組織的・継続的に連携・協働できる仕組みづくりについて協議・検討する。</p>	

<p>専門科目</p> <p>学校管理職養成 コース</p>	<p>スクールリーダーの教育哲学</p>	<p>スクールリーダーの人間観、教育理念、指導方針、教育目標、人事評価等を考察し、具体的な学校経営と関連づけて構想できるようにするとともに、スクールリーダーの学校経営の方針や哲学を確立し、教育実践として展開できるようにすることを目標とする。</p> <p>授業では、スクールリーダーの基本哲学を根本的に理解し、それを学校経営に応用実践する方法と技能を修得することによって、教育の実践力を総合的に高める。ソクラテス、J. デューイ、A. マズロー、P. F. ドラッカーの哲学や経営論を取り上げ、人間論・人生論・教育論・経営論などの見地から学校教育のあり方を多面的に探究する。</p> <p>以上のようなスクールリーダーの教育哲学を元にどのような学校経営が展開できるかについて検討する。具体的には学校のマネジメント論、リーダーシップ論、コーチング論と関連づけて実践的な教育哲学を追究する。</p> <p>中間発表及び最終発表では、院生一人ひとりがこれまで観察または実践してきた学校経営の教育実践の内容を振り返って哲学的に考察すると共に、今後目指したいスクールリーダー像を構想し実践哲学として構築する。</p>	
<p>専門科目</p> <p>学校管理職養成 コース</p>	<p>問題行動と社会性の理論と実践</p>	<p>担当教員の講義により「いじめ」に代表される反社会的行動や、「不登校」に代表される非社会的行動に関する基礎的な知識を学習する。修得した基礎的な知識を発展させるため、受講者が選出した最新の知見を提供する専門書もしくは学術論文を講読する。それぞれの問題についての事後的対応の観点ではなく、予防的介入の観点から、教員研修において提案する取り組みを考察し、受講者間で各取り組みの有効性に関する検討・議論を行う。最終的に、講読した本もしくは論文、開発された取り組みに関して、批判的観点から考察したレポートを提出する。</p>	
<p>専門科目</p> <p>学校管理職養成 コース</p>	<p>学校行事の開発実践</p>	<p>学校（園）行事は、集団活動を基盤とした特別活動の一領域であり、児童生徒の主体的な参加と教師の適切な指導・助言によって、教育効果を発揮するものである。そこで、「集団のあり方と教師の関わり方」をキーワードにして考察を深める。具体的には学校（園）行事の指導の在り方と、学校（園）行事と学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動（部活動）、また幼稚園における諸活動等の各内容の指導との関連について検討する。</p>	
<p>（開発実践科目） 専門科目</p>	<p>開発実践基礎（国語）</p>	<p>教科教育と国語専門とを融合し、教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育を行うことができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における国語科の内容の背景となる基礎理論について学習し、教材開発ならびに学習活動の組織に基づく指導展開案を作成し、模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じた省察を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （4 安直哉、5 山田敏弘、6 小林一貴、51 佐藤貴裕、59 好川聡、60 小川陽子）</p>	<p>共同</p>
<p>（開発実践科目） 専門科目</p>	<p>開発実践報告Ⅰ（国語）</p>	<p>教科教育と国語専門とを融合し、教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育を行うことができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における国語科の内容の背景となる発展的理論について学習し、教材開発ならびに学習活動の組織に基づく指導展開案を作成し、模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （4 安直哉、5 山田敏弘、6 小林一貴、51 佐藤貴裕、59 好川聡、60 小川陽子）</p>	<p>共同</p>
<p>（開発実践科目） 専門科目</p>	<p>開発実践報告Ⅱ（国語）</p>	<p>教科教育と国語専門とを融合し、教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育を行うことができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における国語科の内容の背景となるより発展的な理論について学習し、教材開発ならびに学習活動の組織に基づく指導展開案を作成し、模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。その上で、開発実践の総括を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （4 安直哉、5 山田敏弘、6 小林一貴、51 佐藤貴裕、59 好川聡、60 小川陽子）</p>	<p>共同</p>

<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践基礎 (地理歴史)</p>	<p>言語・文化における多様な研究課題、及び社会・地歴科の教科の特質を踏まえ、指導法の向上に役立たせる内容とともに、受講生各自の関心にもとづいた研究に取り組むこととする。およそ次の2点を重視する。 [教科の特質を理解し教材の認識を深める] ・身近な地域から広く世界の文化、社会についての認識を深める社会科の特質をより深く理解し、地理・歴史の各分野から実践的な教科教育を念頭に、知識を広げ教材理解の向上を図る。 [具体的課題に即した思考力・判断力・表現力を向上させる] ・中学校高等学校の校種に応じた教育内容を前提に、社会科地歴科の具体的な課題を追求し、多様な資料から課題を考察する技能を高める。 以上の2点を重視した授業を通じ、教科の内容に対する深い理解に基づいた指導力を養う。なお受講生の課題に即して、指導教員と授業担当教員が協同して授業を実施する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (21 田中 伸、52 大関 泰宏、61 田澤 晴子、62 辻本 諭、63 橋本 操)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告Ⅰ (地理歴史)</p>	<p>開発実践基礎を踏まえ、受講生各自の研究課題に即して指導を行う。社会科・地歴科の教科内容に関わる各自の研究テーマにもとづき、さらに課題への認識を深められるよう授業を進める。コースの授業科目及び開発実践基礎において修得した知識、技能を生かし、問題関心を深めるとともに、教科の指導法も視野に入れた研究の進展を目指す。複数の教員による指導のもとで、水準の高い研究を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (21 田中 伸、52 大関 泰宏、61 田澤 晴子、62 辻本 諭、63 橋本 操)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告Ⅱ (地理歴史)</p>	<p>開発実践基礎、開発実践報告Ⅰにおいて、広く教科の内容を踏まえた問題意識の深化を図っており、その研究課題にもとづき、受講者の指導教員と、授業担当者が協議のうえで授業を進めていくことにする。重点は次の2点である。 ・教育内容 (社会科地歴科) を前提とした具体的な課題の追求 ・教科の専門分野 (地理学歴史学) の知見に基づいた研究の深化 この授業は、受講生がこの2点を前提として、担当教員の指導のもと、研究課題を深めていくものである。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (21 田中 伸、52 大関 泰宏、61 田澤 晴子、62 辻本 諭、63 橋本 操)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践基礎 (公民)</p>	<p>教科教育の専攻の中で、とくに言語・文化の研究に基づき、社会科・公民科への理解を深めることを目的とする。法律、国際政治、哲学、経済学など、世界と地域の文化、伝統を考える上に、不可欠な分野への理解を深め、各領域における研究をふまえて、今後の研究を深化させるための課題を設定し、研究に取り組む。コースにおいて学習した内容を踏まえ、教科の指導法を視野に入れながら、授業内容の構成、教材研究の充実に向けて、具体的な研究に取り組むこととする。本授業を通じて、公民の各分野の中から独自の研究課題を設定し、教科教育の実践的な内容を配慮しながら授業を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (21 田中 伸、42 須本 良夫、54 坂本 一也、64 上野 友也、75 原田 峻平)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告Ⅰ (公民)</p>	<p>開発実践基礎 (公民) において、広く教科の内容を踏まえた問題意識の深化を図っており、その研究課題にもとづき、受講者の指導教員と授業担当者が協議のうえで授業を進めていくことにする。重点は次の2点である。 ・教育内容 (社会科・公民科) を前提とした具体的な課題の追求 ・教科の専門分野 (哲学・政治学・法律学・経済学等) の知見に基づいた研究の深化 この授業は、受講生がこの2点を前提として、担当教員の指導のもと、研究課題を深めていくものである。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (21 田中 伸、42 須本 良夫、54 坂本 一也、64 上野 友也、75 原田 峻平)</p>	<p>共同</p>

(開発実践科目) 専門科目	開発実践報告Ⅱ(公民)	開発実践基礎(公民)・開発実践報告Ⅰ(公民)を踏まえ、受講生各自の研究課題に即して指導を行う。 社会科・公民科の教科内容に関わる各自の研究テーマにもとづき、さらに課題への認識を深められるよう授業を進める。とくに開発実践基礎(公民)や開発実践報告Ⅰにおいて修得した知識、および問題追求の方法を深め、研究主題の絞り込みとともに、本コースで学んだ成果を総合して、研究成果の検証をおこなう。複数の教員による指導のもとで実践する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (21 田中 伸、42 須本 良夫、54 坂本 一也、64 上野 友也、75 原田 峻平)	共同
(開発実践科目) 専門科目	開発実践基礎(英語)	英語教育の理論的側面・実践的側面の中から、受講者の課題意識に基づいて選んだテーマに対し、それに関する基礎知識を拡充し、先行研究を調査し、関連論文を講読し、受講生独自の研究テーマを設定する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (29 David Barker、30 仲 潔、44 巽 徹、48 瀧沢 広人、78 飯田 泰弘、79 林 日佳理)	共同
(開発実践科目) 専門科目	開発実践報告Ⅰ(英語)	英語教育の理論的側面・実践的側面の中から、受講者の課題意識に基づいて選んだテーマに対し、それに関する基礎知識を拡充し、先行研究を調査し、関連論文を講読する。受講生独自の具体的な研究テーマを設定し、研究計画を作成する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (29 David Barker、30 仲 潔、44 巽 徹、48 瀧沢 広人、78 飯田 泰弘、79 林 日佳理)	共同
(開発実践科目) 専門科目	開発実践報告Ⅱ(英語)	英語教育の理論的側面・実践的側面の中から、受講生が独自に設定した研究テーマについて、研究計画に沿って研究を遂行し、その結果を論文の形で報告書にまとめる。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (29 David Barker、30 仲 潔、44 巽 徹、48 瀧沢 広人、78 飯田 泰弘、79 林 日佳理)	共同
(開発実践科目) 専門科目	開発実践基礎(数学)	教科教育と数学専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における数学科の内容の背景となる基礎理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (7 山田 雅博、22 田中 利史、23 花木 良、24 菱川 洋介、45 河崎 哲嗣、65 柘植 直樹)	共同
(開発実践科目) 専門科目	開発実践報告Ⅰ(数学)	教科教育と数学専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における数学科の内容の背景となる発展的理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (7 山田 雅博、22 田中 利史、23 花木 良、24 菱川 洋介、45 河崎 哲嗣、65 柘植 直樹)	共同

（開発実践科目） 専門科目	開発実践報告Ⅱ（数学）	<p>教科教育と数学専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における数学科の内容の背景となるより発展的な理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。さらには、開発実践の総括を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （7 山田 雅博、22 田中 利史、23 花木 良、24 菱川 洋介、45 河崎 哲嗣、65 柘植 直樹）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	開発実践基礎（理科）	<p>授業の前半では、理科における今日的課題にどのようなものがあるかを広く調査し、取り組むべき課題を絞り込む。いくつか候補を絞り、先行研究の調査・分析を行い、新たな課題研究の切り口、方法論、具体的研究計画を立てる。また、研究によって期待される成果が、どのように理科教育における課題を解決あるいは改善するのか、その評価方法についても検討する。検討結果を「課題研究レポートⅠ」としてまとめ、中間報告として発表する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （9 三宅 崇、25 須山 知香、46 中村 琢、47 内海 志典、55 吉松三博、67 萩原 宏明、68 勝田 長貴）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	開発実践報告Ⅰ（理科）	<p>「開発実践基礎（理科）」でまとめた研究内容を振り返り、調査・研究の方法や計画が妥当であるか再確認し、調査・研究に着手する。調査・研究で得られた結果を、背景にある実験事実、過去の結果等との比較を行い、今日的課題と結びつけ、当初の構想や計画が達成される見通しがあるかプレゼンなどを行って確認する。場合によっては、計画の変更や修正などを行う。得られた結果を「開発実践報告Ⅰ（理科）」として取りまとめる。調査・研究の結果を理科および理科教育の今日的課題を解決するための情報発信の方法と合わせて検討し、「開発実践報告Ⅱ（理科）」へとつなげる。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （9 三宅 崇、25 須山 知香、46 中村 琢、47 内海 志典、55 吉松三博、67 萩原 宏明、68 勝田 長貴）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	開発実践報告Ⅱ（理科）	<p>「開発実践報告Ⅰ（理科）」を振り返り、調査・研究における改善点、残された課題を明確に、研究を継続させる。その際に、改善への視点や方法についての思考力や判断力を高めるような指導を行う。その成果として、理科および理科教育における今日的課題を解決するための手立てとして、結果のとりまとめや情報発信の方法を検討し、パンフレット、教師用マニュアル、教材教具セットなどを構築する。研究内容をさまざまな場面で発表し、調査・研究成果の発信の仕方、プレゼン能力を高める。研究成果を検証する手立てを明確にし、模擬授業やアウトリーチ活動などを通じて検証する。その結果を踏まえ、「開発実践報告Ⅱ（理科）」に取りまとめる。なお、各専門学会、理科教育学会、科学教育学会などで発表し、研究内容について多面的な観点からも議論し、最終レポートの内容に生かす。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （9 三宅 崇、25 須山 知香、46 中村 琢、47 内海 志典、55 吉松三博、67 萩原 宏明、68 勝田 長貴）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	開発実践基礎（技術・工業）	<p>授業開発に関する地域や学校の今日的な教育課題や自分自身の課題について、学部卒院生は新任教員の立場、現職院生はミドルリーダーの立場からそれらを実践的に解決するために、問題意識の明確化、課題の分析、開発実践計画を策定できる能力を獲得する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （15 小原 光博、28 福岡 大輔、73 舟越 久敏）</p>	共同

<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告I (技術・工業)</p>	<p>主・副指導教員の連携指導による演習形態で実施する。授業開発における自己課題や、学校で展開されている教育実践の抱える諸課題を探索し明確化し、その解決のための具体的な授業実践や教育課程の改善等の方向性、それを具体化するための今後の実践の見通しを中間報告の形にまとめる。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (15 小原 光博、28 福岡 大輔、73 舟越 久敏)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告II (技術・工業)</p>	<p>主・副指導教員の連携指導による演習形態で実施する。授業開発における自己課題や、学校で展開されている教育実践の抱える諸課題を明確化し、その解決のための具体的な授業改善、教育課程の改善等に関わる実践的な開発を行う。先行する開発実践報告Iや授業開発臨床実習での授業開発・授業実践を省察し、その評価に関わる諸データを分析し、さらなる課題や実践的な展望を明らかにした上で、開発実践報告論文としてとりまとめる。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (15 小原 光博、28 福岡 大輔、73 舟越 久敏)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践基礎 (家政)</p>	<p>教科教育と家庭科専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における家庭科の内容の背景となる基礎理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (16 大藪 千穂、18 久保 和弘、74 杉山 真魚、77 柴田 奈緒美)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告 I (家政)</p>	<p>教科教育と家庭科専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における家庭科の内容の背景となる発展的理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (16 大藪 千穂、18 久保 和弘、74 杉山 真魚、77 柴田 奈緒美)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告 II (家政)</p>	<p>教科教育と家庭科専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における家庭科の内容の背景となるより発展的な理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。さらには、開発実践の総括を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (16 大藪 千穂、18 久保 和弘、74 杉山 真魚、77 柴田 奈緒美)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践基礎 (音楽)</p>	<p>授業のベースとなる教材について、より深く解釈すると同時に、指導内容に沿った教材選択ができるように実技面を関連させつつ指導能力を向上させる。そして、単元のまとまりを見通した学びの実現をはかるために、単元や題材のまとまりの可能性について考え、新しい知識やより高度な演奏技能を修得していく。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (26 松浦 光男、43 松永 洋介、69 仲田 久美子、70 西尾 洋、71 近野 賢一)</p>	<p>共同</p>

(開発実践科目) 専門科目目	開発実践報告Ⅰ(音楽)	開発実践基礎に引き続き、様々な音楽的要素、音楽史的・文化史的な視点、楽器の特性、生徒の発達段階等をもとに音楽教育の授業の可能性を探究する。また音楽科教育の指導内容の様々な点について教師の立場から考察していく。演奏(実技)を重点的な課題とする場合は、その演奏方法や表現方法について技術力を向上させるとともに知識を深めていく。そしてそれらを活用して学校現場における授業実践上の課題と照らし合わせる。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (26 松浦 光男、43 松永 洋介、69 仲田 久美子、70 西尾 洋、71 近野 賢一)	共同
(開発実践科目) 専門科目目	開発実践報告Ⅱ(音楽)	教科として音楽をなぜ学ぶのか、そして授業を通じてどのような力が身に付くのか、その意義を明確にしていく。単元のまとまりを見通した学びの実現をはかるために、単元や題材のまとまりの可能性について考え、新しい知識やより高度な演奏技能を修得していく。また、音楽教育現場において児童生徒が思考力・判断力・表現力をより一層豊かなものにするためにどのような授業改善や教材研究が必要なのかについても考える。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (26 松浦 光男、43 松永 洋介、69 仲田 久美子、70 西尾 洋、71 近野 賢一)	共同
(開発実践科目) 専門科目目	開発実践基礎(美術)	図画工作科・美術科における各分野の専門と指導法の融合、および小・中学校の連続性を踏まえた授業内容と構成を立案し、高度な実践技能を修得することを目的とする。指導法の現状を振り返りながら専門分野における教材開発、指導案作成、模擬授業を行い、新しい指導計画を作成する。なお、高度な実践技能の修得の一環として、ICT機器の積極的な活用を図る。並行して、教材開発を検討するための作品制作も行う。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (10 河西 栄二、11 山本 政幸、27 隼瀬 大輔、56 野村 幸弘)	共同
(開発実践科目) 専門科目目	開発実践報告Ⅰ(美術)	開発実践基礎で準備した指導計画をもとに、小・中学校で並行して行われる「教育臨床実習」および「授業開発臨床実習」で得られた映像・音声記録データを収集、整理、分析し、途中経過をまとめる。並行して、教材開発を検討するための作品制作を行う。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (10 河西 栄二、11 山本 政幸、27 隼瀬 大輔、56 野村 幸弘)	共同
(開発実践科目) 専門科目目	開発実践報告Ⅱ(美術)	小・中学校で行われた「教育臨床実習」および「授業開発臨床実習」の経過をまとめた開発実践報告Ⅰをもとに、実践を振り返りながら指導計画の成果と問題点を整理し、開発した教材と指導内容の総括を行う。また、専門領域の公开发表に向けた作品制作を行う。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (10 河西 栄二、11 山本 政幸、27 隼瀬 大輔、56 野村 幸弘)	共同
(開発実践科目) 専門科目目	開発実践基礎(保健体育)	教科教育と保健体育専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における保健体育科の内容の背景となる基礎理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (12 杉森 弘幸、13 熊谷 佳代、14 春日 晃章、72 上田 真也、76 林 陵平)	共同

（開発実践科目） 専門科目	開発実践報告Ⅰ（保健体育）	<p>教科教育と保健体育専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における保健体育科の内容の背景となる発展的理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （12 杉森 弘幸、13 熊谷 佳代、14 春日 晃章、72 上田 真也、76 林 陵平）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	開発実践報告Ⅱ（保健体育）	<p>教科教育と保健体育専門との融合、および教科における小学校・中学校・高等学校の連続性を踏まえた教育ができる高度な教育専門職者の養成を目的とする。中学校・高等学校における数学科の内容の背景となるより発展的な理論について学習を行い、教材開発と指導展開案作成、開発した教材を用いての模擬授業を行う。本授業の終末には、模擬授業に関するグループディスカッションを通じての省察を行う。さらには、開発実践の総括を行う。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （12 杉森 弘幸、13 熊谷 佳代、14 春日 晃章、72 上田 真也、76 林 陵平）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	開発実践基礎（カリキュラム開発）	<p>幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育に関わる地域や学校の今日的な教育課題や自分自身の課題意識をもとに、国や自治体の教育政策、学校の現状、先行研究等を踏まえて、実践研究のテーマを明確にし、課題の解決・改善に取り組むための計画を策定する。</p> <p>授業においては、毎週の「開発実践基礎」の指導教育職員による授業（遠隔での指導を含む）に加え、履修者の実践・調査研究の遂行、レポート作成、発表会におけるプレゼンテーションと全教員による指導、それにもとづく開発実践計画の再設計を行う。また、必要に応じてAIMS-Gifu, e-mail等を利用する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （17 今村 光章、20 益子 典文、31 今井 亜湖、32 長谷川 哲也、40 菊池 一人、41 長倉 守）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	開発実践報告Ⅰ（カリキュラム開発）	<p>幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育に関わる地域や学校の今日的な教育課題や自分自身の課題意識をもとに、「開発実践基礎」での研究テーマや研究アプローチを再度検討・改善したうえで、実習校などでの研究を通じて課題解決に向けた開発実践を行う。</p> <p>授業においては、毎週の「開発実践報告Ⅰ」の指導教育職員による授業（遠隔での指導を含む）に加え、履修者の実践・調査研究の遂行、レポート作成、発表会におけるプレゼンテーションと全教員による指導、それにもとづく開発実践計画の評価と再設計を行う。また、必要に応じてAIMS-Gifu, e-mail等を利用する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （17 今村 光章、20 益子 典文、31 今井 亜湖、32 長谷川 哲也、40 菊池 一人、41 長倉 守）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	開発実践報告Ⅱ（カリキュラム開発）	<p>幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育に関わる地域や学校の今日的な教育課題や自分自身の課題意識をもとに、「開発実践報告Ⅰ」での実践を省察して次の計画を策定し、実習校などでの研究を通じて課題解決に向けたさらなる開発実践を行う。</p> <p>授業においては、毎週の「開発実践報告Ⅱ」の指導教育職員による授業（遠隔での指導を含む）に加え、履修者の実践・調査研究の遂行、最終報告書の作成、発表会におけるプレゼンテーションを行う。また、必要に応じてAIMS-Gifu, e-mail等を利用する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （17 今村 光章、20 益子 典文、31 今井 亜湖、32 長谷川 哲也、40 菊池 一人、41 長倉 守）</p>	共同
（開発実践科目） 専門科目	特別支援教育開発実践基礎	<p>特別支援教育に関する諸課題に対し、学校管理職、教員として、地域や学校の今日的な教育課題や自身の問題意識を基に、国や自治体の教育政策、学校の現状、先行研究を踏まえて、開発実践のテーマを明確にし、それを解決するための計画を策定できるようにする。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 （19 村瀬 忍、33 神野 幸雄、34 鈴木 祥隆、35 平澤 紀子）</p>	共同

<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>特別支援教育開発実践報告 I</p>	<p>特別支援教育における諸課題に対し、学校管理職、教員としての立場から理論と実践の両面で課題解決に資する研究テーマを取り上げ、実習校での実践を通じてその課題解決に向けた実践開発を行う。その作成においては、定期的な担当教員とのゼミを用いた検討過程を重視する。開発実践報告 I では、開発実践計画を実践し、実践研究の進め方や報告原稿の作成方法を指導する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (19 村瀬 忍、33 神野 幸雄、34 鈴木 祥隆、35 平澤 紀子、38 出口 和宏)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>特別支援教育開発実践報告 II</p>	<p>特別支援教育における諸課題に対し、学校管理職、教員としての立場から理論と実践の両面で課題解決に資する研究テーマを取り上げ、実習校での実践を通じてその課題解決に向けた実践開発を行う。その作成においては、定期的な担当教員とのゼミを用いた検討過程を重視する。開発実践報告 II では、報告原稿の作成方法や成果報告のためのプレゼンテーションを指導する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (19 村瀬 忍、33 神野 幸雄、34 鈴木 祥隆、35 平澤 紀子、38 出口 和宏)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践基礎</p>	<p>幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育にかかわり地域や学校の今日的な教育課題や自身の立場における探究課題について、ミドルリーダーや学校管理職の立場からそれらを実践的に解決するために、問題意識の明確化、課題の分析、開発実践計画を策定できる能力を獲得することを目標とする。</p> <p>授業では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育に関する諸課題に対し、学校管理職、教員として、地域や学校の今日的な教育課題や自身の問題意識を基に、国や自治体の教育政策、学校の現状、先行研究を踏まえて、開発実践のテーマを明確にし、それを解決するための計画を策定する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (1 柳沼 良太、2 吉澤 寛之、3 芥川 祐征、36 棚野 勝文、39 柴崎 直人)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告 I</p>	<p>幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育にかかわり地域や学校が抱える今日的な教育課題や自身の立場における探究課題について、ミドルリーダーや学校管理職の立場から理論と実践の両面で課題解決に資する実践開発ができるようになることを目標とする。</p> <p>授業では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育における諸課題に対し、学校管理職、教員としての立場から理論と実践の両面で課題解決に資する研究テーマを取り上げ、実習校での実践を通じてその課題解決に向けた実践開発を行う。その作成においては、定期的な担当教員とのゼミを用いた検討過程を重視する。開発実践報告 I では、開発実践計画を実践し、実践研究の進め方や報告原稿の作成方法を指導する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (1 柳沼 良太、2 吉澤 寛之、3 芥川 祐征、36 棚野 勝文、37 原 尚、39 柴崎 直人、85 足立 慎一)</p>	<p>共同</p>
<p>(開発実践科目) 専門科目</p>	<p>開発実践報告 II</p>	<p>幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育にかかわり地域や学校が抱える今日的な教育課題や自身の立場における探究課題について、ミドルリーダーや学校管理職の立場から理論と実践の両面で課題解決に資する実践開発ができるようになることを目標とする。</p> <p>授業では、幼稚園・小学校・中学校・高等学校教育における諸課題に対し、学校管理職、教員としての立場から理論と実践の両面で課題解決に資する研究テーマを取り上げ、実習校での実践を通じてその課題解決に向けた実践開発を行う。その作成においては、定期的な担当教員とのゼミを用いた検討過程を重視する。開発実践報告 II では、報告原稿の作成方法や成果報告のためのプレゼンテーションを指導する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (1 柳沼 良太、2 吉澤 寛之、3 芥川 祐征、36 棚野 勝文、37 原 尚、39 柴崎 直人、85 足立 慎一)</p>	<p>共同</p>

実習科目	基礎実習（学校教育臨床実習）	本実習においては、特に「視点をもって観察・分析する力」「自ら課題を発見する力」「端的にまとめて表現する力」「体系的に捕らえて理解する力」「状況を客観的に判断する力」「学習者を適切に理解し関わる力」の力量を養成する。実習内容は、教科(総合的な学習の時間、外国語活動を含む)、道徳(人権教育を含む)、特別活動の分野及びそれら以外の場での教師の役割を多面的・多角的に理解し、学校校務分掌上の役割を把握する。これらの諸活動の参観・協働及び分析を通して、教員としての職務内容や必要な資質・能力を高めるとともに、明確な視点をもって、観察・分析し、自ら課題を発見し、次の学校教育臨床実習に生かす。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (17 今村 光章、49 各務 至、50 淀川 雅夫)	共同
実習科目	授業開発臨床実習（学校教育臨床実習）	指導内容に関する系統性や指導内容の本質に関する知識、学習指導の構想・実践・評価改善に関する知識と柔軟な授業構想・展開力の双方をバランス良く身につけるための実習を行う。特に、学校教員との協働体制に基づき、単元の目的に沿ったオリジナルな教材や調査用紙に基づく評価方法などを準備し、提案性のある単元レベルの授業を実践する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (17 今村 光章、49 各務 至、50 淀川 雅夫)	共同
実習科目	教育臨床実習（学校教育臨床実習）	以下に必要な能力開発のために、課題の分析と改善、課題を解決するための視点や方法を身につける。 1. 生徒指導・教育相談の組織運営と客観的な児童生徒情報を活用した指導をする能力 2. 特別活動に関する諸会議の組織・運営をする能力 3. 教科等の指導内容、学習指導の構想・実践・評価改善に関する知識を身につけ、実践で活かす能力 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (17 今村 光章、49 各務 至、50 淀川 雅夫)	共同
実習科目	基礎実習（特別支援学校教育臨床実習）	岐阜県内の特別支援学校等への参観を通じて、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援学校の教育や役割を理解する。連携協力校の運動会や学習発表会に参加して、教務を中心とした校務分掌の働きを教務主任からインターン的に学ぶ。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (19 村瀬 忍、33 神野 幸雄、34 鈴木 祥隆)	共同
実習科目	授業開発臨床実習（特別支援学校教育臨床実習）	学部卒業学生は、特別支援学校特有の指導形態である「教科・領域を合わせた指導」の生活単元学習や作業学習等の計画と実践・評価の実習から、児童生徒の学習支援の能力開発のための視点や方法を身に付けることを目標とする。現職教員学生は、研修部主任等に必要能力開発のために、授業実践の分析と改善、授業研究運営の実習から、授業実践の改善開発と学習支援システム構築のための視点や方法を身に付けることを目標とする。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (19 村瀬 忍、33 神野 幸雄、34 鈴木 祥隆、38 出口 和宏)	共同
実習科目	教育臨床実習（特別支援学校教育臨床実習）	学部卒業学生は、新任教員に必要な能力開発のために、特別支援教育推進のためのアセスメント、個別的教育支援計画の立案に関する実習から、児童生徒一人一人に応じた教育支援の視点や方法が立案できることを目標とする。現職教員学生は、支援部主任等に必要能力開発のために、教育支援実践の分析と改善、ケース会議運営の実習から、教育支援の改善開発と関係者と連携して課題を解決するための視点や方法を身に付けることを目標とする。 連携協力校もしくは現任校において、特別支援学校に義務づけられている「個別の指導計画」や「個別的教育支援計画」の立案と実践・評価の実習から、児童生徒一人一人に応じた教育支援の能力を身に付けることのできる実習を行う。	共同

		授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (19 村瀬 忍、33 神野 幸雄、34 鈴木 祥隆、38 出口 和宏)	
実習科目	教育行政実習（学校管理職臨床実習）	行政従事者から教育行政機関の職務内容に関するヒアリングを受け、教育行政機関の仕組みや役割についての明確な理解をする。教育行政機関が主催する事業へのインターンや、教育行政職員（指導主事等）の職責や使命感等に関するヒアリングを通して、教育行政機関が学校・園教育や福祉関係領域とどのように関わっているのかを観察、分析する。最後に、実習を通して修得した、教育行政組織の仕組みや役割、学校・園経営への支援の現状を報告会で発表し、指導、助言を得て省察する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (1 柳沼 良太、2 吉澤 寛之、3 芥川 祐征、36 棚野 勝文、37 原 尚、39 柴崎 直人)	共同
実習科目	学校経営実習Ⅰ（学校管理職臨床実習）	指定園・学校における実習を通して、管理職が、常に現状を分析し、修正を加えながら学校・園経営を進めている経営行動を理解する。具体的には、ヒアリング、シャドウイングを通して、職員指導や危機対応など、瞬時に最善の策を尽くす管理職の判断力や行動力、人間性に触れながら管理職のあり方を観察・分析する。また、異職種等において、発達段階や各施設に応じた管理職の経営理念に触れ、見識の巾を広げる。最後に、実習を通して修得した、望ましい学校管理職のあり方を報告会で発表し、指導、助言を得て省察する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (1 柳沼 良太、2 吉澤 寛之、3 芥川 祐征、36 棚野 勝文、37 原 尚、39 柴崎 直人)	共同
実習科目	学校経営実習Ⅱ（学校管理職臨床実習）	勤務校の校長（教頭）・園長をメンターとしたインターン実習、課題解決実習を通して、管理職の職務の概要把握、管理職の行動様式、資質や力量を分析するとともに、管理職に求められるコンピテンシーを考察する。最後に、実習を通して修得をした「望ましい学校管理職の在り方」を報告会で発表し、指導・助言を得て省察する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (1 柳沼 良太、2 吉澤 寛之、3 芥川 祐征、36 棚野 勝文、37 原 尚、39 柴崎 直人)	共同
実習科目	教育行政実習（特別支援学校管理職臨床実習）	実習は岐阜県教育委員会特別支援教育課にて行う。特別支援教育課長補佐（総括）をメンターとして、教育行政職による学校管理訪問、研修会・講習会に関する業務やその他の業務における推進の在り方をインターン的に学ぶ。実習を通して修得した教育行政推進に関するレポート作成をし、報告会で発表する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (35 平澤 紀子、38 出口 和宏)	共同
実習科目	学校経営実習Ⅰ（特別支援学校管理職臨床実習）	実習校は受講生のこれまでの異動・勤務状況から岐阜県立特別支援学校において岐阜県教育委員会からコアスクールに指定されている岐阜盲学校、岐阜聾学校、長良特別支援学校、岐阜希望が丘特別支援学校、岐阜清流高等特別支援学校のいずれかの特別支援学校に設定し、臨床実習を行う。実習校に指定されたコアスクールのコアティーチャーをメンターとして、これまでの学校勤務において経験のない障害種校において教育課程編成、授業開発、保護者支援などをインターン的に学ぶとともに、実習校に指定されたコアスクールの校長をメンターとして、学校管理職としての職務・資質力量さらに経営理念を学ぶ。実習を通して修得した「特別支援学校経営のあり方」のレポート作成をし、報告会で発表する。 授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (35 平澤 紀子、38 出口 和宏)	共同

実習科目	学校経営実習Ⅱ（特別支援学校管理職臨床実習）	<p>実習は勤務校にて行う。学部主事をメンターとして、特別支援学校における管理業務について、学校長による学校課題を受けてインターン的に学ぶ。実習を通して修得した学校管理に関するレポート作成をし、報告会で発表する。</p> <p>授業は全15回を以下の教員が共同で行う。 (35 平澤 紀子、38 出口 和宏)</p>	共同
------	------------------------	--	----

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。